SQUARE ENIX

ドラッグ オン ドラグーン

DRAG-ON DRAGOON

公式設定資料集 The Materials




DRAG-ON DRAGOON
公式設定資料集
— The Materials —

DRAG-ON DRAGOON™

ドラッグ オン ドラグーン

公式設定資料集

— The Materials —

CONTENTS










フリアエの歌は
何を語るのか…
紅い夜　鳥眠る
夢の窓　青空映す
わらべ唄　口ずさみ
漫ろゆく　草原を
祈りは　貴方の面影やどし
魂彩る　想いを運ぶ
翼を生やし　愛から逃げて
天使が割った奇妙な皿の上で燃えて
尽きる
黒い朝　時間告げる
汚れ血よ　森遥れ
闇を掘る　どこまでも
辿り着く　断頭台
祈りは　貴方の面影やどし
魂彩る　想いを運ぶ
翼を生やし　愛から逃げて
天使が割った奇妙な皿の上で燃えて
尽きる

愛

毒

第一章

art gallery

夢幻

夢やまぼろしのようにはかないこと

「ドラッグオンドラグーン」の世界を表現する華麗なイラストの数々をここでは掲載する。一匹の竜と一人の人間が駆け抜けた世界のすべてを感じ取って欲しい。

紅き血

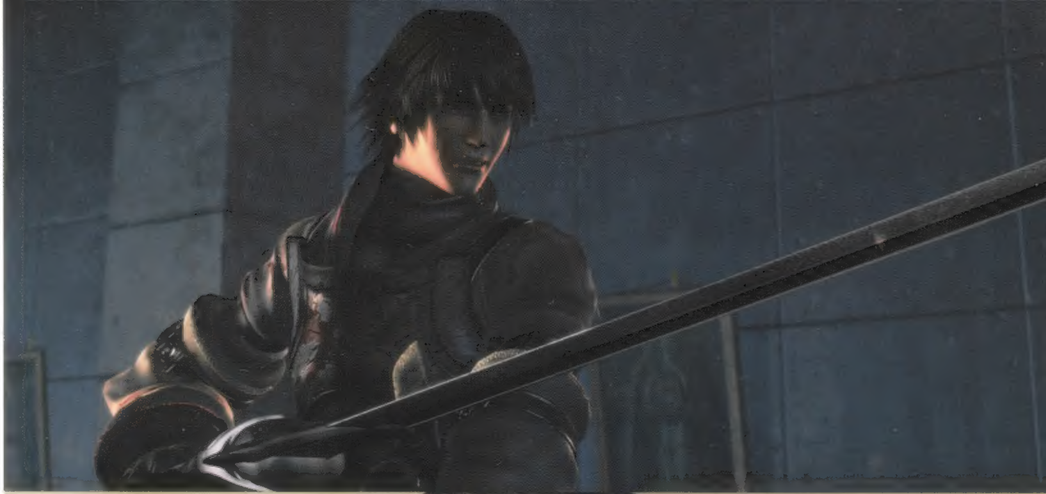




カイム イメージイラスト









カイム CGイラスト

カイム契約シーン イメージイラスト





フリアエ
CG イラスト

フリアエ イメージ イラスト





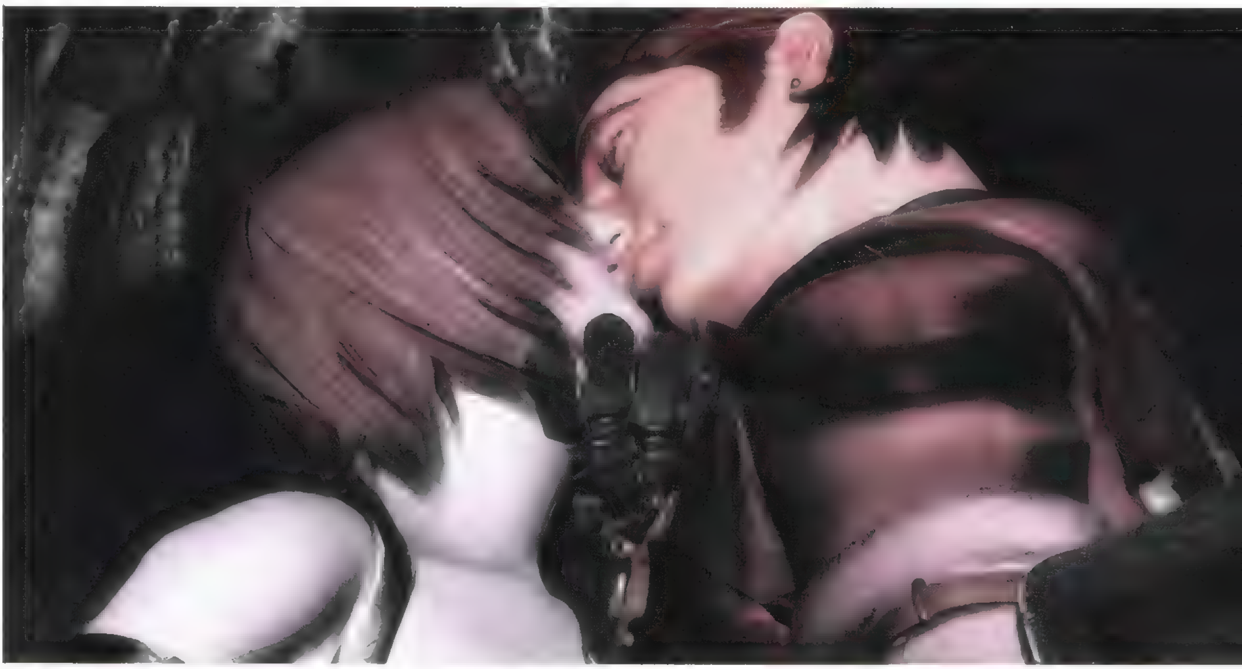


イウヴァルト 洗脳シーン イメージイラスト



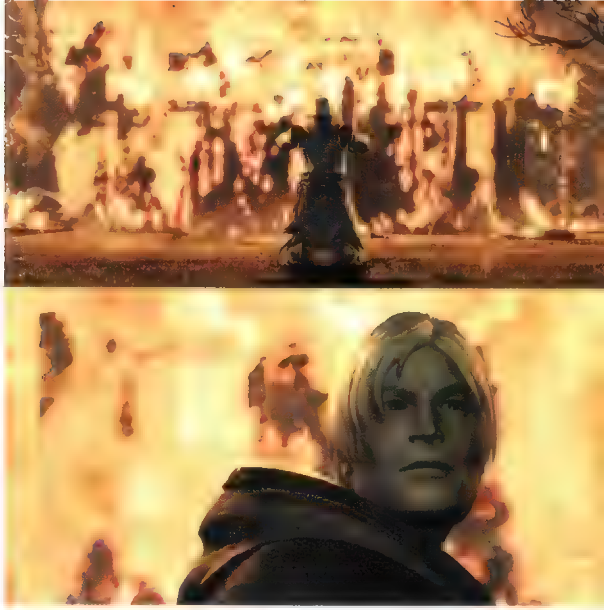
イウヴァルト CGイラスト











レオナール CGイラスト

レオナール契約シーン イメージイラスト







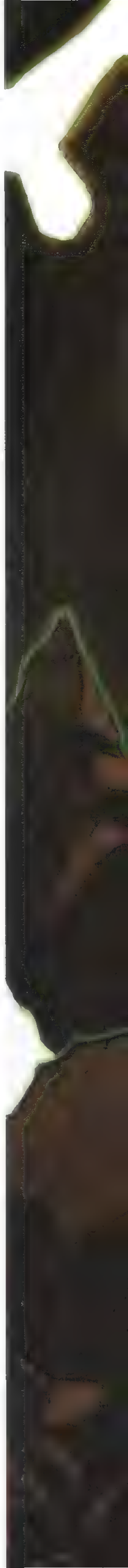
アリオーシュ契約シーン
イメージイラスト



アリオーシュ CGイラスト



セエレ イメージイラスト



セエレ CG イラスト











ヴェルドレ CGイラスト



ヴェルドレ イメージイラスト





マナ イメージイラスト

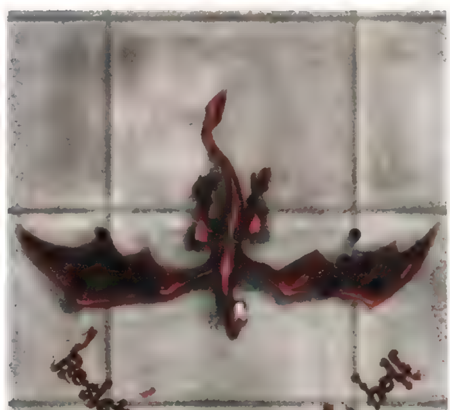


マナ CGイラスト

マナ イメージイラスト







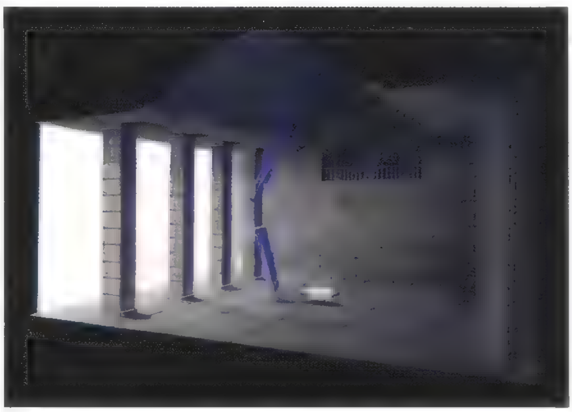
カイム＆レッドドラゴン イメージイラスト



カイム&レッドドラゴン イメージイラスト



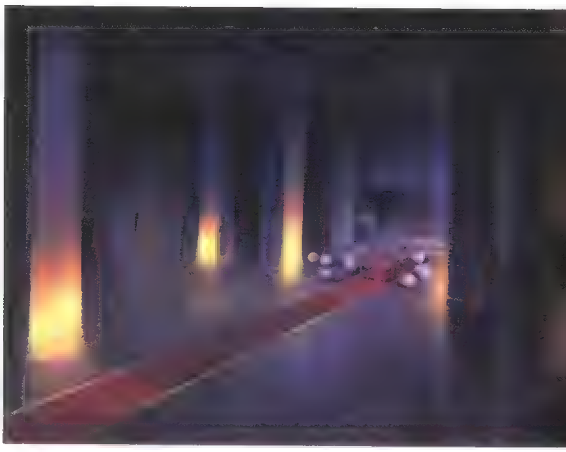






1…空中要塞
2…レオナールの家
3…空中要塞・祭壇
4…空中要塞・内部奥地









5…帝国都市
6…帝国都市祭壇
7…帝国都市郊外
8…帝国都市内部



カイム&イウヴァルト イメージイラスト

カイム&アンヘル&フリアエ&イウヴァルト イメージイラスト



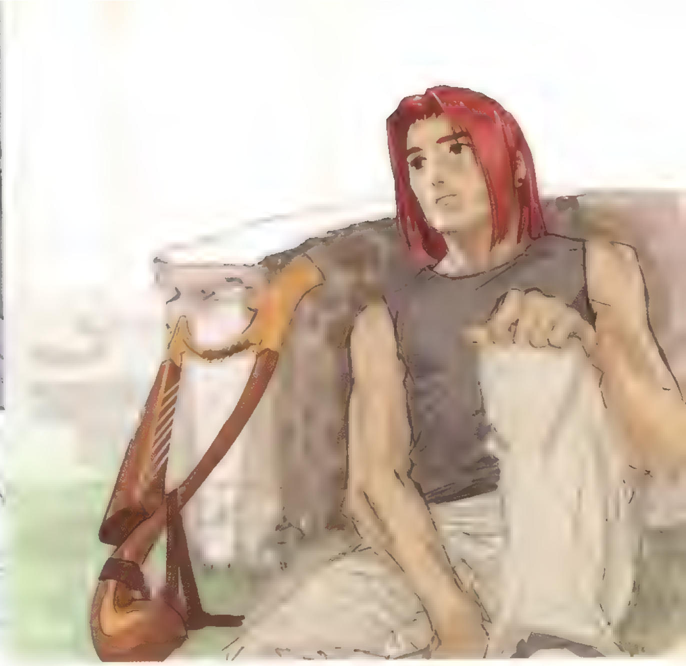


DRAG ON DRAGOONイメージカット
雑誌用イラスト



DRAG ON DRAGOONイメージカット
書籍用カバーイラスト





カイムとフリアエinこたつ イメージイラスト

イウヴァルト イメージイラスト





フリアエ
オリジナルサウンド
トラック用
ジャケットイラスト

セエレとマナ
イメージイラスト



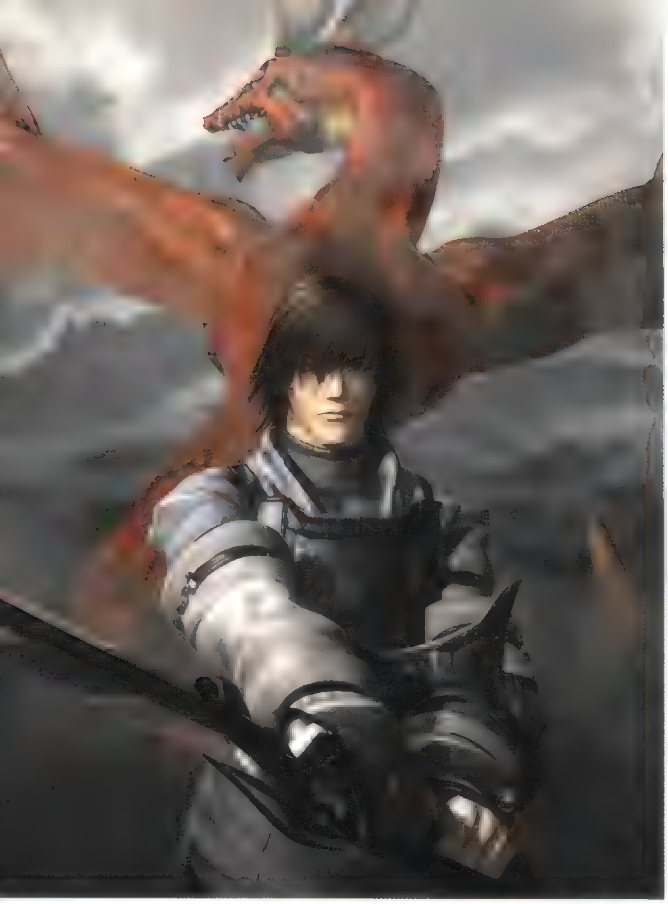


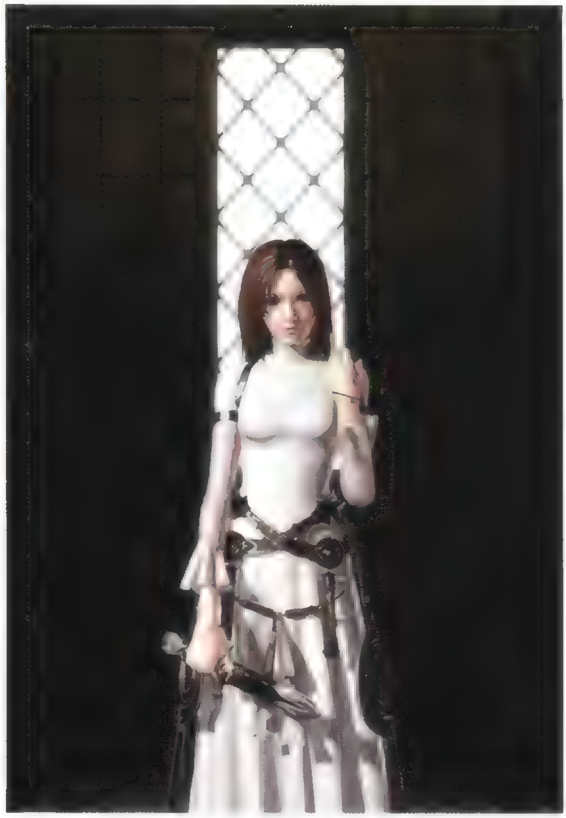


カイム＆レッドドラゴン　イメージイラスト







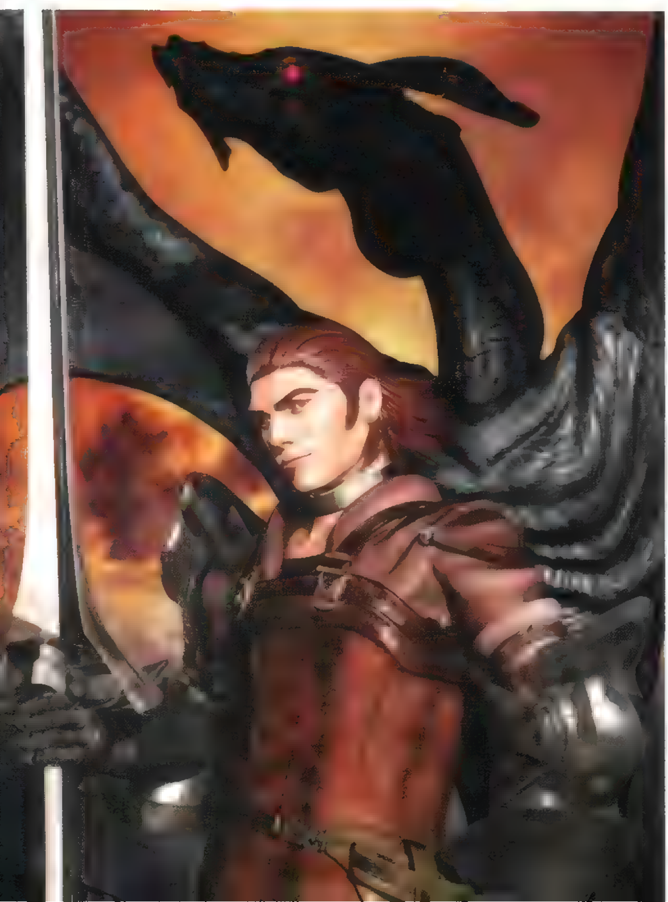


カイム CGイラスト

フリアエ CGイラスト

イウヴァルト CGイラスト

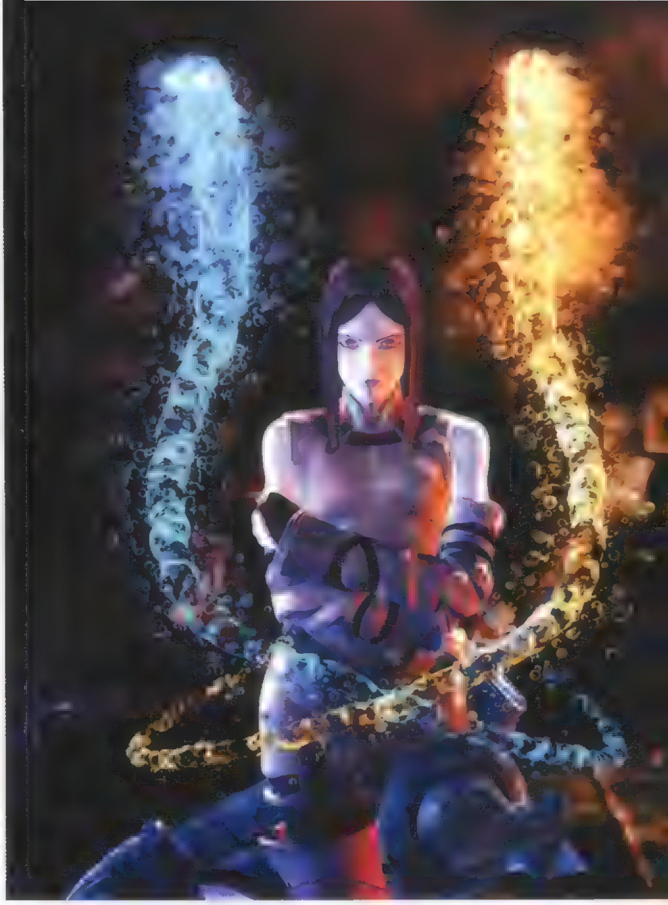
ヴェルドレ CGイラスト







レオナール CGイラスト



アリオーシュ CGイラスト

マナ CGイラスト



セエレ CGイラスト





女神フリアエ CGイラスト

第二章
character

将星

大将になぞらえる星

　復讐のために戦い続け、逃れられない運命に苦しむ、絶望を背負って生き、自我を失い叫ぶ……。様々な運命を背負った「ドラッグオンドラグーン」の登場人物をここでは語ろう。

Caim
カイム

wings of revenge flutter
high up in the heavens,
and will outlive.





Profile

性　別：男性
年　齢：24歳
身　長：182cm
職　業：連合軍[illegible]
契約対象：レ[illegible]
Voice：池畑慎之介

心の深淵







† 契約紋章

契約の代償は「声」。契約後一切話すことができなくなった。紋章は舌に浮かび上がっている。

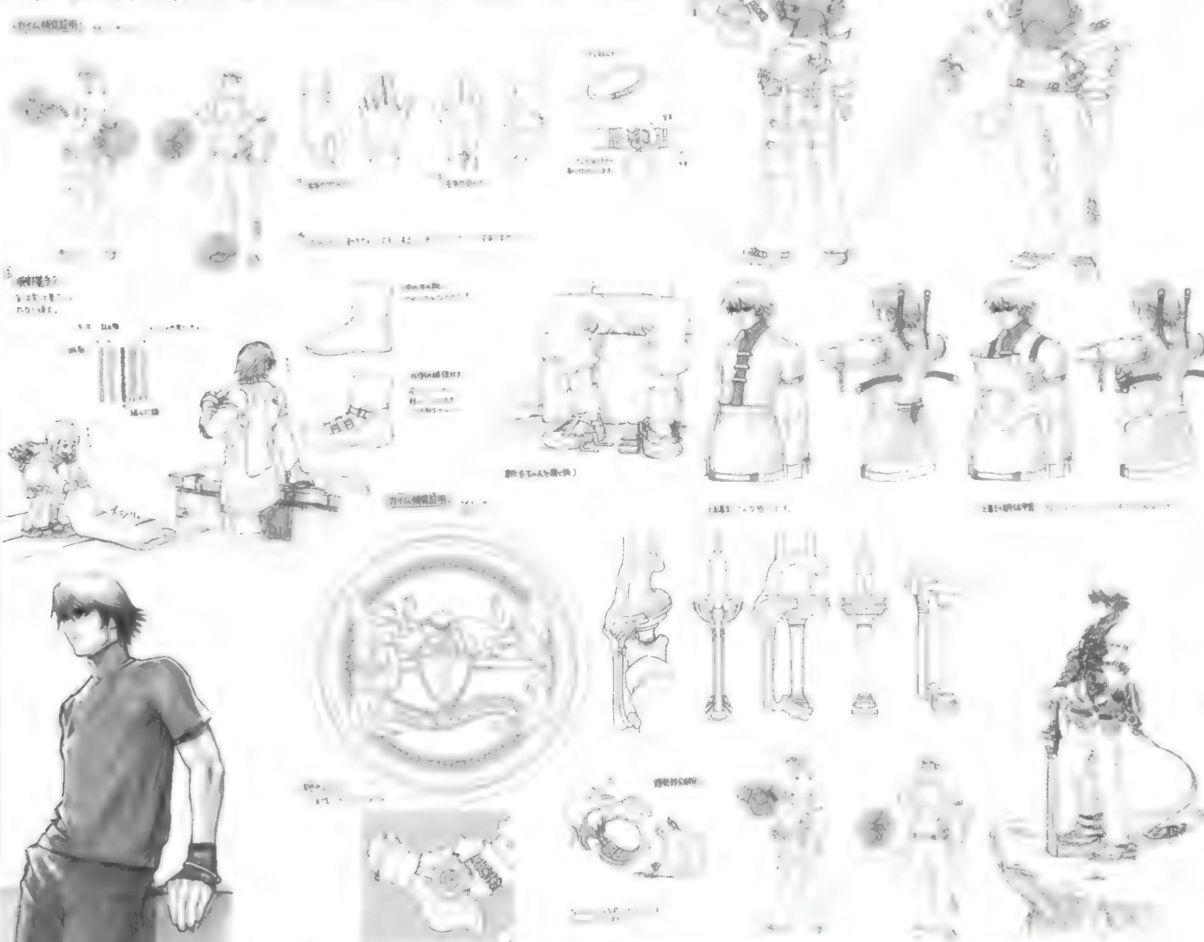
† 契約対象

レッドドラゴン

強靱で気高い生物の頂点に立つ存在。城で命を落としかけたが、カイムと契約することで再び強大な力を取り戻した

† 設定ラフ

腕を守る小手には連合帝国軍旗をかたどったプレートが刻まれていることがわかる。右手に付けているブレスレットはフリアエとおそろいのもの





† 表情集



Furies

フリアエ

a prayer of a woman
turned into a stake flows
a path of blood to the end

杭となりし女の祈りは血の道をどこまでも流れていくだろう

カイムの妹。イウヴァルトの元許嫁。現女神。カイムと旅に出た直後体に「オシルシ」が現れ、俗世間と拒絶された女神の生活を余儀な[illegible]女神の城が帝国軍に襲撃され、[illegible]ルトと[illegible]







Profile

性　別：女性
年　齢：19歳
身　長：165cm
職　業：女神
Voice：初音映莉子

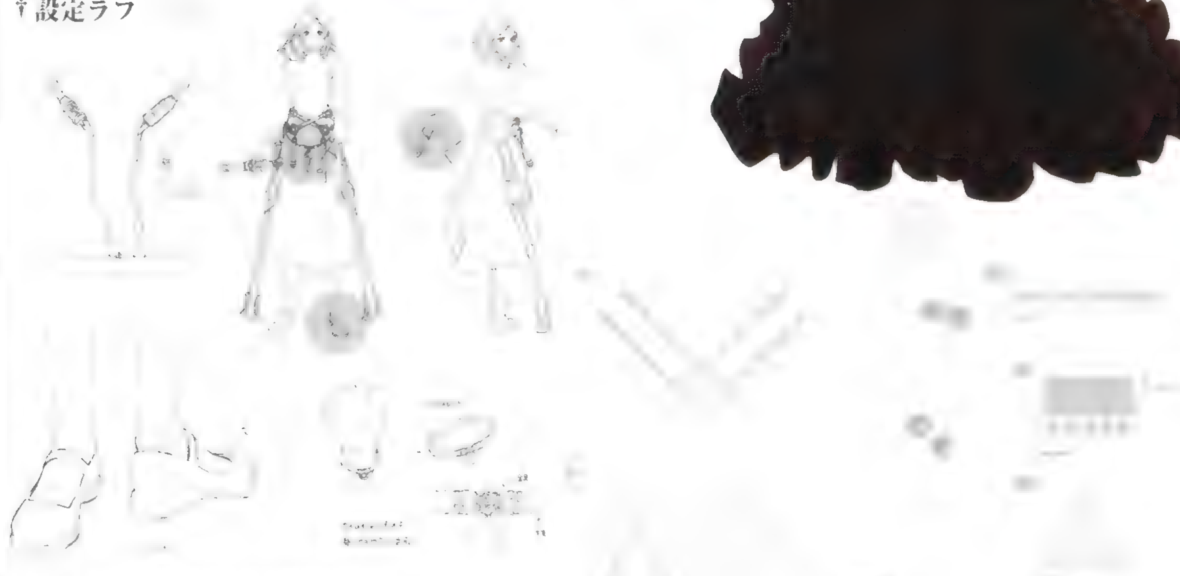
心の深淵

イウヴァルトとの恋[illegible]

神だからしょうがない…
ョウガナイ…[illegible]
ハ…ニイサンガス[illegible]



† 設定ラフ



[illegible]

† 表情集



Inuart

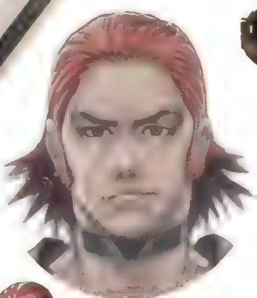
イウヴァルト

a canary having no spirit of sharing, will kill time

カナリアは分かち合う魂を持てず、喉をつぶしてしまうだろう

カイムの幼馴染みであり、[illegible]嫁。聴く者の魂を[illegible]ハープの腕と美声の持ち主。[illegible]人は兄妹のように育てられ、幸福な日々が続[illegible]。しかし、彼には[illegible]葉にできない一つの思いがあ[illegible]。それは[illegible]アエがカイムに寄せるあまりにも深い愛情に対する嫌悪感[illegible]……。数年後、[illegible]は女神となり、帝国軍に追われる日々を送る。そんな彼女を何[illegible]であげたい……カイムではなく[illegible]……イウヴァルト[illegible]想いは果てることなく続[illegible]





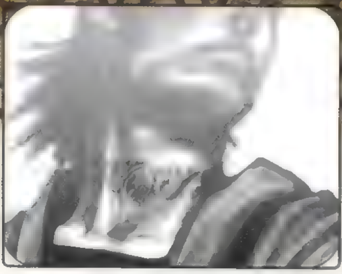


Profile

性　別：男性
年　齢：20歳
身　長：190cm
職　業：貴族（兵士
契約対象：ブラックドラゴン
Voice：唐沢寿明

心の深淵

自分だけの女[illegible]は例え親友て[illegible]





† 契約紋章

ブラックドラゴンとの契約で支払われた代償は、歌声。紋章は声を発する首に浮かび上がった。

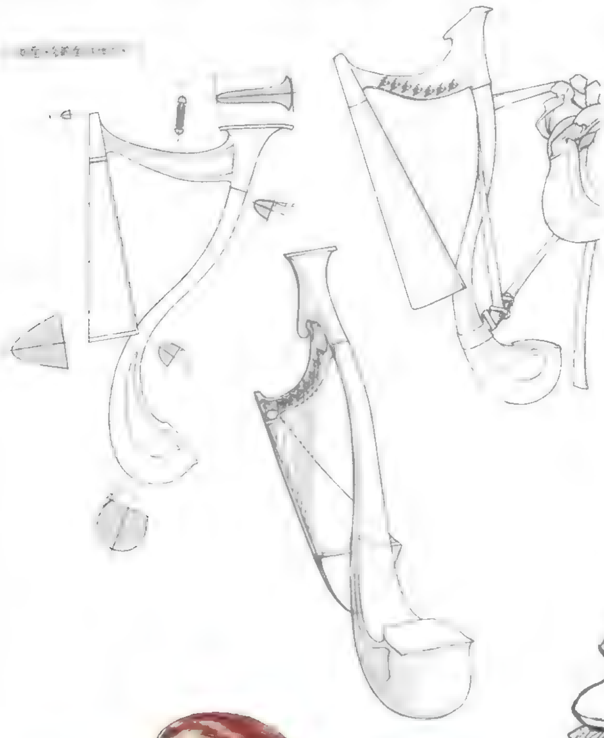
† 契約対象

ブラックドラゴン

ドラゴン族の中で一番凶悪なドラゴン。イウヴァルトはどういった経緯で、この凶悪なドラゴンと契約を行ったのであろうか?

† 設定ラフ

優しい笑みを浮かべながらハープを奏でるイウヴァルトの様子が描かれている。彼の奏でるハープの音と歌声をフリアエは深く愛していた。





† 表情集



Leonard

レオナール



a tender hawesy, a thon gets stuck on it's infirmity and will grow it away.

やさしき異端、トゲがその弱さに刺さり蝕んでいくだろう

[illegible]



Profile

性　別：男
年　齢：32
身　長：183cm
職　業：隠者
契約対象：フェア
Voice：山寺宏

心の深淵

[illegible]







† 契約対象

フェアリー

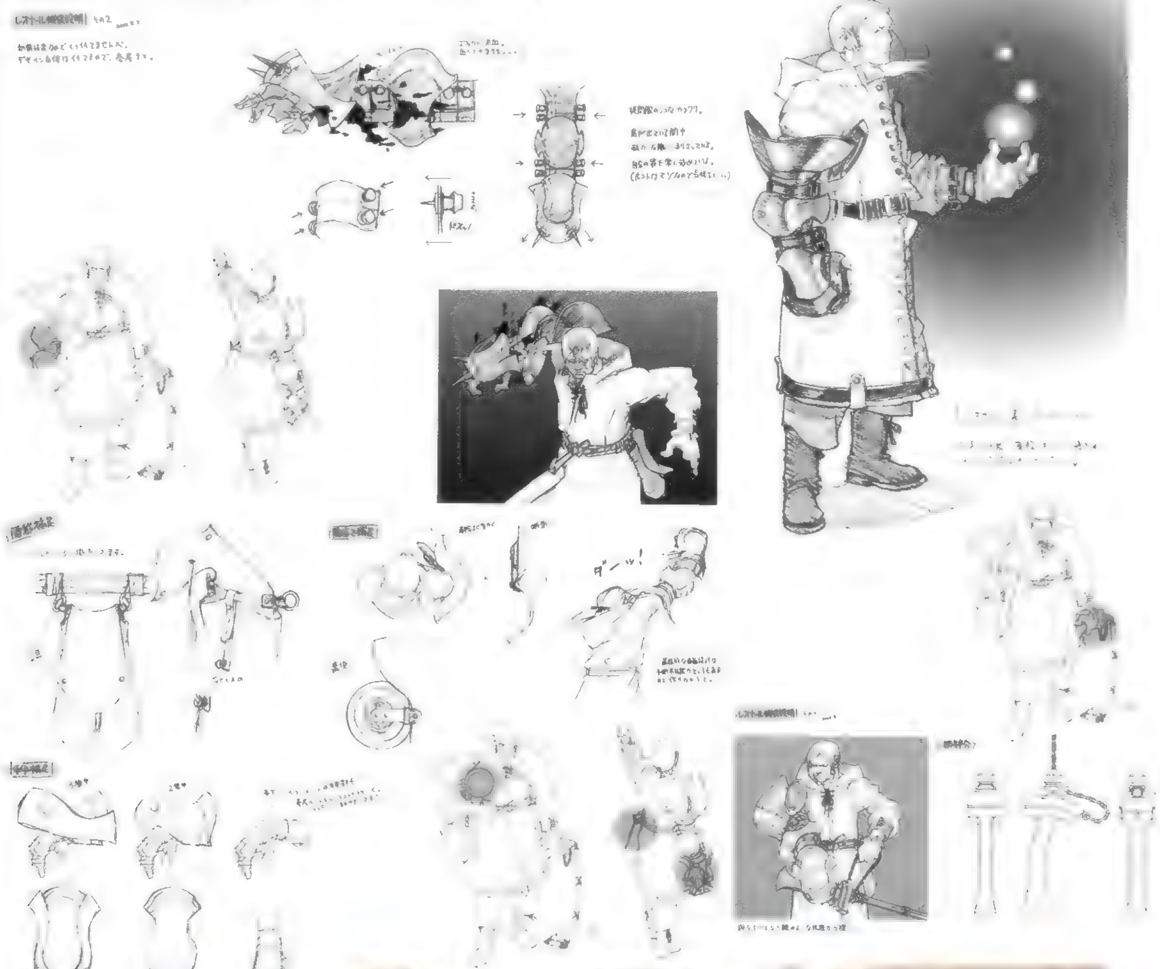
とても小さな可愛らしい悪戯好きな妖精…だが、その性格は醜悪相手に皮肉を言ったり、罵ることに快感を覚える厄介者である

† 契約紋章

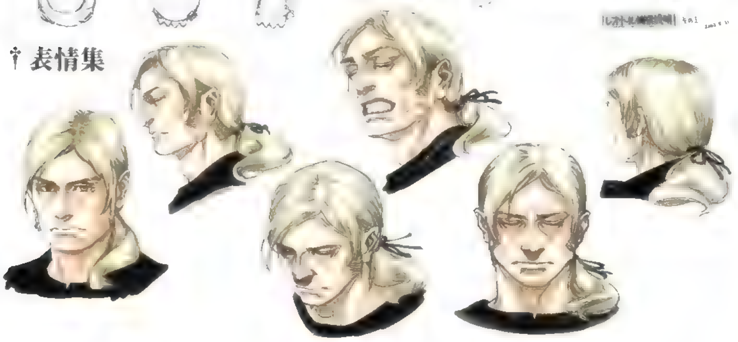
フェアリーとの契約で支払われた代償は両目の視力である。だが契約後は物の本質を見極める力を手に入れた。

† 設定ラフ

右腕全てを覆うように装着された鎧は防御だけでなく、手首部分から突出する二本の棘で攻撃にも転じることができるようだ。



† 表情集





Arioch

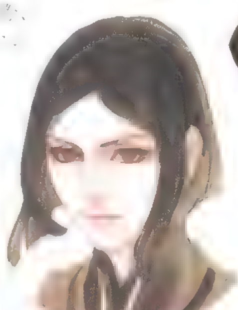
アリオーシュ

A WOMAN COVERING HER EARS
WILL CHERISH INSANITY ON
BEHALF OF HER CHILD

耳を隠す女は我が子のかわりに混乱を抱くだろう

[illegible] 24歳 [illegible]
国軍に愛する [illegible]
病んでいる [illegible]
な民族だが、[illegible]
で乱暴な性格 [illegible]
[illegible]







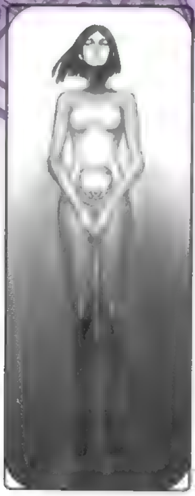


Profile

性　別：女性
年　齢：24歳
身　長：175cm
種　族：エルフ
契約対象：サラマンダー・ウンディーネ
Voice：林原めぐみ

心の深淵

[illegible]





† 契約紋章

サラマンダー、ウンディーネと交わした契約の代償は子宮である。腹部に大きな紋章が浮かんで





† 契約対象

サラマンダー
ウンディーネ

サラマンダーは威厳の溢れる炎の精霊　ウンディーネは精錬とした女性を想起させる水の精霊。彼らは常に対で行動する。

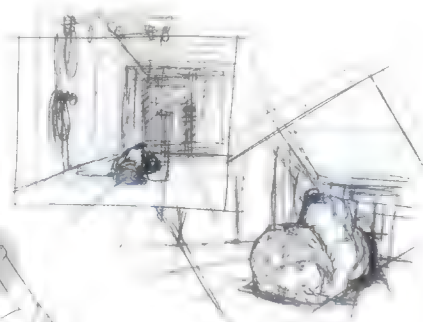
† 設定ラフ

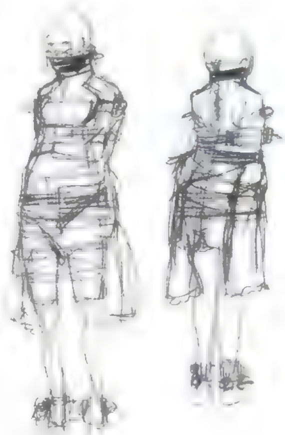
アリオーシュの持つ武器の名は「哀しみの棘」。まるで彼女の人生を表すかのような悲しい名前ではないだろうか…

アリオーシュ武器補佐









† 表情集



Seere

セエレ

a weaking in an solitude will pass over maternal affection

永遠の孤独を持つ弱き者は母の愛を見過ごしてしまう—

金色の髪の毛が美しい双子の兄。母からたっぷりと愛情を受けて育てられた優しい子。そんな彼が今でも悔やんでいるのが、自分とは逆に母に虐待され続けた、双子の妹マナを助けてあげられなかったことだ。本来ならば契約者になるほどの心の歪みは持ち合わせていないが、母親の意志により、自分の成長する時間と引き替えにゴーレムと契約を交わした。雪の荒野でカイムたちと出会い、生き別れになった妹のマナを探す旅に出る。









Profile

性　別：男性
年　齢：6歳
身　長：110cm
契約対象：ゴーレム
Voice：村上想太

心の深淵

母さんが僕一人を愛していたことを謝りたい。マナに会って謝りたい。

謝ったところで何か変わるだろうか？永遠の子供にはわからない。





† 契約紋章

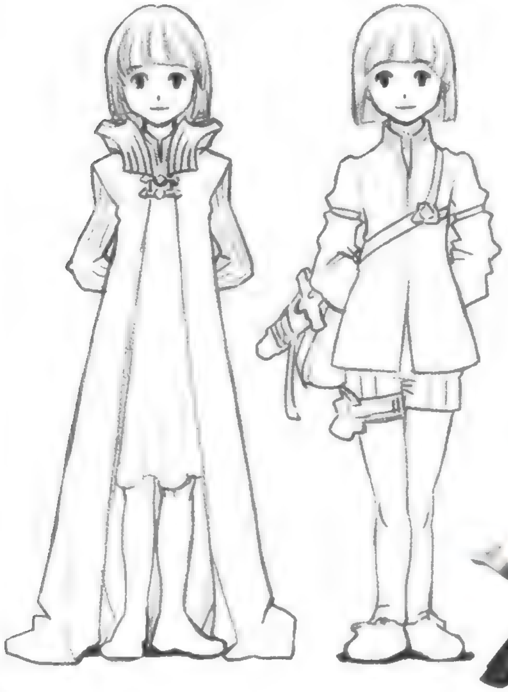
ゴーレムと契約をかわした代償は時間。紋章は体を包み腕にまで現れている。



† 契約対象

ゴーレム

ただの土塊の怪物。でもセエレと契約したゴーレムは哀しみを感じる能力を持っていたようで、セエレとは友達のように接する。

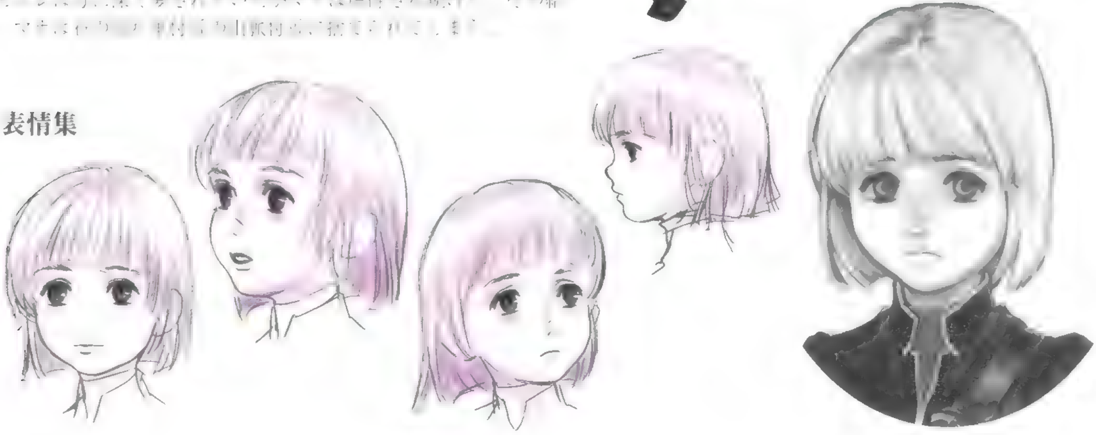




† 設定ラフ

[illegible]

† 表情集



Verdelet

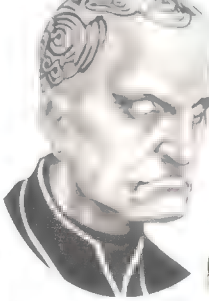
ヴェルドレ

those captivated by discipline value innocence excessively, so that they will approch a miracle of hell.

規律の虜は潔白を重んじるあまり、地獄の奇跡に近づくだろう



[illegible]





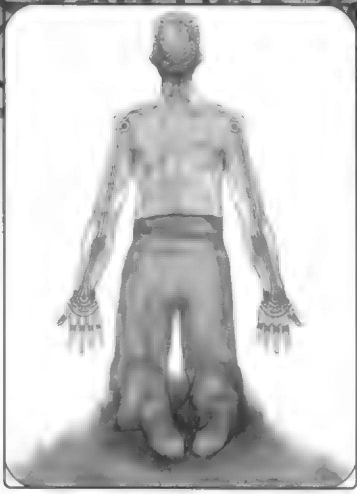


Profile

性　別：男性
年　齢：72歳
身　長：178cm
職　業：神官長
契約対象：[illegible]
Voice：家中宏

心の深淵

[illegible]





† 契約紋章

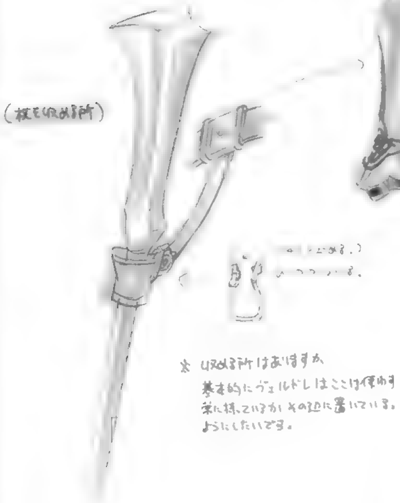
石化したドラゴンと契約を交わした代償は毛髪　紋章は頭から背へそして両腕にまで及んでいる

† 契約対象
石化したドラゴン

[illegible]化したドラゴンの正体は、伝説の存在とま[illegible]である
[illegible]ドラゴンは世界に何匹も存在[illegible]

† 封印能力について

破られた封印の修復能力を持っている
ちなみ[illegible]





† 設定ラフ

[illegible]ルドレの衣服の下は包帯が何重にも厚く[illegible]怪我をしているのか、古傷が痛むのか？　この傷[illegible]

† 表情集



Manah
マナ

a fruit of evil begs for
love and it grows.

悪の実は愛を乞い、大きくな[illegible]



[illegible]双子の[illegible]。母親に虐待を受け[illegible]、
[illegible]彼女を[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]降り[illegible]。[illegible]以降、[illegible]天使の教
会[illegible]教[illegible]信者を[illegible]、
神秘的な「天使の教会」の教義を世に[illegible]
いく。教祖[illegible]は人の[illegible]部分を見抜き、
そこを容赦なく責め[illegible]。それは子供[illegible]
残酷[illegible]





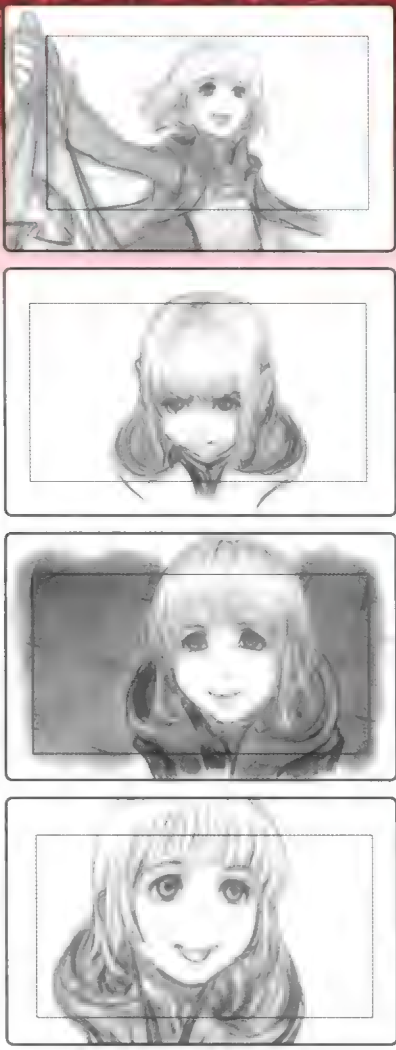


Profile

性　別：女性
年　齢：6歳
身　長：110cm
職　業：教祖
Voice：郷里大輔
山下夏生

心の深淵

[illegible]

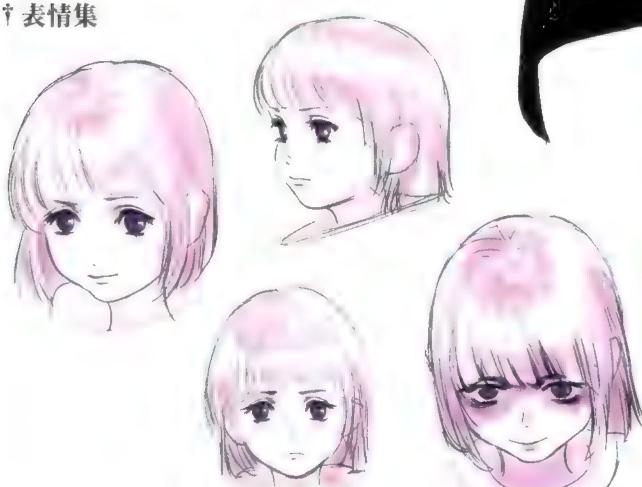




† 設定ラフ

黒いローブの下は全身に赤い衣服をまとっている。上のコンテ画ではマナの珍しい笑顔が描かれている。

† 表情集



† セエレとの関係

母に溺愛されたセエレと、母の愛を知らず母と神を重ねるマナ。この二人の共通点は母の愛情である。もし二人が平等に愛を受けていたならばこの世界はどうなっていたのだろうか…？



Red Dragon

レッドドラゴン—アンヘル

hands of the lord will be sworn by the apples on the other side of the styx∴

主の御手は遠き彼方にある林檎に揺さぶられることだろう

ドラゴン族の中でも、スタン[illegible]な部類に入るドラゴン。ドラゴン[illegible]本の角と、鋭い牙、堅固な鱗、大きな翼を持ち、口からは灼熱の炎を吐くあらゆる生物の頂点に立つ存在だ。大変誇り高く他の生物を軽蔑し、見下している感もある。だが、一匹のレッドドラゴンはカイムと契約を交わした。命[illegible]ドラゴンとカイムの生への執着が、奇跡のような契約を成立させたのである



† 第二形態



† 第一形態

Profile

性　別：雌(単一性)
年　齢：10000歳(正確には不明
Voice：ビーター



† カオス形態

† 第三形態



ドラゴン族の中で一番凶暴な性格をしたドラゴン。その能力はレッドドラゴンと同等かそれ以上である。ブラックドラゴンは人間を好んで食する。その昔カールレオンという町を襲い生ける者すべてを食い尽くした。カールレオンはカイムの故郷である。そんなブラックドラゴンとカイムの親友イウヴァルトは契約を結んでしまう。女神への復讐か……。そんなことは、ブラックドラゴンにとってはどうでもよいことなのかな……



Profile

すべてが謎

Black Dragon

ブラックドラゴン

Fairy

フェアリー

a flower under the name of thorn has a faith named poish

棘という名の花は毒という名の誠実さを持つだろう―

Voice：宮村優子



封印されし森に住む小さな妖精。背中から光を発することができ、それが人間の目には羽に見える。フェアリーたちが集団で木立を通り過ぎてゆく様は「光の雨が降る」と表される。見た目の可愛さと相まって性格は極めて醜悪。他の種族にあまり関心がないが、仮に接する機会があったとしても、一方的に罵られ小馬鹿にされてしまうだろう。レオナールとの契約も、彼の歪んだ本質を見抜いて興味本位でしたものと思われる。







† 妖精族の王

一見威厳がありそうだが、フェアリーの本質は変わらない。皮肉が好きで完全に人間を馬鹿にしている。

Voice：麦人

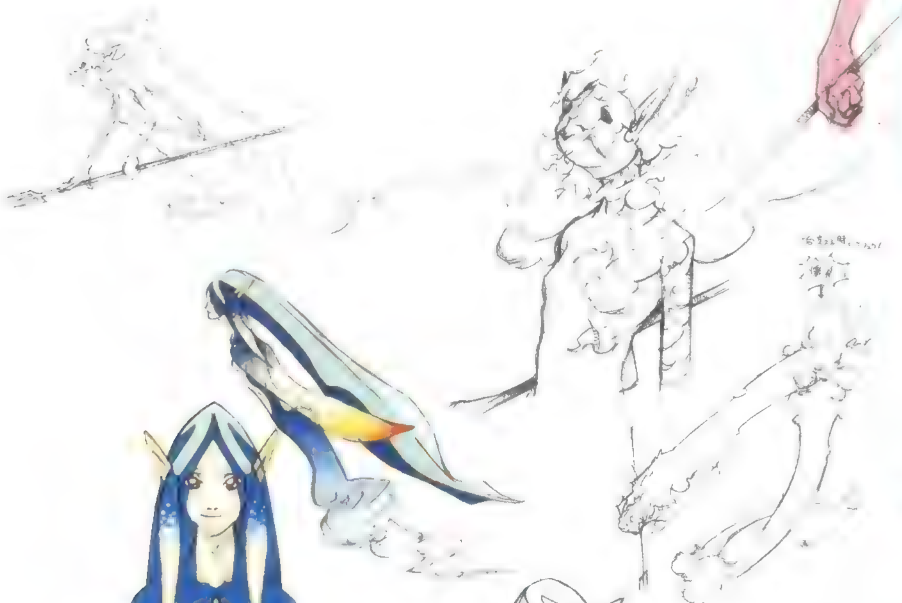
Salamander

サラマンダー



searing scarlet wrestles a capricious man
to the ground, and plaster words on word.

—熱き緋色は徒人を組み伏せ、言葉の上に言葉を塗り重ねるだろう—





サラマンダーは火を司る精霊で、水を司る精霊ウンディーネと常に行動を共にしている。サラマンダーは厳格な男性の口調で、ウンディーネは清逸な女性の口調で物を話す。アリオーシュが捕虜留置所の中で凄まじい「生」への執着をみせたとき、二体の精霊は契約を承諾した。一般的にサラマンダーは火蜥蜴、ウンディーネは水塊と認知されているが「DOD」の世界ではどちらも人間に近い形をとって人間たちの前に現れている

Undine

ウンディーネ

flowing coloress will wepetually leon
one's word against the other side.

—流れる無色は己の言葉をたえず他方に立て掛けるだろう—

Golem

ゴーレム

dull soul will bi fulfilled by tears of a weaking in an etertal soltuide.



鈍重な塊、永遠の孤独を持つ弱き者[illegible]されるだろう

Voice：楠見尚己



本来ゴーレムは知能も思考能力もない石の塊にすぎないのだが、セエレと契約したゴーレムだけは「哀しみ」という感情を感じる能力を持っていた。それがセエレが抱える心の哀しみと同調し契約に至ったのだ。他の契約者は人間の弱みにつけ込み、有利な立場をとりつかるが、このゴーレムだけはセエレと友情という感情をはぐくんでいる。そしてまた、どんなときもセエレを守る石の騎士でいることだろう。



Goddess

女神 フリアエ

a woman turned into a stake will dominate the world on the blazing plate.

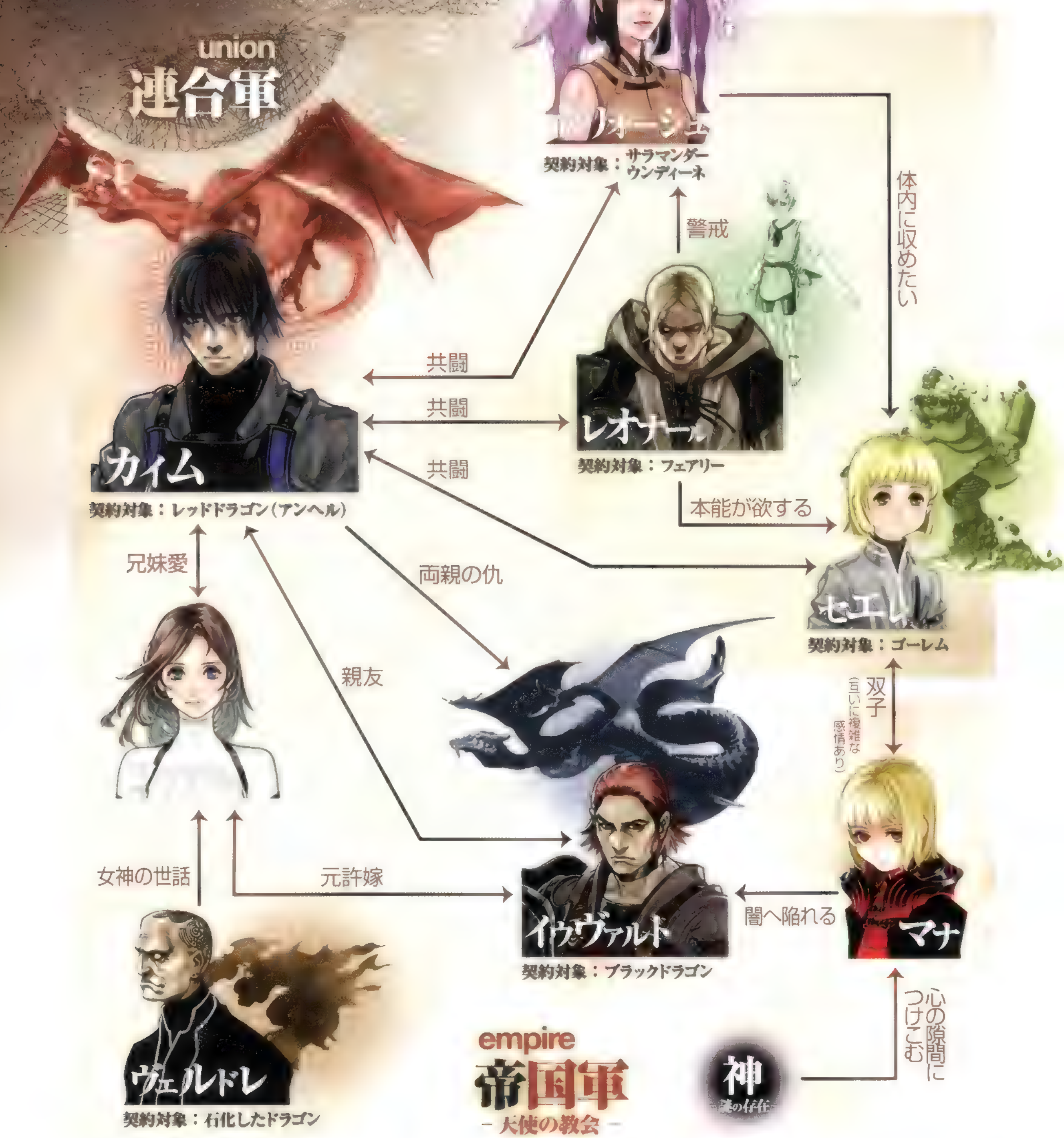
杭となりし女、発火する皿の上で世界を握るだろう



[illegible]フリアエを蘇らせようとしたイウヴァルトが、彼女を再生の卵の中へ託した結果、この世に出現した人間殲滅兵器。4枚の大きな羽を持ち、竜のような尾を[illegible]る。この生物は神が世界を再構築すべく創造した物と思われる。他の再生の卵からも同形の生物が誕生したことから、再生の卵が「世界の滅亡から人間を守る装置」との説は完全に否定された。この時点で人間はただ殺戮兵[illegible]



人物相関図 &
キャラクター対比図





第三章

world

眺望

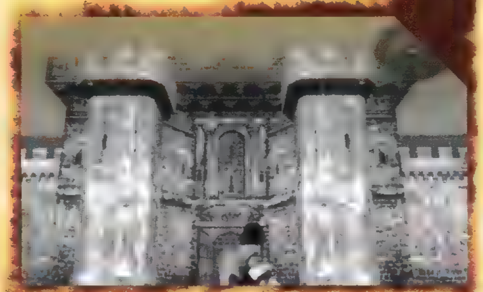
物事をながめること

物語の舞台となる世界「ミッドガルド」。連合軍と帝国軍が争うこの大地にはさまざまな土地が存在している。ここでは物語の中で訪れることになる12の場所を紹介しよう。

World of Drag On Dragoon



女神の城 map 1



女神フリアエの住む城。ゲームのスタート地点でもある。この城でカイムとアンヘルは運命的な出会いをした。

封印の森 map 2



フェアリーたちの住む森。現在は帝国軍の駐屯所が建設されてしまっている。

静かな森 map 3



女神の城から東に位置する、エルフたちの住む森。深い霧が立ちこめている。

月の砂漠 map 4



世界に3カ所ある封印の地の一つ。岩山と砂漠が広がるもの悲しい大地。

map 5 海の神殿



世界に3カ所ある封印の地の一つ。海上に建設された神殿である

map 6 雪の荒野



独特の赤い山岳地帯と雪の降り積もる大地の二つに分かれている

map 7 青き丘陵



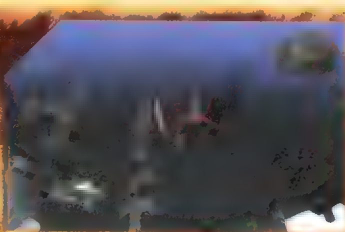
広大な緑の大地で、低い丘が点在している。特にこれといった重要拠点はない

map 8 紅き岩山



自然の力で複雑にえぐり取られた岩山が連なる厳しい土地。山奥にはコロシアムがある

map 9 空中要塞



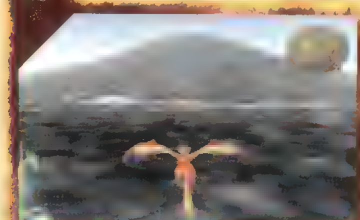
帝国軍が作り出した空中要塞。併せ貝のような独特の姿をしている

map 10 帝国都市



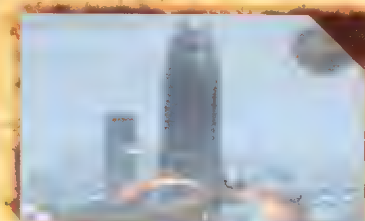
女神の城と対極の位置する破壊された都市。帝国軍の拠点となる場所。

map 11 海上要塞



帝国軍が女神奪取のために編成した海上部隊の拠点

map 12 新宿



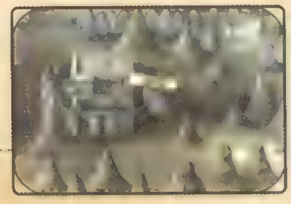
カイムの住む世界とは別次元に存在する世界。高度な文明が発達している。

― 連合軍と帝国軍の二大勢力が争う大陸ミッドガルド ―

森、山脈、海、砂漠、肥沃な丘と大自然に富んだミッドガルドの大地。それらの場所には人間、妖精、亜人、獣など様々な生物が暮らしている。今この大陸で大きな戦争が起きている。それも世界が滅亡するかどうかが懸かった大戦争である。「天使の教会」率いる世界の封印を破らんとする帝国軍。かたや女神を守り世界に平定を戻そうとする連合軍。この二大勢力がミッドガルド大陸全土で戦いを始めたのである……

女神の城
The castle of Goddess

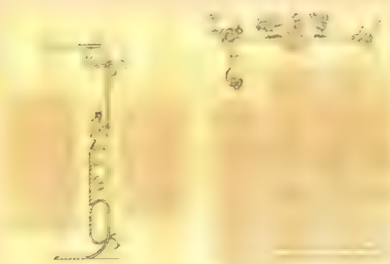
関連章　第一章「源流」



連合軍の重要拠点であり、現女神フリアエが住む城である。城の周囲は乾いた大地が広がり、東側には山脈地帯が広がっている。城自体は大切な女神を守るためか堅固な造りとなっており、深い堀と高い城壁に囲まれている。城内部は迷路のように複雑な造りとなっているが、これは城内に女神を狙う者が侵入した際に足止めをするためである。このように幾重もの壁で守られた城だったが帝国軍の侵入を止めることはできなかった。

女神が住む連合軍の居城





帝国兵が潜む陰惨な森



フェアリー族が住むと言われている森。フェアリーたちは森に身を潜めているため、その姿を見せることは少ない

場所的に女神の城を攻めやすいということからか、現在、帝国軍の重要拠点となっており、兵士たちが身を置く駐屯所が建設されている。この駐屯所には一般兵の他、まだ成人に満たない少年兵も多く常駐している。ただし少年兵たちも「天使の教会」の洗礼を受けており、その目は紅に染まっている



封印の森
Wood of a seal

関連章　外伝「レオナールの飢」

静かな森 Quiet forest

関連章　第二章「交錯」

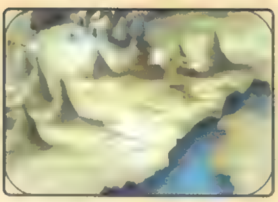




エルフたちの
争いのない森

永世中立を誓うエルフ族の住む森。別名「エルフの森」。中心地には深い渓谷があり、その渓谷から発生する霧が森に立ちこめ侵入する者を時折惑わす。

戦いを嫌うエルフたちだったが、海の神殿の封印解除に、エルフたちの力が必要と知った帝国軍の手によって占領されてしまう。女神の城を追われたカイムたちが到着した時点で、すでに帝国軍が森に侵入していたため、カイムと帝国軍の戦闘の場となってしまった



月の砂漠 The desert of the moon

関連章　第二章「邂逅」

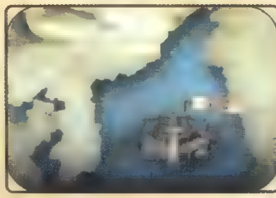


世界に三つ存在する「おおいなる時間」を守る封印のある地。岩山と岩山の間の広大な大地がすべて砂漠となっており、砂漠の神殿以外の建造物はほとんど存在しない

帝国軍の捕虜収容所があり、そこには帝国に逆らう者はもちろん、「天使の教会」の洗礼を受けられなかった者（赤い目にならなかった者）が収容されている。契約者の一人アリオーシュも、エルフの森の襲撃で捕らえられこの捕虜収容所に入れられていた

封印の一つが祀られた
砂漠の地





海の神殿

A marine shrire

関連章　外伝「アリオーシュの奇」

海上に浮かぶ封印の一つ

月の砂漠の南の海に建造された神殿。世界に三つ存在する封印の一つ。神殿の周囲には文明を感じさせる建造物は何もなく、時折波の間から顔を出す岩礁がある程度。普段はめったに人が近寄らない場所なのである。

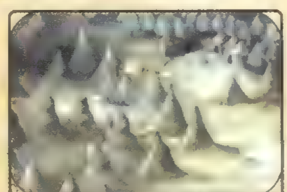
カイムたちがこの神殿を訪れた際は、帝国軍がさらった幼子たちの死体が神殿周辺に大量に浮かんでいて、海が血で真っ赤に染まっていた。それを見たアリオーシュはひどく精神を乱し錯乱状態に陥ってしまった。



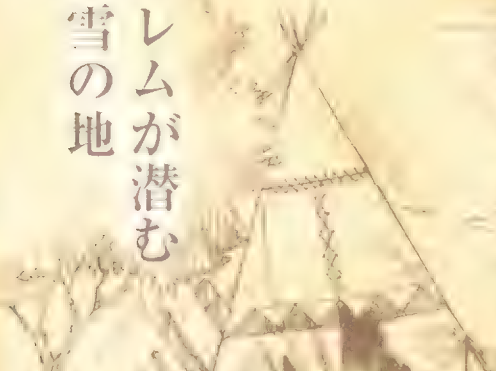
雪の荒野

A snow wilderness

関連章　第四章「背反」



ゴーレムが潜む岩と雪の地





険しい岩石地帯と雪の降り積もる荒野で構成された不思議な大地。雪の降る荒野は岩石地帯に囲まれた辺境地で「石の隠れ里」と呼ばれ、少数の人間たちが逞しく暮らしている。

石の隠れ里から東にある山脈地帯は、氷河による浸食からまるで迷路のような複雑な地形をしており、一度足を踏み入れた者はなかなか戻ってくることができない。また、ここにはゴーレムと呼ばれる岩と土でできた魔物が住んでいると言われている。

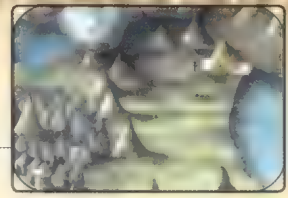
穏やかな青き台地が血に染まる

ミッドガルド大陸東部の海岸線に沿って広がる肥沃な大地。テーブルのような広い岩盤が点々とある他は、なだらかな丘陵地帯が広がり、そこには背の低い草花が生い茂る平和な土地である。

だがこの平和な土地もすでに帝国軍の占有地となってしまっている。連合軍と帝国軍の主力部隊が激突した際はこの丘陵が戦地となった。激しい戦いの後、丘陵のシンボルだった鮮やかな緑は赤色に染まってしまった。

青き丘陵 A blue hill

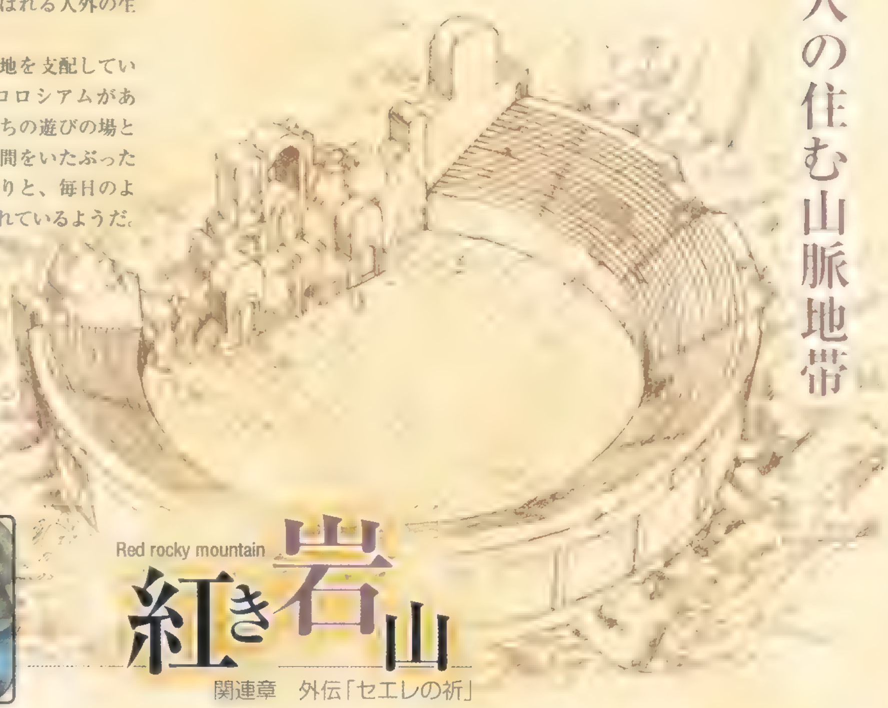
関連章　第五章「破壊」

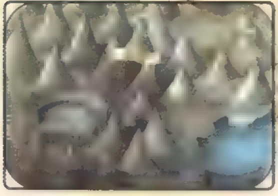


亜人の住む山脈地帯

雪の荒野の東部から広がる山脈地帯から続く険しい土地。名前の通り不気味な赤色の山脈が連なっており、亜人と呼ばれる人外の生物が住み着いている。

山脈の奥深くには、昔この地を支配していた国が建造したと思われるコロシアムがある。現在コロシアムは亜人たちの遊びの場となっており、さらってきた人間をいたぶったり、亜人同士で腕試しをしたりと、毎日のように残虐な戦いが繰り広げられているようだ。





紅き岩山 Red rocky mountain

関連章　外伝「セエレの祈」



空中要塞
Air fort

関連章　第六章「宿敵」／第十一章「別離」



上空に浮かぶ複雑怪奇な建造物

帝国軍によって建造された浮遊要塞。二枚貝のような形をしている。要塞下部には魔力を蓄積させ放出する特殊な砲台が設置されており、その破壊力は想像を絶する。青き丘陵での戦いにおいて、天から何本もの光線が降り注ぎ大地を抉った際、神の怒りと称されたが、実際は空中要塞から発せられた攻撃だったのである。要塞の周りには常にドラゴンたちが周回しており、たとえ近づいた所で要塞内部に侵入することは難しい。

すべての元凶が始まりし都市

帝国軍が世界を滅ぼす戦いを始めた最初の場所であり、帝国軍が一番最初に滅ぼした都市である。もともと帝国軍の拠点だったわけではないが、周辺から見るとこの都市から帝国軍が侵攻してくるように思えるため、帝国都市と呼ばれるようになった。どんな道程を辿っても、この帝国都市が物語の終焉を迎える場所になる。「世界が滅びるのか」あるいは「世界は救われるのか」その選択がこの滅びた都市で決定されるのである



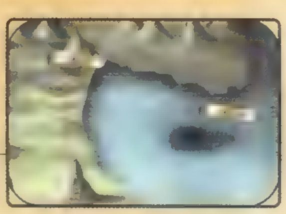
帝国都市
An imperial city

関連章　第七章「悲劇」／第八章「封印」／第九章「鎮魂」／第十二章「混沌」



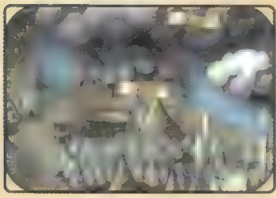
海上要塞
Marine fort

関連章　第十章「迷走」



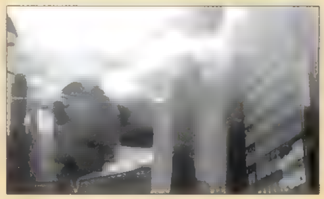
海上に建造された帝国軍海軍基地

島を丸ごと改造して作られた帝国軍の海上軍事拠点。結界塔と呼ばれる特殊な力を発する兵器が要塞の周囲を取り囲んでいるため、海上はおろか空中からもこの要塞に侵入することは難しい。空中要塞と同じく貝殻のような楕円形の形をしており、要塞上部には数台の砲台が設置されている。また要塞周囲には帝国軍の誇る海上兵器が常駐している。帝国軍はこの要塞を使ってミッドガルド全域に海上兵器を送り出しているようである。

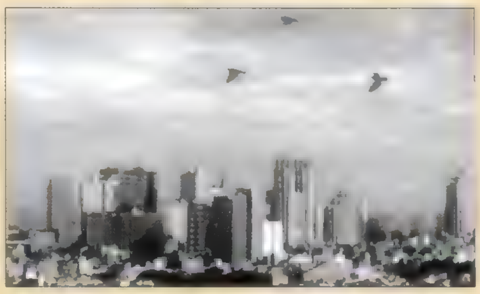


新宿
Shinjuku

関連章　第十三章「真実」



灰色のもう一つの世界



カイムたちがブラックホールに飲み込まれて辿り着いた謎の世界。アンヘルが「ここは…神の国か？」と称したように、カイムたちが住む世界とまったくことなる文化を持った世界である。この新宿と呼ばれる世界に「敵」は次元を割って降臨した。

空中要塞の構造



空中要塞内部は非常に複雑な作りとなっている。右の3点の画像が空中要塞内部をワイヤーフレーム状で表現した物だが、中心に一本の大きな柱を持ち、そこに向かって蜘蛛の巣のように通路が張り巡らされている。また通路の先には祭壇が祀られている。





Prologue

遠い昔……まだドラゴンが空を飛んでいた時代
ミッドガルドと呼ばれる大陸では「連合軍」と「帝国軍」の
二大勢力が世に調和をもらたす女神をめぐって争いを続けていた
「帝国軍」は謎の宗教団体、「天使の教会」によって操られ、
短期間に恐るべき強さを身につけ、そして強固な結束力を用いて
「連合軍」が女神をかくまう城を襲撃する

第一章 源流

[illegible]

第二章 交錯

[illegible]

第三章 邂逅

[illegible]

第四章 背反

[illegible]

第五章 破壊

[illegible]

第六章 宿敵

[illegible]

第七章 悲劇

[illegible]

第八章 封印

[illegible]

第九章 鎮魂

[illegible]

第十章 迷走

[illegible]

第十一章 別離

[illegible]

第十二章 混沌

[illegible]

第十三章 真実

[illegible]

レオナールの飢

[illegible]

アリオーシュの奇

[illegible]

セエレの祈

[illegible]

DRAG ON DRAGOONの物語

世界の調和は少しずつ崩れ始めている
三つの封印と一つの最終封印が解けるとき世界の調和は崩壊する数奇な運命なのか？
すべての事柄はカイムという男に託された
彼は戦う。己の欲望を欲するためか？　世界の調和を取り戻すためか？　女神を救うことか？
カイムはただ遮二無二剣を振るう……すべての答えを求めて…



第一章 源流

Story of DRAG ON DRAGOON
CHAPTER-1

険しい山々に囲まれた城塞が陥落しようとしていた。城の奥深くに匿われているのは、世界の秩序を保つ封印の女神フリアエ。難攻不落の城塞と勇猛果敢な連合軍の兵士たちによって、女神の身の安全は確保されているはずだった。しかし、「帝国軍」は途方もない兵力を投入して城を包囲した。城の周辺を守る連合軍は呆気なく帝国軍に蹂躙され、城門の旗は焼き払われてしまう。もはや落城は時間の問題だった。

その帝国軍の包囲網を突破し、城内へとひた走る傭兵がいた。まだ年若い傭兵の名はカイム。帝国によって滅ぼされた東の小国カールレオンの王子である。そして、封印の女神フリアエの兄、ただ一人の肉親でもあった。

妹の身を案ずる想い、両親と国とを亡きものにされた憎しみに駆り立てられ、カイムは城内への侵入に成功する。中庭までたどり着いた彼が見たものは、無惨に傷つき、捕縛されたレッドドラゴンの姿だった。

カイムの脳裏に悪夢がよぎった。六年前のあの日、ブラックドラゴンに両親を惨殺された。父の喉に食らいつく牙、母の胸を切り裂いた爪。憎悪と怒りに突き動かされ、一度は剣を振り上げたカイムだったが、次の瞬間、自分でも予想外の言葉を吐いていた。

「おまえに生きる意思はまだあるのか？」

死に瀕しているのはドラゴンだけではない。自分もまた、包囲網を突破する間に深手を負った。このままでは妹を守るところか、城の奥までたどり着くことすら危うい。両親の仇であるドラゴンは憎い。しかし、今ここで斃れるわけにはいかない。俺はまだ復讐を果たしていない。力が欲しい。強大な力が。カイムはドラゴンに迫る。

「答えろ！　契約か？　死か？」

復讐への執念に圧倒されたのか、あまりにも強烈な生への意思に興味を覚えたのか、誇り高き真紅の竜は人間と共に戦う道を選んだ。

契約によって力を取り戻したドラゴンと、人ならぬ新たな力を得たカイムは、大空へと舞い上がる。上空から城を狙う空中兵器部隊を次々に撃破し、城周辺に群がる帝国兵たちを炎で一掃する。竜騎士カイムの誕生、新たなる復讐劇の幕開けだった。

しかし、カイムたちが城周辺を殲滅している隙に、友軍は帝国軍の侵入を許してしまう。カイムは単身、城の最上階に追い詰められたフリアエの救出に向かった。

救出は成功し、カイムは生き別れになっていた妹フリアエ、そして妹の許婚であり親友でもあるイウヴァルトと再会する。が、最愛の妹にも、幼い日々を分かち合った友にも、かける言葉はなかった。カイムは契約の代償として声を失っていたのである。



第二章 交錯

Story of
DRAG ON DRAGOON
CHAPTER・2



帝国軍を殲滅したものの、もはや城の中は安全とは言えなかった
そんな中、イウヴァルトは永世中立地帯であるエルフの里へフリアエを匿うことを提案する
わずかな手勢を連れて、カイムたち一行はエルフの里を目指した。が、その途中、ドラゴンはエルフの里が全滅したことを告げる
契約者は遠く離れた場所からの「声」を感じ取ることができるのである。しかし、イウヴァルトはそれを信じようとしない
頑迷なイウヴァルトに引きずられるようにしてエルフの里へ向かう一行を帝国軍が襲った。それらを辛くも撃破し、一行はエルフの里へとたどり着く。しかし、眼前に広がっていたのは「声」が告げたとおりの惨状だった
永世中立地帯であり、女神の安息の地となるはずだった里は、今や絶望の地となっていた
為す術もなく佇むカイムたちの許へ、神官長ヴェルドレから女神の保護を申し出る「声」が届いた。己の無力を嘆くイウヴァルトに、カイムはフリアエの護衛役を任せ、ヴェルドレの許へと送り出す
ドラゴンとともに残ったカイムは、廃墟と化したエルフの里を調べ始めた。焼け跡で発見したのは、「天使」について記された謎の血文字、そして瀕死のエルフだった。が、里人たちが「天使の教会」の宮殿へと連れ去られたことを告げると、唯一の生存者は息絶えた
血文字の「天使」と、エルフの告げた「天使」。ふたつの符号に不気味なものを感じながら、カイムは宮殿があるという谷へと向かった
しかし、谷にあったのは、宮殿とは名ばかりの廃墟に過ぎなかった。廃墟を守る司祭は倒したものの、捕らえられているはずのエルフたちの姿はなく、「天使」についての手がかりもない
そこへ、助けを求める一人の村人が迷い込んできた。聞けば、妖精の谷にほど近い村が帝国軍に襲われたという。急ぎ村へと向かうカイムだったが、その途中、契約者のものと思しき声を捉えた
その契約者の名はレオナール。カイムと同じく契約の代償として、彼は視力を失っていた
共に戦う仲間を得たカイムに、ドラゴンが告げる。ヴェルドレの「声」が途切れた、と
彼の許へと向かっているフリアエとイウヴァルトの身を案じたカイムは、レオナールとともに砂漠へと向かうのだった



Story of
DRAG ON DRAGOON
CHAPTER*3

第三章 邂逅

砂漠に駆けつけたカイムは、一人逃げ延びたフリアエとの再会を果たす。神官長ヴェルドレとイウヴァルトは、彼女を逃がすために囮となり、帝国軍に捕縛されたという。彼らを救出するために、カイムとドラゴンは漆黒の空へと舞い上がる。向かうは砂漠のどこかにあるという捕虜収容所。敵味方の区別さえつかない深い闇の中、ドラゴンの炎が空中兵器部隊を、帝国の差し向けた怪物を撃墜していく。

やがてカイムたちは捕虜収容所を発見、襲撃を開始する。厳重な守りを突破し、カイムはヴェルドレを始めとする連合軍関係者の救出に成功した。そして、ヴェルドレから帝国の恐るべき目的を告げられる。

世界の秩序を守る三つの封印と、女神に施された最終封印をすべて破壊したときに現れる再生の卵。彼らの狙いはそれを手に入れ、世界を新たに構築し直すことだという。

聖地破壊を止めて欲しいというヴェルドレの要請を受け、カイムは砂漠の神殿へと向かう。が、すでに封印の周囲には帝国軍の遣わした悪霊たちが徘徊していた。ようやく悪霊を闇に帰したものの、神殿には夥しい数の帝国軍が迫っていた。神殿を守るため、カイムは封印から離れて帝国軍の制圧に乗り出す。

それが裏目に出た。敵の猛攻を必死で食い止めている隙をついて、帝国軍は再び神殿に侵入、封印を破壊してしまったのである。砂漠にヴェルドレの悲痛な叫びが響き渡った。

封印の防衛に失敗したカイムとヴェルドレは、ひとまずフリアエの待つ野営地へと引き返した。二人の無事に安堵の表情を見せたフリアエだったが、すぐにイウヴァルトの姿が見えないことに気づいた。訝るフリアエに、カイムは砂漠で拾ったハープを差し出した。イウヴァルトが片時も放さなかったハープが砂漠の真ん中に落ちていた……。それの意味するところは明白だった。

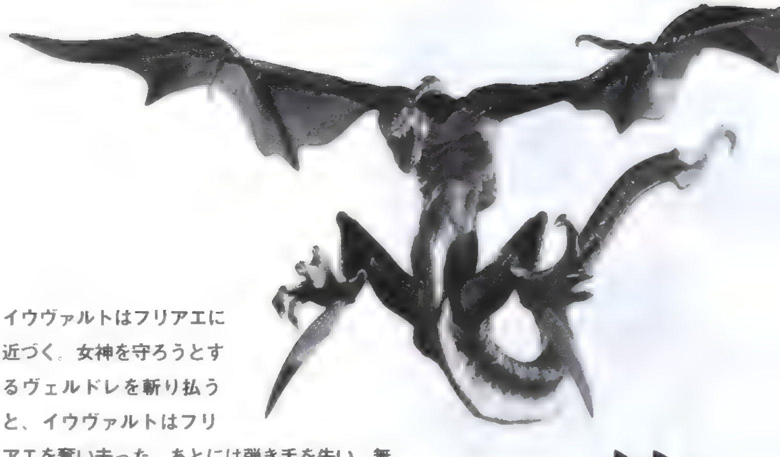


重苦しい沈黙が流れる中、ヴェルドレがある「声」に気づく。ドラゴンはその声の持ち主が尋常な状態ではないと警告するが、ヴェルドレは危険ならば尚のこと放置できないと主張する。

その声は、砂漠の牢獄から発せられていた。連合軍によって爆破され、炎に包まれる牢獄の中で、カイムたちは新たな契約者アリオーシュの姿を発見する。エルフ族特有の美貌を持つ彼女だったが、その双眸には狂気が色濃く滲んでいた。いきなりカイムに襲いかかる彼女を、ヴェルドレは呪文で抑え込む。蝕まれた精神を持つ者に、契約者の力はあまりにも危険な凶器だった。野放しにするわけにもいかない。

本人に「仲間」という自覚は希薄だったが、こうしてアリオーシュはカイムたちの一行に加わった。

一方、帝国軍に捕らえられたイウヴァルトは、「天使の教会」の司教によって洗脳を受けていた。カイムへの劣等感、フリアエへの歪んだ愛情といった負の感情を煽り立てられ、彼の心は急速に闇へと落ちていく。やがてイウヴァルトの双眸は赤く染まっていた。



第四章 背反

Story of
DRAG ON DRAGOON

次々に封印を破られ、心身共に疲弊しきったカイムたち一行は、野営地でつかの間の休息をとっていた。そこへ漆黒の竜が舞い降りた。その背から飛び降りたのは、行方不明となっていたイウヴァルトだった。その赤い瞳、喉元に刻まれた契約の紋章を目にしたカイムは驚き、そして戸惑う

フリアエを我が物にしようとするイウヴァルトに、カイムは剣を向ける。かつての友との激しく、そして悲しい死闘が始まった

その戦いの最中、レッドドラゴンの首にブラックドラゴンが喰らいつくのをカイムは目にする。その光景は、カイムの脳裏に忌まわしい過去を、ブラックドラゴンに両親が惨殺された日のことを思い出させた。イウヴァルトと剣を交えていたことも忘れ、カイムはブラックドラゴンめがけて突進する。ブラックドラゴンは嘲笑うかのように胸を反らせ、カイムに向けて炎を吐く。咄嗟にレッドドラゴンは翼を広げてカイムをかばう

業火に焼かれ倒れるドラゴンと、契約相手であるがゆえに同じ傷を負うカイム。それを後目に、イウヴァルトはフリアエに近づく。女神を守ろうとするヴェルドレを斬り払うと、イウヴァルトはフリアエを奪い去った。あとには弾き手を失い、無惨に壊されたハープだけが残されていた

ドラゴンの傷が癒えた後、カイムたちはイウヴァルトを追って帝国領土へと向かった。その途中、足を踏み入れた荒野で帝国の亜人部隊を発見する。ヴェルドレの要請を受け、カイムは亜人部隊に襲いかかった

その心を占めていたのは、かつての友への憎しみと、妹を奪われた憤り。カイムは怒りにまかせて殺戮行為を繰り返す。彼の心の闇、漆黒の竜にまつわる忌まわしい過去を知ったドラゴンは、ただ「帝国領土へ急げ」とだけ告げる

カイムとドラゴンの間に何かが生まれようとしていた。が、まだ両者はそのことに気づいていない

雪の荒野を抜け、帝国領土へと急ぐカイムたちは、複雑に入り組んだ浸食地形の奥で焼土と化した里を発見する。かつて石の隠れ里と呼ばれた地で、そこには土の化身ゴーレムを操る人々がひっそりと暮らしていたはずだった。が、今は人の気配も絶え、雪だけが音もなく降り積もっている

そこへ突如として現れたのは、幼い子供を手のひらに載せたゴーレムだった。子供の名はセエレ。両親を帝国軍に殺された後、自らの時間を代償にゴーレムと契約を結んだのだという

カイムたちがこの地に迷い込んだのも、セエレを守ろうとするゴーレムの企てだった

自らの時間を渡すこと、それは永遠に子供のままでいることを意味する。その重さがわかっているのかと問うドラゴンに、セエレは誇らしげに言い返す

「僕はちいさい勇者さまになったんだ」

そして、閉口するドラゴンとカイムに、セエレは同行させて欲しいと懇願する。聞けば、生き別れになったセエレの妹は「天使の教会」に連れ去られたのだという

半ば押し切られるようにしてセエレを一行に加え、彼らは帝国領土への道を急いだ





Story of
DRAG ON DRAGOON

第五章 破壊

最終封印である女神の命を残すのみとなり、世界の破滅が刻一刻と近づく。そんな中、ついに連合軍と帝国軍の最終決戦が始まった。

連合軍の兵士たちは気勢を上げて丘陵地帯を駆け下りていく。対する帝国軍は人造兵器サイクロプスを差し向けた。あまりにも禍々しく巨大な怪物に、連合軍の兵士たちは恐れ戦き、雪崩を打って敗走する。が、カイムとドラゴンは空中からサイクロプスを次々に撃破。連合軍は再び勢いを取り戻し始めた。

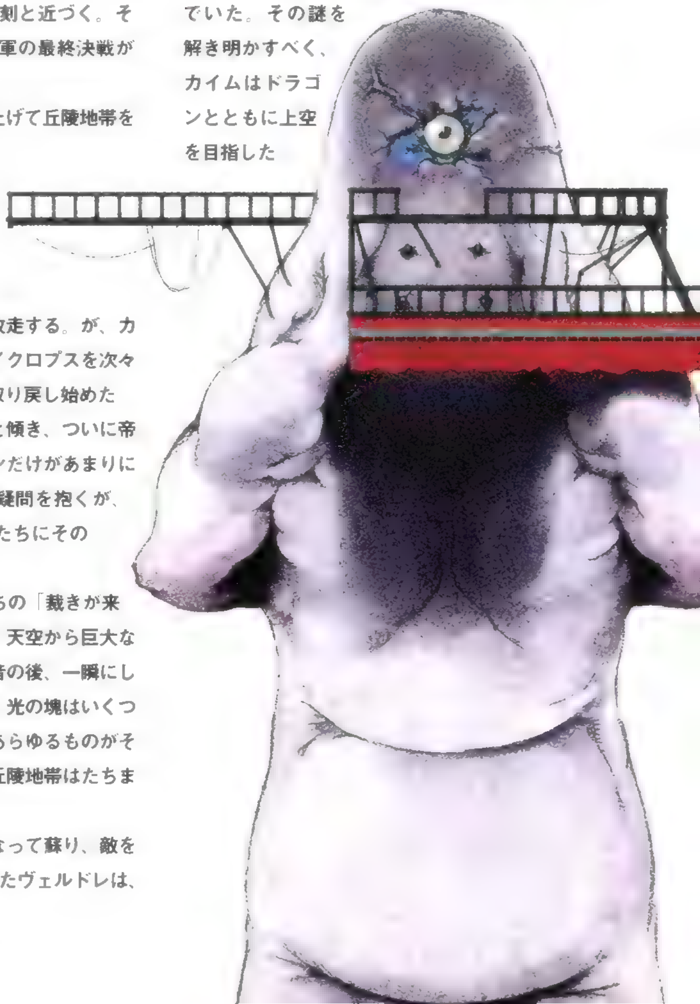
戦局は次第に連合軍優勢へと傾き、ついに帝国軍は撤退を始めた。ドラゴンだけがあまりにも容易く決着のついた戦いに疑問を抱くが、勝ち鬨をあげる連合軍の兵士たちにその声は届かない。

そのときだった。帝国兵たちの「裁きが来たぞ！」という叫びとともに、天空から巨大な光の塊が落下した。閃光と轟音の後、一瞬にして地上は焼き尽くされていた。光の塊はいくつもいくつも降り注ぎ、地表のあらゆるものがその高熱で熔けていく。広大な丘陵地帯はたちまち地獄と化した。

帝国兵たちの骸は死霊兵となって蘇り、敵を求めて彷徨い歩く。恐慌を来したヴェルドレは、最終封印が破られた、女神は天に捧げられたのだと喚き散らす。神官長である彼にとって、それは最もわかりやすく、納得しやすい結末だったのだ。カイムはそんなヴェルドレを殴りつけ、その言葉を否定する。決してあってはならない、それだけは……

「真実は天のみぞ知る。そこに道があるならばな」

ドラゴンの言葉にカイムは冷静さを取り戻す。人知を越えた光は確かに天から降り注いでいた。その謎を解き明かすべく、カイムはドラゴンとともに上空を目指した。



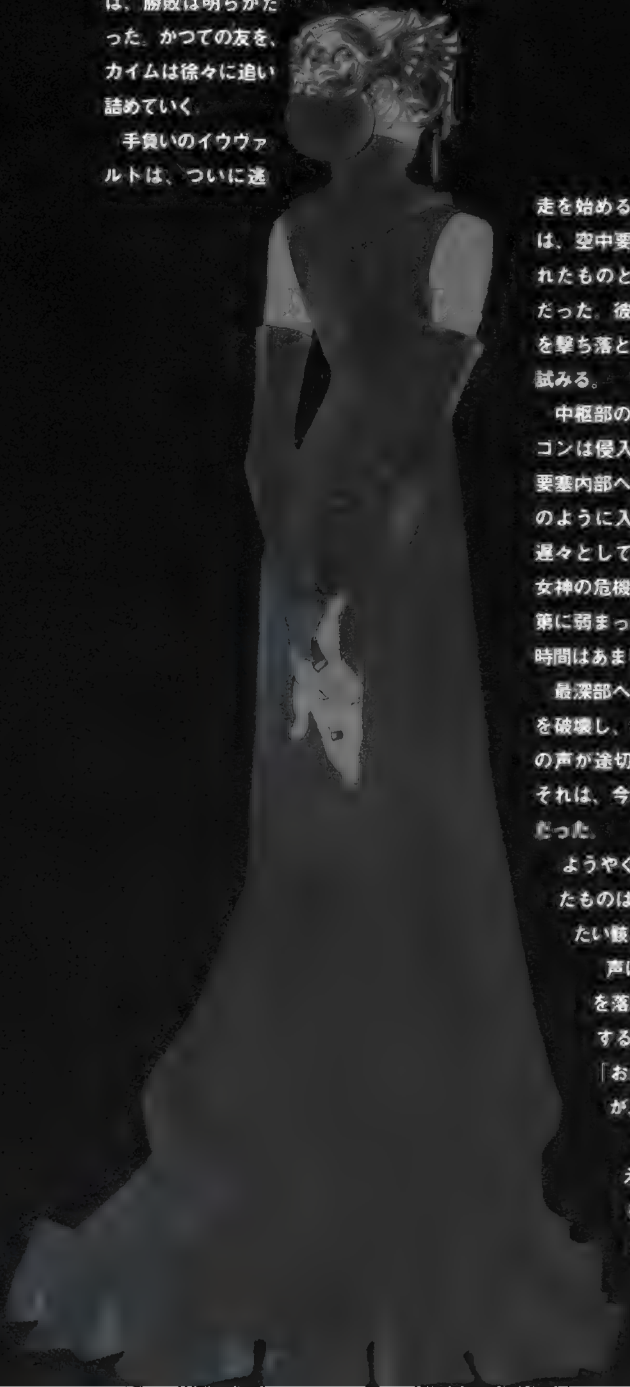


Story of
DRAG ON DRAGOON
CHAPTER*6

第六章 宿敵

空中要塞内部では、すでに帝国の手先と化したイウヴァルトが司教の許に跪いていた。カイムを葬り去ることを誓うイウヴァルトの目には狂気の色だけが宿っていた。かつての許婚を前にしても、彼の心にフリアエという名が蘇ることはなかった。

一方、フリアエが空中要塞に囚われていると確信したカイムとドラゴンは、ひたすら上昇を続けていた。そこへ漆黒の風となってイウヴァルトが襲いかかる。しかし、狂気に蝕まれた者と、怒りと憎しみを内に抱く者とでは、勝敗は明らかだった。かつての友を、カイムは徐々に追い詰めていく。



手負いのイウヴァルトは、ついに逃走を始める。その後を追いかけたカイムたちは、空中要塞を発見。それは、人の手で造られたものとは思えない巨大な「空飛ぶ貝殻」だった。彼らは行く手を阻む帝国のドラゴンを撃ち落とし、砲台を次々に破壊して侵入を試みる。

中枢部の長い通路を上昇し、ようやくドラゴンは侵入口へと到達した。カイムは単身、要塞内部へと突入する。群がる帝国兵、迷路のように入り組んだ通路。フリアエ捜索は、遅々として捗らない。苛立つカイムの許に、女神の危機を告げるドラゴンの声が届く。次第に弱まっていく女神の気配……。残された時間はあまりにも少ない。

最深部への階段に張られた結界の発生装置を破壊し、ひたすら走った。やがてフリアエの声が途切れ途切れにカイムの耳にも届く。それは、今にも消え入りそうな、弱々しい声だった。

ようやく声の許へと駆けつけたカイムが見たものは、破壊された最終封印、すでに冷たい骸と化した妹の姿だった。

声にならない叫びを上げ、その場に膝を落とすカイムをドラゴンは強く叱責する。

「おぬしの妹が耐えて守ってきたことが、すべて無駄になるのだぞ！」

その言葉が再び立ち上がる力を与えた。再生の卵の出現、世界の崩壊を阻止すべく、カイムは祭壇の間を飛び出した。

第七章 悲劇

Story of
DRAG ON DRAGOON
CHAPTER 7

ある予感に突き動かされて、イウヴァルトは祭壇の間へと向かっていた。そこに何があるのかはわからない。しかし、何かがある。大切な何かが

並み居る兵士たちをかき分け、イウヴァルトはひたすらに祭壇を目指す。ようやくたどり着いてみると、祭壇の前で司教マナが踊っていた。赤い花びらをばらまきながら、楽しげに。そして、その横の柱にはフリアエがもたれかかっていた。胸に突き立てられた短剣、足許の血溜まり。イウヴァルトの赤い瞳が元の色を取り戻す。かつての許婚の死が、一瞬にして彼の狂気を消し去ったのである

フリアエをどうしたと詰め寄るイウヴァルトに、マナは無邪気に言い放つ

「封印は解けた。もういらない」

怒りの形相でつかみかかろうとするイウヴァルトを、マナは人ならぬ者の力を向ける。イウヴァルトの体は呆気なく跳ね飛ばされ、床に叩きつけられた

絶望のあまり、イウヴァルトは立ち上がれなかった。フリアエのためを思ってしてきたことは何だったのか。イウヴァルトは気づく。フリアエを女神の任から解放してやろうとしたのは、彼女の幸せのためではなかったことに。ただの女に戻った彼女を我がものにしたいという欲望を満たすために過ぎなかった……

床に俯し、嘆くイウヴァルトの横で、マナは無邪気に歌い、踊り続けていた

イウヴァルトはフリアエの遺体を抱き、空中要塞を飛び出した。行く宛てもなくブラックドラゴンを駆るうちに、イウヴァルトは再生の卵を使ってフリアエを蘇らせることを思いつく。彼女を殺したのは自分なのではないかという悔恨の念が、イウヴァルトを再び狂気へと追いやっていたのである

再生の卵の許へ、帝都へと飛ぶイウヴァルトの前に立ちはだかったのが、カイムだった

夥しい血の犠牲と引き替えに出現する再生の卵、憎むべき天使の教会が欲している奇跡に、希望を見出すなど、カイムにはどうしても理解できなかった

かつての親友同士、そして真紅の竜と漆黒の竜は再びぶつかり合う

「所詮、貴様の炎などそんなものだ。身の程を知れ！」

幾多の戦いで進化を遂げているという、自信に満ちたその叫びとともに、レッドドラゴンの炎が漆黒の翼を貫いた……





Story of
DRAG ON DRAGOON
CHAPTER*8

第八章 封印



ついに再生の卵が出現した。これが世界に何をもたらすのかはまだわからない。が、それを帝国に渡してはならないことだけは確かだった。帝国の野望を阻止すべく、カイムたちは帝都へと向かう。

しかし、実際にたどり着いてみると、帝都とは名ばかりの荒れ果てた街並みが広がっている。空をさまよう亡者や怪物たちを焼き払い、地上へ降り立とうとしたそのときだった。

「伝説が来おった」

呻くようにつぶやくなり、ドラゴンの動きが止まった。上空に現れたのは、古の竜とも聖なる竜とも呼ばれるエンシェントドラゴン。誇り高きレッドドラゴンが、伝説を前に畏怖し、怖じ気づいたのである。

凍りついたように動かないドラゴンを、カイムは抱きしめ、励ました。たとえ伝説であろうと敵に変わりはない。

やがて覇気を取り戻したドラゴンは、敢然と古の竜に立ち向かう。死闘の末、ついに真紅の竜は伝説を打ち破った。

「礼を言うぞ、カイム。我は今、我自身を越えられた気がする」

それは、ドラゴンが初めて「人間」を認めた瞬間だった。

死闘を終え、地上に降り立ったカイムは、再生の卵が至るところに出現しているのを目にする。廃墟の中、カイムは司教マナを追って神殿へと走った。

祭壇の間へ突入したカイムに、マナを守る帝国兵や死霊使いたちが襲いかかった。それらをすべて斬り伏せ、カイムは祭壇のマナへと迫る。諸悪の根源を絶ち切るべく剣を向けるカイムをヴェルドレが止めた。

「神官長としての務めを果たさせてくれぬか」

ヴェルドレは、マナの内に宿る悪意だけを封印しようと考えたのである。しかし、封印の呪文を詠唱するヴェルドレに、投げつけられたのは人間を憎悪し、呪詛する言葉だった。

「人間どもめ……まだ生き延びようとするか。醜い、醜いぞ！」

呪文を弾き返し、マナの体が膨れ上がった。神殿の柱と壁を突き崩し、屋根を打ち壊して、その体は巨大化していく。それは、神の力の発現だった。

帝都上空に浮遊するマナに、カイムとドラゴンは立ち向かった。人ならぬ力でドラゴンの炎を弾き返し、激烈な攻撃を放つマナ。しかし、古の竜をも凌駕した真紅の竜は、ついに神の力をも打ち破る。

神という後ろ盾を失い、ただの少女に戻ったマナが望んだものは、死。憎まれて生きることの恐怖を知っている彼女にとって、死の安息こそ救いだったのである。しかし、カイムもヴェルドレもその望みを叶えようとはしなかった。

「カイムはおぬしを一生許さぬそうだ。カイムだけではない。この世界の何千もの魂がおまえを許さない」

ドラゴンの言葉に、マナは怯え、ただただ泣きじゃくる。己の罪の重さをおぼろげに理解しながら。



第九章 鎮魂

Story of
DRAG ON DRAGOON



フリアエの遺体を抱いて、イウヴァルトは再生の卵の許へと飛んだ。再生の卵を使って、フリアエを復活させるために

カイムはそれを阻止するため、イウヴァルトを追って帝都に入る。しかし、帝都の空は夕闇の色に染まり、眼下に見下ろす街並みは廃墟と化していた。そんな中、点々と白い球体が無人の街路を塞いでいるのが見える。封印解除によって出現した再生の卵だった

「再生の卵、か。愚かなものよ」

何かを知っているらしいドラゴンが侮蔑の色をありありと浮かべてつぶやく

やがてカイムは、街路に出現した再生の卵の前に佇むイウヴァルトを発見する。彼はフリアエの遺体を抱いていた。まだ間に合う まだ止められる。止めなければ

生前苦しみ続けた妹を静かに眠らせてやりたいカイムにとって、たとえ神の御手による奇跡であろうとも、フリアエを死の世界から引き戻す行為は許し難いものだった

「フリアエが死んだのは僕のせいじゃない」

狂気に囚われたイウヴァルトの言動は幼児にまで退行していた

「おぬし、世界のこれからについては考えぬのか？」

ドラゴンに詰問されても、イウヴァルトは頑迷に頭を振る。そればかりか、フリアエのいない世界など、とっとと潰れたらいい、とまで言い放つ。もはや説得は不可能、イウヴァルトとの訣別は決定的だった。カイムとイウヴァルトは互いにドラゴンを駆って、帝都の空に舞い上がった

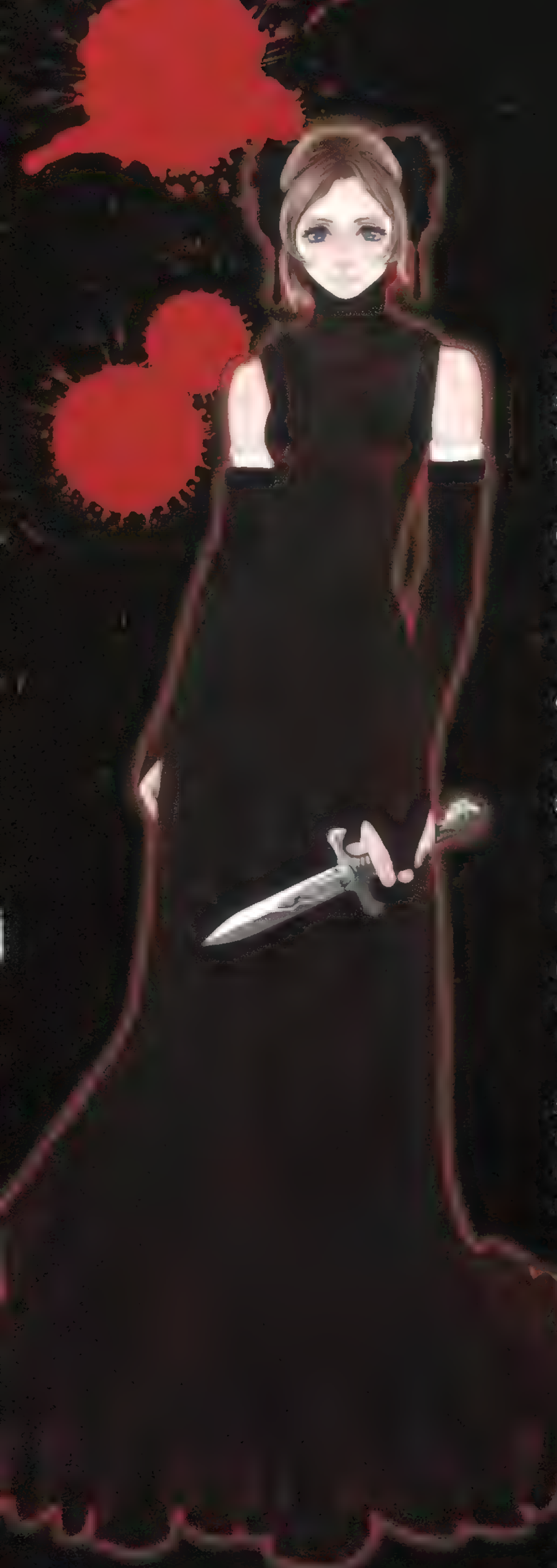
「再生の卵は本当に人を救うものなのか？」

ヴェルドレもまた、卵の存在と奇跡に疑念を抱き始めていた

「再生の卵などと呼ぶのはやめることだな あれは……断頭台だぞ」

再生の卵はやはり人類を救うものではないのか？　だとすればなおのこと、イウヴァルトの愚行を許すわけにはいかない。カイムは全力を挙げて、かつての友を倒そうとしていた





第十章 迷走

Story of
DRAG ON DRAGOON
CHAPTER*10

レオナールが女神の気配を察知した。女神はカイムたちが目指している空中要塞ではなく、海上に囚われているという。

空から海へと進路を変えた一行が見たものは、六本の結界塔に守られた巨大な海上要塞だった。

「海の上の要塞だと？　方舟にでも乗ったつもりか」

真実を知る者が知らぬ者を嘲る、ドラゴンの口調はまさにそれだった。

結界を破壊し、要塞内に乗り込んだカイムたちを帝国兵の猛攻が襲う。むせ返るような潮の匂いと、禍々しい気配の中、カイムはひたすら斬り進む。

「方舟の行き先を知らずに乗り込むとは愚か者……」

ならば、ドラゴンは方舟の行き先を知っているのか。しかし、その問いを発することはできなかった。

「女神が急に視えなくなりました……」

女神が祀られているであろう祭壇まであと少しというところだった。それまで感じられていた女神の気配が突如として消滅したと告げるレオナール。不吉な予感を胸に、カイムたちは祭壇の間へと突入した。

だが、祭壇の間には女神も、天使の教会の司教も、帝国兵の姿さえなかった。静まり返った部屋の中、床に描かれた魔法陣だけが強い光を放っている。

「遅かったか……」

すでに女神は魔法陣の空間移動によって、何処かへ運び去られていたのだった。カイムたちは迷うことなく魔法陣へと飛び込んだ。何処へつながっているのかは定かではないが、女神の居場所はこの先にある。それだけは確かだった。



第十一章 別離



Story of
DRAG ON DRAGOON

海上要塞の魔法陣に飛び込んだカイムたち。その転移先は空中要塞の内部だった。フリアエの声はまだ途絶えてはいない。焦り、苛立ちながらもカイムは声の許へと向かった。

レオナールともはぐれ、カイムは一人、最後の扉の前にいた。フリアエと司教マナが待ち受ける祭壇の間へとカイムは突入する。

扉を開けたカイムが目にしたのは、思いも寄らない光景だった。黒い服に身を包んだフリアエが祭壇の前に跪いている。そして、駆け寄ろうとしたカイムを止めたのは、帝国に寝返ったイウヴァルトだった。

「裏切り者なんて言わないでくれ。俺たちは今、新しい世界を生み出そうとしているんだぞ。フリアエも生きられる新しい世界だ」

目を覚ませ、共に生き残ろうと語るイウヴァルトの言葉に、カイムは怒りを禁じ得ない。拳を振り上げようとしたそのとき、フリアエが二人の間に割って入った。

「イウヴァルト、こんなところにいてはいけない。自分の場所に戻って」

衰弱しきった体で訴えるフリアエに、イウヴァルトは叱られた子供のようにおとなしく引き下がり、祭壇の間を出ていった。

入れ違いに柱の陰から姿を現したのは、すべての元凶、マナだった。彼女は邪悪な微笑みを浮かべ、人ならぬ力でフリアエの体を傍らの柱に張りつけた。

「わたし、あなたの心が読めるの」

笑いながらマナは、フリアエの心の中を暴き立てていく。なぜ自分だけが犠牲にならねばならないのか、なぜ誰も助けてくれないのか。己の運命を呪い、あらゆる存在に憎悪と怨恨を向ける……そんな心の闇ばかりか、フリアエが最も隠しておきたかったであろう本心をもマナは白日の下に晒した。

「お願い。助けて。抱きしめて。お兄ちゃん」

予想だにしなかった真実を突きつけられ、カイムはうろたえ、とっさに目を逸らした。フリアエのすがりつくような視線を受け止めてやることはできなかったのである。その行為は、拠り所をなくしたフリアエの心を打ち砕いた。フリアエは祭壇の短剣を自らの胸に突き立てる。一瞬の出来事だった。

「私を……見ないで」

絶望の言葉を残してフリアエは息絶えた。その刹那、カイムは悟った。すべてが最終封印を解除するために仕組まれた罠であることを。全身を突き破るかのような憤怒を、カイムは剣に込めて司教マナに向ける。

「馬鹿者！　激情に走るな！　冷静になれ！」

カイムを止めたのはドラゴンの声だった。

「世界が本当に終わるぞ！　一刻も早く外に出てこい！　女神の死を無駄にするな！」

フリアエの死を無駄にするなという言葉が激情を辛うじて抑え込んだ。己に課せられた役割を果たすため、カイムは空中要塞を飛び出した。



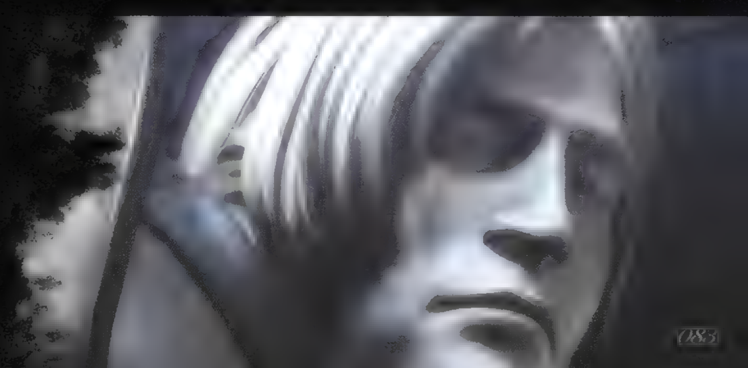




第十二章 混沌

Story of
DRAG ON DRAGOON
CHAPTER*12

空中要塞内部で、笑いながら逃げ回るマナをカイムはついに追い詰めた。が、そこへセエレが割って入った。
「やめて！　僕の妹をいじめないで！」
　母の愛に飢えたマナが心の拠り所として神にすがり、冷酷な司教への道に踏み込んだことに、セエレだけは気づいていた。しかし、セエレのそんな思いはマナには届かない。踊り続けるマナは、走り寄るセエレを突き飛ばす。怒るゴーレムを、セエレは必死でかばう。この子は僕の妹だから、と。
「静粛になさい。あんたたちに私は殺せない。だって、私は愛されているから」
　その声はマナのものではなかった。マナはもはや自分の知るマナではない……そう悟ったセエレは、苦渋の決断を下す。このままではマナを救えないどころか、世界まで破壊されてしまう。
「ごめんね、ごめんね。許して、マナ。助けて――ゴーレム」
　セエレを「助ける」ために、ゴーレムはマナに拳を振り下ろす。世界を破滅の淵に導いた司教マナは、双子の兄の言葉によって、その短い生を終えた。
　しかし、帝国の野望は潰えても、世界の危機は続いていた。突如として、空から異形の者たちが舞い降りた。天使とも赤ん坊ともつかない姿の巨大な敵たちは、瞬く間に世界中を埋め尽くした。
　そのころ、司教の力が消え去ったこともイウヴァルトもまた感知していた。
「神は死んだぞ。俺たちは自由だ！」
　怯えるフリアエを抱き寄せ、イウヴァルトは狂ったように笑う。やがて空中要塞は崩壊を始める。イウヴァルトの笑いが轟音に呑み込まれ、消えた。
「もはや神の理を越えた世界。どうなっているのか誰にもわからぬ。……神にもな」
　神の番人であるドラゴンにさえ、廃墟にひしめく異形の者たちの正体はわからない。わかっているのは、世界が急速に崩壊しつつあること、立ち止まれば即座に死がやってくること、それだけだった。
　この異様な光景を喜ぶ者が一人だけいた。アリオーシュである。彼女の目には、異形の者たちもただの赤ん坊にしか映らない。
「ひとつになりましょう、私の赤ちゃん」
　手を差し伸べるアリオーシュに敵たちが群がった。そして、望みどおり彼女はひとつになった。敵が彼女を食することによって。
　アリオーシュが身を以て敵を引きつけている間に、カイムたちは先へと進んだ。しかし、敵の数はあまりにも多い。
「行ってください。ここは私が」
　レオナールは、己の身を犠牲にする決心をしていた。仲間たちに道を開くために、いや、弟にも似たセエレのために……。心ならずも生き延びてしまった彼は今、ようやく自分にふさわしい死に場所を得たのである。
「希望の最期は死にあらず！」
　追いすがる敵たちを巻き添えにして、レオナールは壮絶な爆死を遂げた。
　やがて彼らの前に一際巨大な異形の者が現れる。世界を埋め尽くした敵たちを束ねるもの、敵の本体だった。





第十三章 真実

Story of
DRAG ON DRAGOON
CHAPTER 13

敵の本体は異様な速さで膨張を続けていた。大いなる時間は歪み、世界は常軌を逸した領域へと転落しようとしている。
「おしまいだ！　おしまいだ！」
　恐慌状態に陥り喚き散らすヴェルドレに、ドラゴンは皮肉な口調で「祈らぬのか？」と問う。しかし、もはやすがるものなど何もないことを誰もが知っていた。
　神さえも予測し得なかったであろう終末の光景を前に、カイムは静かにドラゴンに問いかける。俺たちは何をすればいい？
「そうさな……虎の子を見つけたくば、虎の巣に入るしかなかろう」
　ドラゴンとカイムはただ笑みを交わす。それだけで十分だった。共に戦い抜いてきた彼らには、互いに死の覚悟ができていることがわかっていた。
　その気配を察知した者がもう一人。セエレだった。
「やだ、行かないで！　カイム、僕を一人にしないでよ！」
　必死で手を伸ばしてくるセエレを、ドラゴンが優しくなだめた。
「生きておれば、また会えようぞ」
　そのときが決して訪れないことを、セエレは予感していた。それでも涙をこらえ、セエレは言葉を絞り出す。
「じゃあさ……せめて……、忘れないで！　僕のこと！」
　子供ながら、セエレもまた共に戦ってきた仲間だった。今、自分がなすべきなのは泣くことでも、カイムたちを引き留めることでもなく、見送ることなのだとわかっていた。
　カイムを乗せたドラゴンが敵の本体めがけて飛び立っていく。空を覆い尽くす敵たちの間をすり抜ける。敵の本体が迫ってくる。異様に膨れ上がった白い腹に到達したかに思えたそのとき、辺りは白い光に包まれた。
　目映い光の奔流は、カイムとドラゴンもろとも敵の本体を呑み込み、一瞬にして消し去った。そして、空を飛び交っていた異形の者たちも消えた。
　破壊の爪痕を色濃く残しながらも、世界の終焉は回避されたのだった。





レオナールの飢

Story of
DRAG ON DRAGOON

「視えます……
森が燃えている！」

視力を失ったレオナールが察知したのは、帝国軍が森を焼き払っている光景だった。侵攻されたのは、封印されし森　フェアリーたちが守護する土地である　森を守るためではなく、一人でも多くの帝国兵を殺すためにカイムは森へと向かう

燃え上がる森には、すでに帝国の駐屯地が設営されていた。そこに集められていたのは、年端も行かぬ少年兵たち　また幼い彼らに無慈悲な真似をしてくれるなと乞うレオナールだったが、カイムは聞き入れない　助けを求め、泣き叫ぶ彼らを、カイムの剣が無情に斬り裂いていく

やがてレオナールは、折り重なる骸の中に、また息のある少年兵を見つけ出した　傷を負い、怯える少年に、



レオナールはやさしく声をかける。その少年の声は、帝国軍に殺された弟の声にそっくりだった

レオナールは三人の弟たちを帝国軍に殺されていた　彼が家を空けていた、ほんの短い間の出来事だった。その罪悪感と、彼自身の少年を愛する性癖とで、レオナールは少年兵たちを殺すことに強い抵抗を覚えてしまうのである

こんなにも幼く、弱い少年たちに悪意などあるはずがない……。だが、レオナールの思いは呆気なくうち砕かれた。剣を手にしたカイムが近づいてきたとき、少年は本性を現したのだ　邪悪な笑みを浮かべ、死霊を召喚する少年　彼は死霊を操る能力の持ち主だった

次の瞬間、一閃する剣が少年の命を奪い、死霊も消滅した。が、その騒ぎに気づいた帝国軍が上空に結集し始め、カイムたちは再び戦闘を強いられることになる　襲いかかる帝国兵を骸に変えながら、カイムたちは森の最深部へと向かった

肩を落とすレオナールに、契約者であるフェアリーは容赦なく悪罵の言葉を投げつけ、彼の性癖を暴き立てる　耐え難い屈辱にレオナールが膝をついたそのとき、慌てたようにフェアリーは逃げ去った

入れ違いに現れたのは、一際大きく輝く光　フェアリーたちの長、妖精王だった　悪辣な言葉を矢継ぎ早に投げつけてくる妖精王には、高位の生き物であるドラゴンも苛立ちを隠せない　が、さらに妖精王は衝撃的なことを口にした　砂漠で神官長一行が帝国軍の襲撃を受けたというのである

フリアエの安否を確認するために、カイムたちは急ぎ砂漠へと向かう。その背後では妖精王の笑いがしつこく木霊していた



アリオーシュの奇

Story of
DRAG ON DRAGOON
ARIOCH

力及ばず、砂漠の封印は破壊された。残る封印を死守すべく、カイムたちは海の神殿へと向かう。

神殿近くの海域で、カイムたちは帝国船団を発見する。そこでは悲惨極まりない光景が繰り広げられていた。エルフの子供たちが次々に海へと投げ込まれていたのである。幼い悲鳴が木霊する中、アリオーシュは目を輝かせて海中に身を躍らせた。幾隻もの帝国船団をものともせず、アリオーシュはまっしぐらに子供たちのほうへと泳いでいく。

帝国船団を残らず沈め、飛び交うエンパイアドラゴンを焼き払い、ようやくカイムたちはアリオーシュの許へとたどり着いた。しかし、わずかに生き残った子供たちは、アリオーシュの手にかかって息絶えていた。

「もう大丈夫、安心しなさい、私が守る」

そう言いながら子どもたちを殺したアリオーシュに、レオナールは憤りを隠せない。怒りを露わにして詰め寄るレオナールの前に、アリオーシュの契約相手である精霊たちが現れた。彼らの口から語られたのは、平凡な主婦であったアリオーシュを襲った悲劇とその結末についてだった。

目の前で夫と子供を惨殺された彼女は、精神を病み、子供ばかりを狙う殺人鬼と化した。やがて彼女は帝国軍に捕らえられ、投獄される。その収容先が連合軍によって爆破され、厳重に拘束されていた彼女は逃げる術を持たず重傷を負う。死に瀕した彼女の心の叫びを聞きつけたのは、炎の精霊サラマンダーと水の精霊ウンディーネだった。彼らとの契約によってアリオーシュは子宮を失い、再び母となる道を閉ざされてしまう。こうして彼女は永遠の狂気と孤独の内で生きていくこととなった……。

精霊たちの話に言葉を失うカイムたちだったが、海の封印が帝国の脅威に晒されている今、いつまでも立ち止まっているわけにはいかなかった。

神殿の周囲には、すでに帝国船団が包囲網を作り上げていた。制海権を取り戻すべく、ドラゴンの炎でそれらを悉く撃破する。が、時すでに遅し。神殿に降り立ったカイムたちが見たものは、破壊された封印の跡だった。

誰もが落胆と苦渋の色を隠せない中、アリオーシュだけが砕け散った封印のかけらを弄び、無邪気に笑い続けるのだった。







Story of
DRAG ON DRAGOON

セエレの祈

「あそこ！　僕の妹がいなくなっちゃった谷だよ！」

帝国領土へと向かう途中、セエレが叫んだ。険しい岩山の奥にあるという石の谷。セエレの双子の妹マナはそこで行方不明になったのだという。妹を捜したいとセエレに懇願され、カイムはためらいながらも岩山に足を踏み入れる。

その途中、ゴーレムに異変が起きた。この地に潜む付与魔術師の呪文がゴーレムを狂わせたのである。意識を奪われ、操られるゴーレムにセエレは敢えて近づいていく。僕を殴れ、と叫びながら。

巨大な腕がセエレを弾き飛ばした瞬間、ゴーレムは我に返った。セエレに与えた痛みはゴーレム自身にも跳ね返っていた。その痛みがゴーレムの意識を呼び戻したのだった。

この自虐的とも映る犠牲的な行為は、セエレの罪悪感に端を発していた。双子でありながら妹マナは実の母に虐待され、セエレ一人が母の愛を独占して育った。この贖罪の思いがセエレを妹捜しの旅へと、そして自虐的な行為へと駆り立てていたのである。

一行がたどりついた石の谷は、帝国の手先である付与魔術師や怪物たちが跋扈する危険極まりない場所だった。それでもセエレはあきらめきれず、妹の名を呼びながら走り出す。次の瞬間、上空から飛来したグリフォンがセエレに襲いかかった。鋭い鉤爪が小さな体を捉え、飛び去っていく。

必死の追跡の末にたどり着いたのは、怪物たちの居住区だった。セエレが囚われていたのは、秘境とも言えるこの地には不釣り合いな巨大闘技場。そこでは、人間を賞品として怪物たちが戦うといった異様な光景が、日夜繰り広げられているという。セエレはその賞品とされて、闘技場の片隅に囚われていた。

セエレを助け出すために、カイムは闘技場へと駆け込んで剣を振るう。それは、カイムが初めて誰かを救うために振るった剣だった。

救出劇が成功裡に終わったのもつかの間、フェアリーの断末魔の声が届く。森の神殿を守護するフェアリーの断末魔、それは三つめの封印が破られたことを意味する。残るは最終封印である女神の命のみとなってしまった。

カイムたちは最終決戦の地である帝国領土へと急いだ。





Epilogue A

Story of
DRAG ON DRAGOON

幾多もの犠牲の上に　主の御手の新たな祠か作られるだろう

帝国との戦いは終わったが、世界の危機は去っていなかった。再生の卵を封印したとしても、新たな封印を立てねば再び卵は出現する。適格者はいるのかとドラゴンに問われ、ヴェルドレは苦渋の表情を浮かべた
「また誰かを犠牲にせねばなりません。私は……差詰め死刑執行人です」
不意にドラゴンがカイムの許へと歩み寄った
「また進めぬようになった。暖めてくれぬか」
もう敵はいない。何を恐れることがある？カイムはわけがわからないまま、ドラゴンを抱き、その首をさすった。やがてドラゴンは静かに離れると、ヴェルドレに向き直った
「我を封印に使うがよい。精神力、生命力、すべてにおいて人間の比ではないぞ」
人間を見下していたはずのドラゴンが今、人間のために我が身を犠牲にしようとしている……。衝撃を隠しきれないカイムとヴェルドレに、ドラゴンは告げた。我の気の変わらぬうちにすませるがよい、と
ドラゴンといえども、封印がもたらす痛みから逃れることはできない。呪文の詠唱とともに、封印の文字がドラゴンの体に焼きつけられていく
夥しい血か流れ落ち、ドラゴンが苦痛に身を捩る。カイムには、ただそばに寄り添う以外、何もできなかった
「おぬしの涙……初めて見る…な……」
いつしかカイムは泣いていた。フリアエが死んだときにも決して流すことのなかった涙が、頬を濡らす
「覚えておいてもらいたいことが……ある」
血を流しながら、ドラゴンがゆっくりと身を起こした
「アンヘル……それが我の名だ。人間に名乗るのは、最初で……最後だ」
やがてドラゴンの体は光に包まれ、いつの間にか晴れ渡っていた空に消えていった
「神よ。それでもあなたは我々に生きろとおっしゃるか」
ヴェルドレが悲痛な声でつぶやく。ようやく立ち上がったカイムは、ドラゴンの去った空をただ見上げていた





カイムとレッドドラゴンの追撃を振り切り、イウヴァルトは再び地上に降り立っていた。奇跡を信じ、イウヴァルトはフリアエの遺体を再生の卵に近づける。卵はあたかも待ち望んでいたかのようにその体を呑み込んだ。

やがて、卵の表面が揺らぎ、フリアエがゆっくりと姿を現す。奇跡は起きた。再び開くはずのなかった両の目が、確かにイウヴァルトを見つめていた。

「フリアエ……戻ってきたんだな」

抱きしめようと両手を広げたイウヴァルトは突然、血を吐いた。彼の体を得体の知れない触手が貫いている。瞠目するイウヴァルトを二度、三度と触手が突き刺した。その触手は卵の中から、フリアエの体から生えていた。

ドラゴンの言葉とおり、再生の卵は断頭台、その中に入った者を殺戮生物へと転生させる装置だった。イウヴァルトを惨殺したフリアエは、次なる生贄を求めて帝都の空を徘徊し始める。

「異形の者となりし妹と戦うか。しかしながら、やつは女神ではない。もう……違うぞ」

ドラゴンに励まされ、カイムはかつての妹と戦う。想像を絶する攻撃をしかけてくる殺戮生物の顔は、紛れもなく最愛の妹のもの。苦悩しながらも、カイムは殺戮生物を葬り去った。そんなカイムにドラゴンは、慰めとも諦めともつかない言葉をかける。

「カイム、我らに終幕はないぞ。それでも……おぬしは戦うのであろうな」

かつて妹であった者の遺骸を抱き、カイムは廃墟に佇む。やがて空を無数の白い翼が覆い尽くした。帝都の街路に出現したいくつもの卵から、一斉に殺戮生物が孵化したのである。フリアエの顔を持つ死の女神たちは奇声をあげて飛び回る。

ドラゴンが静かにつぶやいた。

「再生の卵など、初めからありはしない。人間は決して赦されないのだ」

a woman turned into a stake will dominate the world on the blazing plate.

Epilogue B





哀れな子が主の御手に挑む時、扉は閉じるだろう

イウヴァルトは死んだ。幼い日々を分かち合った友の手によって。しかし、愛するフリアエの亡骸に寄り添う彼の死に顔は安らかだった。妹を死に追いやり、友を狂わせた者を討つために、カイムは神殿へと向かう。

ちょうどそのころ、司教マナは祭壇の間で、再生の卵が孵化するのを待っていた。そこへドラゴンの群れが現れる。

「ドラゴン……神の遣い。私のしもべたちよ」

マナはドラゴンたちに向かって手を差し伸べる。が、その声を無視してドラゴンたちはマナに襲いかかった。幼い悲鳴、そして肉と骨を食いちぎる音。神に愛されていたはずの司教は、神の遣いによって食い殺された。

一足違いで神殿に踏み込んだカイムには、もはや討つべき敵の姿を見出すことはできなかった。

「やつは我が同胞に食い殺されたようだな。卵を前にしたドラゴンに、人間の司教ごときの洗脳は効かぬ」

なぜ、ドラゴンがそんなことを？ 信じられぬ思いで問うカイムに、ドラゴンは残酷な真実を告げる。ドラゴンの存在意義、それは神の意に叶う優良種だけを淘汰する役割を担うこと。卵が出現した今、神の失敗作である人間を葬り去らねばならない。

「我らの契約はここに終了する」

卵の出現によってドラゴンたちに下された指令。カイムの契約相手である真紅の竜もその例外ではなかったのである。

「生きたいのなら、まず我を倒せ！」

共に幾多の死線を乗り越えてきた戦友との死闘が始まった。割り切れぬものを感じながらもカイムは剣を構える。ドラゴンの吐く炎の先にはいつも敵がいた。それが今は、他ならぬ自分に向けられている。味方として頼もしく心強かった攻撃が、敵として対峙したとき、これほどの脅威となるとは……

手の内を知り尽くした者同士、戦いは長きに及んだが、ついにカイムの剣先が止めの一撃を放った。

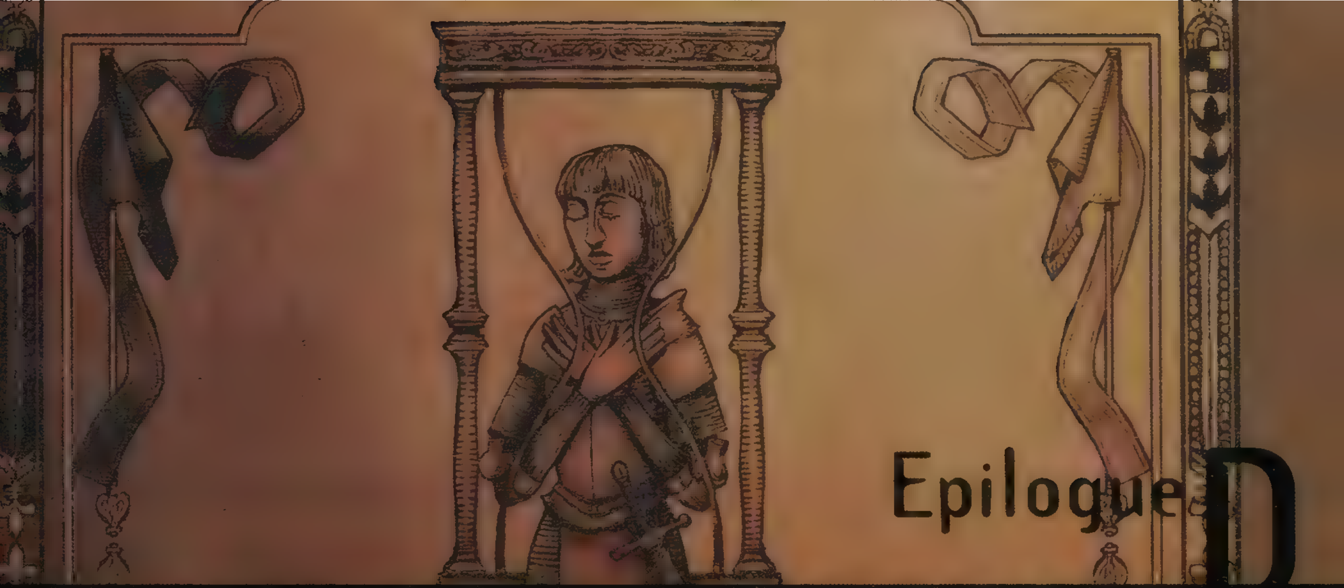
「おぬし……強くなったな」

苦しい息の下、それでも満足そうにドラゴンはつぶやき、絶命した。カイムは祭壇に歩み寄り、卵を剣で切り裂く。最後の最後まで神に抗う、その決意の表明だった。

神殿の外からドラゴンたちの咆哮が聞こえてくる。壁に、柱に亀裂が走った。剣を振りかぶり、カイムは走る。最後まで抗い続けるために。

Epilogue C





Epilogue D

「あれは……なんだ？　なぜ、おおいなる時間を歪める？」

あまりにも巨大な敵の本体、世界のすべてを呑み込もうとしている異形の者に圧倒されたヴェルドレが叫んだ。そのときだった。

「熱い！　からだが熱いよ！」

セエレが突然、苦しみ出した。ゴーレムが、セエレは敵の本体と反応し合っていると告げる。

「幼子が失ったものは時間。あり得ぬ話ではない」

おおいなる時間を歪める敵の本体と、永遠に止まった時間の中に生きるセエレ。似て非なるものを持つ両者が引き合い、反応し合っていたのだ。

「セエレ、ケイヤク、キレル」

ゴーレムが苦痛の声をあげる。しかし、セエレは寂しそうにゴーレムを見やると、短く別れの言葉をつぶやいた。

「僕をあそこまで連れてって」

セエレはドラゴンに訴えた。

「僕しか……いないんだ。同じものを持っているのは僕しか……」

大いなる時間を歪めている敵に、喪われた時間を持つ者が接触すればどうなるか。セエレは本能的にそれの意味するところを悟っていた。それでも良いのかとドラゴンに念を押され、セエレは母親から繰り返し聞かされたおとぎ話を語り始める。時の滴に浸った体を持つ小さな勇者。己の命で世界を再生させた勇者に、セエレは自分を重ねていた。

「神話において勇者はいつも希望だ。おぬしにも……その血は流れておる」

ドラゴンに勇気づけられ、セエレはカイムとともに敵の本体を目指す。空を覆い尽くす敵たちの間をすり抜け、ドラゴンが飛ぶ。敵の本体が近づいてくる。

セエレが飛び降りたその直後、群がる敵たちはカイムとドラゴンを捕らえた。ドラゴンの喉に、翼に、敵たちが食らいついた。持ち主を失った剣が落下していく。

「これで……許してくれる？　マナ」

敵の本体の、丸く膨れ上がった腹の上でセエレは、自らの手で命を絶たねばならなかった妹に許しを乞う。救えなかったひとつの命の代わりに、世界中の人々の命を救うこと、それがセエレの贖罪だった。

セエレの体から力が抜け、ゆっくりとその瞼が閉じられる。セエレの眠りは敵の本体を闇へと帰していく。

そして…世界の崩壊は止まった。たった一人の「小さな勇者」が救った世界に、新しい夜明けが訪れようとしていた。

……長針を止めるだろう

a weakling in an eternal solitude will even





全ストーリー執筆　映島 巡

失われた世界　私達は

光の奔流に呑み込まれたカイムとドラゴンは、いくつもの時空の狭間を越え、いくつもの光と影をくぐり抜けていった。一瞬のようでもあり、永遠のようでもある旅は、唐突に終わった。

不意に光の渦が消え去り、彼らは自分たちが見知らぬ世界に飛ばされたことを知る。所狭しと詰め込まれている奇妙な形の建物、曇り空にも似た灰色の街路。帝都で目にしたどの建物よりも、遥かに高く巨大な塔。地鳴りとも、羽虫の群れが飛び交う音とも違う、耳慣れない音に包まれた、謎の世界。

「ここは……神の国なのか？」

新宿。カイムたちが旅路の果てにたどり着いたのは、二十一世紀の日本だった。

しかし、今は驚き、戸惑っているときではなかった。敵の本体もまた、カイムたちと同じ世界にいた。たとえ自分たちの属する世界から引き離されようとも、戦いは続いている。

瓦礫の中から起き上がった敵の本体は、突如として歌い出した。白と黒、光と闇、聖と邪。それは、ふたつの相反するものが織りなす滅びの歌だった。

その禍々しい波動をドラゴンは己の咆哮でうち消していく。滅しようとする者と守ろうとする者の、奇妙な二重唱は続いた。

やがて敵の本体は力尽き、滅びの歌は止まった。巨大な体が音をたてて崩れ落ちる。

「やったぞ！　ついに……」

戦いは終わった。夥しい破壊と殺戮をもたらした敵は、異境の地で斃れた。勝利の喜びに浸るカイムとドラゴンは、地上で逃げ惑う人々の存在に気づいていない。

次の瞬間、閃光と衝撃がカイムたちに襲いかかった。何が起きたのかわからぬまま、カイムとドラゴンは想像を絶する高熱に灼かれ、落ちていく。

あの異形の者たちがカイムたちの世界にとって敵でしかなかったように、カイムたちもまた、この異世界では決して受け容れられない存在だったのだ。

勇者たちを撃ち落とした二機の戦闘機が、機体を煌めかせて新宿上空を旋回している。彼らもまた、自分たちの世界を守る者であった。

「こちらスカーフェイス。目標に命中。正体は依然不明。霞ヶ関方面に落下した模様……」

Story of
DRAG ON DRAGOON

Epilogue E



第四章

weapon & magic

物神

霊力を持つと考えられ崇拝されている物体のこと

ソード、スピア、アクス…物語に登場する65種類の武器はすべて異なる形をし、異なる物語を持っている。このページではそれらのすべてを解説・紹介している。

SWORD ‖ソード‖

もっとも一般的な武器の一つ。主に対人戦において使用することを目的とされている。特徴としては「乱戦時においてソード自体を振り回しやすいように短く作られている」「刺突戦法としての使用も考慮されている」「相手の武装ごと破壊するために丈夫に作られている」が挙げられる。
「没落した王家の剣」や「古の覇王」などはソードとしてはスタンダードな部類に入るが、中には相手の武装ごと切断するハンティング・ナイフ型の「領主の狩猟刀」、「涅槃の短剣」のようなクリスと呼ばれる刃のうねった形の剣も見られる。「輪廻転生」や「地竜の鉤爪」のような武器はハルパーと呼ばれ、相手の部位に刃を引っかけ引きちぎる使い方をする。「白蝋の剣」のように刀身からいくつもの刃が突きだした物はソード・ブレイカーと呼ばれる。また、変わった剣（道具）としては「首切り包丁」が挙げられるが、これは調理用に作られた物を武器として使用している

没落した王家の剣

Glory's Bane

ギュリルクロウ



Glory's Baneの[illegible]

Glory's Baneを和訳すると「栄光に降り懸かる災い」となる。栄華を誇っていた王国が滅ぼされたとある武器物語の内容を表した名前となっている。

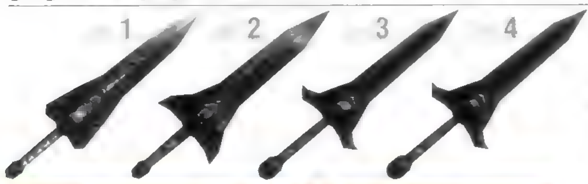
WEAPON STORY

邪悪な竜により国を滅ぼされた王族の剣。その栄華を誇る派手な装飾とは裏腹に、刀身には滅ぼされた王族の怨念が込められているという
王族の怨念は持つ者を呪い、この剣を振るった者は毎夜、悪夢にうなされ続け、最後には必ず不幸な死を迎える
ある小国の王も剣の美しさに心を奪われ、悪夢にうなされ続けながらも常に身に着けていたが、同じように悪しき竜によって国を滅ぼされた。
この呪いから解放されるには、この剣を使い王家[illegible]を奪うことらしいのだが、未だかつて呪縛から逃れた者はいな……

古の覇王

Ancient Dark

トールクロウ



「古き時代の夕暮れ」の意。一国すべての人間の血を吸い尽くした邪剣、古の覇王。栄華を誇った国が一本の剣によって滅びた寂しさを感じさせる名前である。

WEAPON STORY

太古の文明で絶大なる権力を持っていたといわれる王が所持していた剣。その覇王の手により王国は栄華を誇り、繁栄を極めた……
熟れた果実は腐り落ちていくのみ。王の権力の下で驕り高り自ら歩むことを止めた民により、王国は堕落し衰退の道を辿っていく
すでに己の力ではどうすることも出来なくなっていることに気づいた王は、邪神を自らの愛刀に召喚し、堕落した民の虐殺を繰り返す
剣に宿りし邪神は血を吸うことの喜びに打ち震え、最後に残った王の命を奪った頃には、白銀だった刀身が、血に染まり漆黒になっていったという

領主の狩猟刀

Hunting knife

ケルベロスファング



動物などを狩る際に用いられる刀をハンティング・ナイフ（Hunting knife）と呼ぶ故に英名もその通り。武器物語の弱者と強者の物語はまるでおとぎ話のようだ

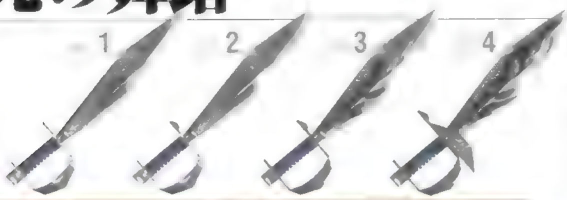
WEAPON STORY

とある国の領主が狩猟の際に必ず持ち歩いた、お気に入りの剣。領主は動物の命を奪う快感に溺れ、意味もなく日々狩猟を続けていた。
ある夜、森の動物達が集まり話し合いをした。「これ以上、殺戮を繰り返すつもりなら自分たちが領主を討つしかない！」領主の屋敷を囲み、機会を窺う森の動物たち。その様子に気づいた領主は大喜びする
「このわしに狩られたがっておるのか！」
喜び勇んだ領主の前に、非力な動物達はなす術もなく[illegible]森からは動物達の姿が消えた。結局、領主は天命をまっとうしたという

死の舞踏

Deathdance

フィーラーオブカオス



剣名と同じ意を指す。踊るように敵を惨殺する様を想像させる名前だ。武器物語を読む限り、深く美しいエピソードがこの剣には秘められているのだ

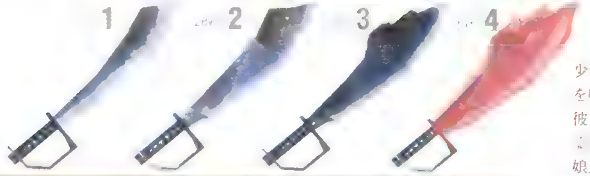
WEAPON STORY

遥か昔、強大な力を持つ隣国の圧力に苦しみ、崩壊寸前の小さな王国があった
隣国に攻め込まれた国は女子供も容赦なく処刑され滅亡していく
王国には美しく、そして勇敢な姫がいた。王国の危機を救うために立ち上がる姫。姫は踊り子に化け隣国の皇帝の酒宴に潜り込む
姫の舞は恐ろしいほどに妖艶で美しく皇帝も一瞬にして心を奪われた。姫を呼び寄せる皇帝。気づいた時には彼の胸に刃が突き刺さっていた
その後、皇帝を失った隣国は勢いを失い[illegible]
説は、今も語り継がれ、この剣を持って舞[illegible]

少年の欲望

Immature

フェアリーホーン



「Immature」は「未熟」という意味がある。己の若さと美貌で次々と純粋な少女たちの心を弄んだ、少年の未熟な精神性そのものを指す言葉と言えよう。

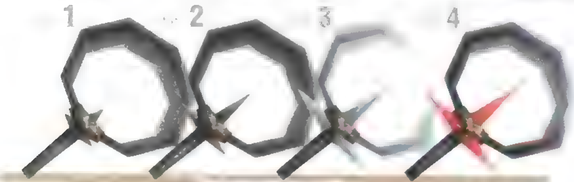
WEAPON STORY

少年は若く、美しかった。彼は村から村を渡り歩き、次々と村娘達に甘い言葉を囁いて結婚を申し込む
彼女達は少年に家畜や、家や、お金、[illegible]
[illegible]祭りの夜に少年のウソがすべての村娘[illegible]
娘達の怒りは凄まじく、妖精王の力を借りて少年[illegible]ながらにして剣に封印されるという魔術であった
今も冷たい刃の奥深くから、己の罪深さを嘆く少年の声なき叫びが聞こえるという

輪廻転生

Reincarnation

ブレスオブミカエル



輪廻転生、霊魂再来…、魂は一つでそれが幾度も現世に生まれ変わるという教えの言葉である。だが、皮肉にもこの武器は人を殺すことを目的としている。

WEAPON STORY

深い森に囲まれた領地をも[illegible]その剣を使う者は大天使の祝福に[illegible]
元々は拷問用の武器で、[illegible]内側の刃は苦痛を与えるために刃を鈍くしてある
柄の部分には毒を入れることができ、相手の身体に剣先を突き刺すと鋭い突起の先端から毒が飛び出し、相手を即座に死に至らしめる
あまりの残虐さゆえ時の皇帝より使用を禁じられた後、歴史の裏舞台で暗殺用の武器として独自の進化を遂げることになった

地竜の鉤爪

Dragon's Hook

クロウオブアイアンウィドウ



「龍のフック」との意　鉤爪のように湾曲した剣の形を、そのまま表した英名のようだ　武器物語によると、龍の表皮や爪は石化してもその硬度は変わらないようである。

WEAPON STORY

帝国の考古学者が聖なる地の遺跡から掘り[illegible]何かの生物の化石[illegible]しいのだが、化石を包む岩が異[illegible]
当初は貴重な化石を前に、慎重に、丁寧に扱っていた考古学者だったが、いかなる道具や強力な火[illegible]
壊すどころか削ることもできない化石に苛立ち、己を見失った考古学者は化石[illegible]頭を何度も打ちつけ、そのまま絶命してしまった
[illegible]する刀身は地竜。地竜の爪は闘いの中、流れる血で削られていく　それを知っていれば考古学者は無駄な死を迎えずに済んだであろう

首切り包丁

Butche knife

ブレスオブサクリファイス



「首切り包丁」とあるが、英名を和訳すると「肉切り包丁」となる。世の中で一番旨い食材は何か？　という応えを導きだしたいわくつきの包丁だ。

WEAPON STORY

滴り落ちる肉汁、口の中に広が[illegible]
シンプルでありながら、誰もが唸[illegible]
彼の店には連日行列ができ、贅を知り尽く[illegible]うためならば、お忍びで城から抜け出すほ[illegible]
料理人の笑顔は、ひとたび調理場に入ると[illegible]た大きな肉の塊はどうやら食用のものではなか[illegible]
時代が移りすぎ、料理人もその店も、その街も[illegible]丁だけは錆びることなく次の出番を待ち続けている

涅槃の短剣

Kris

ウォイスオブザクレセント



波打つような刃の形状をした剣を「クリス」と呼ぶことから付けられた英名と思われる　クリスは実在する剣で、マレー民族の間で使われている剣だ

WEAPON STORY

[illegible]
第一代の人柱は敬虔な信者であった。清らかなる少女は純粋に神殿の礎となることを選び、自らの命を絶った
第二代の人柱は心優しい町娘であった。人柱に選ばれたことを悲しみ[illegible]人々の役に立つならばと、[illegible]
第三代の人柱は盗みを働いた娘であった。娘は神を呪いながら息絶えた。その[illegible]、直刀であった剣身は捻じ曲がったといわれている

白蝋の剣

Sword breaker

ブレスオブインビジブル



Sword breaker の[illegible]

刀身にいくつもの刃が突き出た独特の形状をした「白蝋の剣」 このような武器をソード・ブレイカーと呼ぶ 名前の由来もおそらくそこから取ったものと思われる

WEAPON STORY

鋸状の刃で相手の剣と肉を切り裂く剣，この剣をあまり使い過ぎると引き裂く時の振動で指がしびれ、蝋のように真っ白くなり体が動かなくなる
今よりも何百年も昔、黒き肌の騎士はこの剣を使いこなし数々の武勲を立てていった 次第に漆黒の体は雪の様に白くなってゆく…
時が経ち、国の威信を懸けた大戦で敵大将の首を討ち取り勝利を治めた黒き騎士。彼の体は既に白を超え透明で誰の目にも見えなくなっていた
勝利に喜び歓声が上がる中、一人の兵士が空に向けて放った祝矢が黒き騎士の心臓を貫く しかし兵士達は誰一人、彼の死を知ることがなかった…

LONG SWORD | ロングソード

ロングソードのもっとも大きな特徴は、剣を鍛錬するときに表面だけでなく剣の芯から鍛えることにある。これはロング・ソードが敵を斬るというよりも、強い力で叩くといった使い方をすることを考慮してのことと思われる。
「カイムの剣」や「連合軍兵士の剣」はもっともスタンダードなクレイモア、グラディウスといった剣種で、「ゆりの葉の剣」のような刀身が湾曲した刀はシャムシールと呼ばれ、日本では三日月刀と呼ばれる剣である。「鉄塊」はもはや剣というよりは打撃武器に近く、異常に広い刀身で敵をなぎ倒す使い方をする。また「信義」、「月光と闇」などは日本刀と呼ばれ、西洋で使用された剣類とはまったく違った用途と製法を用いる。日本刀は剃刀のような鋭い刃を持ち、剣の重みで対象を切り裂くことに特化している。特に一対一での対人戦で高い効果を発揮した

カイムの剣

Caim's sword

ブレイシングウィング



Caim's sword の[illegible]

名前の通りカイムの名を冠する剣である 武器物語の通り、カイムの父が使用していた武器である。カイムはこの剣に誓って帝国軍への憎悪の念を忘れない

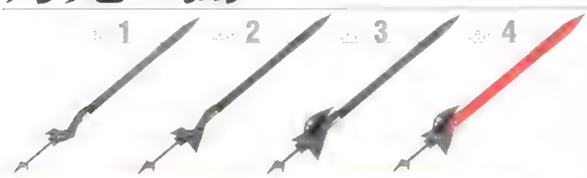
WEAPON STORY

カイムの父の形見の剣。国王であった父は強く優しい存在で、幼い頃からこの剣を持ち闘う彼の姿にカイムは憧れていた
しかし、平和だったカイムの国にも帝国の影が忍び寄る。帝国は日々勢力を拡大し、やがてカイムの城にブラックドラゴンの軍勢が襲い掛かる
「カイム…フリアエを連れて逃げろ」襲撃された城の中で、父はカイムにそう告げる カイムが返事をする間もなく、目の前で父と母が惨殺された
「国を滅ぼし、父と母を殺した帝国とドラゴンを倒す！」亡き父の形見を手にカイムは誓う。たとえそれが憎悪の炎で彼を焼き殺そうとも

月光と闇

Crescent

ファングオブイフリート



Crescent の[illegible]

「Crescent」とは三日月の意味がある 刀の形状を指してクレセントと呼ぶわけではなく、月光と闇の和名から付けられた名前であると考えられる

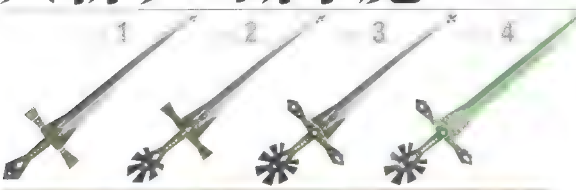
WEAPON STORY

常に強烈な冷気を放ち続ける大理石でできた剣 冷気を司る月神の加護を受ける者のみが熱に屈することなく剣を振るうことができるという
ある屈強な戦士がこの剣を手に戦場に向かった 雄叫びを上げ最前線へ向かう戦士。その目の前に幾百の弓兵部隊が…。彼の体を数百もの矢が貫く
しかし！彼の体からは一滴の血も流れず、それどころか確実に心臓を貫いているのに、その力はいっこうに衰えない 戦いは彼の軍が勝利を収めた
勝利を手に駐屯地に戻る戦士 そこで剣を置くと同時に彼は氷に包まれて絶命する 月神の強い魔力が彼の命を永遠に奪ってしまったのだ

人斬りの断末魔

Slaughterum

サンダークロウ



Slaughterum の[illegible]

「Slaughter」は虐殺という意味 無差別に大量の人間を虐殺しつづける宿命を背負った剣であるため、この訳語になっていると思われる

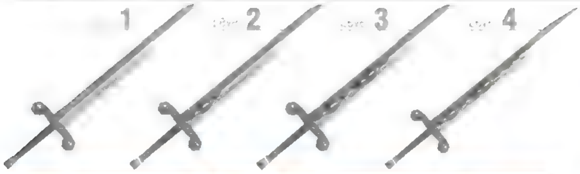
WEAPON STORY

人を切る快感に溺れ、毎夜罪もない者の命を奪い、その血でこの世のものとは思えぬ素晴らしい絵を描き続けた悲しき哀れな絵師の剣
絵師には夢があった。「僕の絵で世の人々の気持ちが安らげばいい」
そんな気持ちで絵を描き続けていたのだが…。
彼の芸術は認められず、そればかりか変人として街の人々から冷たい視線を受け続ける。絵師の繊細な心は次第に崩壊していった。
「赤！赤い色！！アガーッ！！」叫びながら人々を殺め続ける哀れな絵師 最後は自らに刃を刺し、笑顔で息絶えた…

連合軍兵士の剣

Soldiers Sword

ブレスオブスレイプニル



直訳すると「兵士の剣」となる。連合軍の使用する一般的な剣と思われていたが、実はとある一族に伝わる秘伝の技で製造された由緒ある剣だと発覚している。

WEAPON STORY

ある一族が守り続けてきた特殊な製法で鍛え上げられた剣。その製法は決して他者が知ることはなく、一族のものだけに伝えられる術だった
門外不出の剣の製法を奪いに、この一族に入門した敵国の兵士 兵士はその技法を習得し国へ帰る手筈を整えていた
しかし、彼には大きな悩みがあった。一族の血を引く娘に恋してしまったのだ
一族の元から立ち去る日、全てを知った娘は秘術を守るため
自らの命をも絶つ。そして今も、秘術は一族に伝え

デボルポポル

Debol popol

クリムゾンフィーラー



姉妹の刀匠「デボ」と「ポポ」の名前が剣の由来 英名でもその名は引き継がれている。

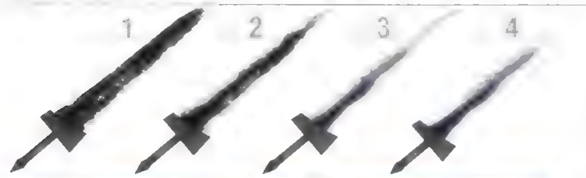
WEAPON STORY

姉妹の刀匠「デボ」と「ポポ」が叩き上げた剣。デボの剛力とポポの繊細さ。王国のどんな鍛冶屋が挑んでも、この二人に勝てるものはいなかった。
ある日、二人の評判を聞きつけ一人の吟遊詩人が現れる。詩人の天使のような美しい容姿とやさしい性格に二人の心は一瞬にして奪われた
詩人の愛をその身に受けようと必死で剣を作る二人。だがお互いが詩人を求め醜く競いあったために出来上がるものはなまくらな刀ばかり
それを見かねた詩人は二人を嫁に迎え入れる。深い愛情に満たされた姉妹は、

護衛隊士の誉

Abdul-Hamid

ケルヒックブレス



「Abdul-Hamid」の言葉自体に明確な意味はなされていないが、おそらく人物名かと想像できる。憶測ではあるが、武器物語中の聖人の名を指すのかもしれない。

WEAPON STORY

聖人の護衛隊士達が所持していた剣 飾りのない質素な造りで、幾度となく戦闘をくぐり抜けてきたにも関わらず折れる事はなかった
聖人を護衛するのは１４人の少年少女達。いずれも親に捨てられた孤児ばかりである。そんな子らと家族同然として聖人は共に生きてきた
あるとき数十人の山賊に襲われた一行は、
傷ついても何度も立ち上がり、聖人の乗る馬車を守
持った者が救われるよう願いを込めて祝福儀礼を施したのである

解放の剣

Sword Freedom

ホイスオフグンクニル



自由・希望といったイメージを想像できる名前で、武器物語でもそれらを想起させる事柄が書かれている。だが、輝かしい事柄の裏にはつねに犠牲者が存在している。

WEAPON STORY

自由の象徴としてその時々の英雄が所持していた剣 正義
福として教会より魔術である「神の槍」を使う事が許されていた
最初の英雄は、攻め込んできた異国の軍隊を圧倒的な力でねじ伏せた指揮官だった 彼はその手で何人もの敵兵を血に沈めた
次の英雄は、国王に歯向かう革命軍を打ち破った司令官だった 彼は革命軍のメンバーを次々と捕らえ、その場で処刑していった
最後の英雄は、異国を侵略し植民地とした功績
領後、彼は何万人もの罪なき人々を虐殺した

鉄塊

Ironcluster

アイオブサクリファイス



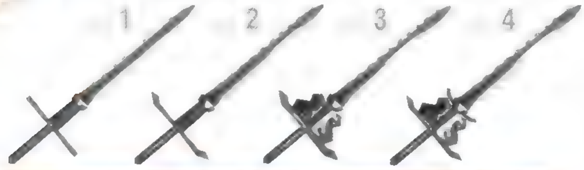
「鉄塊」の名の通り、鉄で破壊するという意味を持つ 他の剣とは一線を画す鉄塊 かろうじて剣の形を成しているものの、血を吸う「鉄」という生物のようでもある。

WEAPON STORY

この世界で最も大きな剣。普通の人間では振るうどころか動かすことすらできず、今までこの剣を使おうと思う人間はいなかった
この大剣を所持していた「バッカス将軍」は、弱者の命でさえも容赦なく
血漢で、自分の力を誇示するために殺した敵の鎧を溶かし作
命を奪う度に重くなる大剣 次第に持ち運ぶのさえも困難になり、誰にも、当の本人さえも扱えなくなっていった
ある朝、バッカス将軍の惨殺死体が見つかる 屍の傍らには血に染まり肉片の付いたこの鉄塊。一体誰がこの剣を振るったのであろ

焔の簧

Flameberge



火炎の形を成す剣のことを「フランベルジュ」と言う。武器物語での火竜との一節も併せ、炎をキーワードにした剣が「焔の簧」なのである。

MAGIC

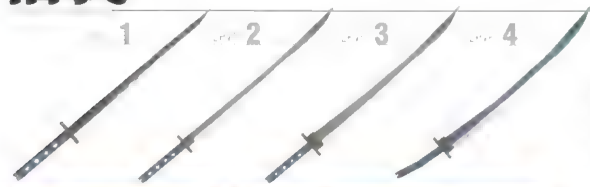
ボイスオブインフェルノ

WEAPON STORY

「火炎」の意味を持つ剣。波状の刃は相手の傷口を広げ致命傷を負わせる。元々、この剣はどこにでもある普通の剣だったという。
太古の時代、竜との果たし合いを挑んだ者がいた。灼熱の炎に溶かされ続ける刀身。戦士は最後の力を振り絞り竜の舌を引き抜き刀身に巻きつける。
刀身は瞬く間に炎に包まれ、竜の炎と互角の力を持つようになる。しかし、その灼熱ゆえ最後には竜も兵士も灰となり、この剣だけが残った。
以来、この剣には竜の炎の力と強力な魔力が宿り、力の無いものが振るおうとするとたちまち紅蓮の炎にその身が包まれてしまうという。

信義

Nobuyoshi



刀名の通りである。日本刀は刀匠の名前を刀に付けることが多いが、「信義」もそういった理由からの名前か、もしくは物語中の歌人の名だと思われる。

MAGIC

スサノオの牙

WEAPON STORY

遥か東の国の都に歌を詠むことで生計を立てている歌人がいた。自分の才能に限界を感じ始めていた彼は、ある日妖怪と契約をしてしまう。
妖怪の力により、次々と新しい歌を発表する歌人。どの歌も素晴らしく、都中の評判となる。ついには将軍家のご指南役にまで昇進した。
ある日、妖怪が再びやってきて歌人に言った。「おまえの一生分の才能はもう使い果たした。おまえは二度と歌を詠むことができないだろう。」
妖怪の言ったとおり、彼は一行の歌も詠めなくなってしまう。世を儚んだ彼は、自害してしまった。その剣は今も彼の血で鈍く光っているという。

貴正

Takamasa



「貴正」も刀匠の名か、物語の主人公の武士と名と考えられる。とある説では「DOD」に深く関わる人物の名だとも言われている。

アマテラスの息吹

WEAPON STORY

初めて彼に会った時、鼻を突く異臭と苛立ちさえ覚えるみすぼらしい坊主姿からはとても名高い君主の下に仕えていた武士とは思えなかった。
[illegible]たい、何が彼をここまで落ちぶれさせたのであろうか。
彼の話によると、お家騒動に嫌気が[illegible]
見てくれに気を使い剣の修行を怠った武士に世の中は厳しかった…。
「あの時……掬植家とうまくやっていれば……。」そう言いながら彼はまた空を見つめる。今もどこかで彼は途方に暮れているのであろう。

南海の魔神



直訳すると「南の魔神」。和名とその意味は変わらない。物語の内容は、封印されている物には必ず何か意味があり、封印を破る者には災いが起こるといういい例だ。

ボイスオブバラム

WEAPON STORY

七つの海を股にかけ商売を行った大商人がいた。商人は新たな大陸を幾つも発見し、巨万の富を築いていった。
ある時商人は、南海の海の底、太古の昔に海中に没した失われし大陸に「闇を呼ぶ剣」と呼ばれる魔剣が埋もれている、という噂を聞きつける。
商人は珍しい剣でまたも儲けようと、南海へと旅立つ。苦労の末見つけた剣は、魔神を模した石像の口に咥えられていた。
突如剣より無数の火の弾が発生。商人の船は海の藻屑と消えた。数日後商人の亡骸が海岸に流れ着く。その手には湾曲した長剣が握られていた。

ゆりの葉の剣



インドで使われた流線型の美しい剣の名がソースン・パタである。ゆりの葉の美しい形があたかもそれに似ていることから命名された名前だと思われる。

バスタードウィング

WEAPON STORY

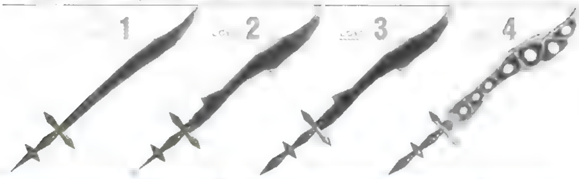
美しく湾曲した刀身からは考えられない、おそろしい呪いが込められた剣。自らを裏切った恋人を我が身と共に貫いた少女の怨念が刀身に宿っている。
この剣に魅入られたものは、己の手が剣から離れなくなり、自らの意思とは関係なく人を殺める。この呪いを解くには自分の腕を切り落とすのみ。
自らの腕を切り落とし呪縛から逃れた者は、その剣に自分の精神が宿り、念じるだけで自由自在に操れるようになる。
腕を切り落とさなくてもすむ唯一の方法は、剣に宿りし少女の魂を魅了することらしいのだが、いまだかつて切り落とさずに済んだ者はいない。

鬼を裂くもの

Ogrerippar

MAGIC

ウィザートホイス



鬼の縦挽き鋸といった意味となる。鬼（闇）とは武器物語内で登場する鬼そのものである。刃が歪み穴まで空いたその姿は鋸の如く破壊性に優れている。

WEAPON STORY

鬼に家族を惨殺された鍛冶屋が、復讐のために鍛え上げた剣。斬りつけた者の魂を、また主の魂を吸い取り破壊の力へと転換する能力を持つ。
腕の良かった鍛冶屋は、王国より「鬼を斬る名剣を打て」との命を受ける。名剣を鍛えるべく苦心する鍛冶屋の家に、突如鬼が現れた。
鬼は「鬼を斬る剣は、怒りと憎しみを持つ者が打たねばならない」と告げ家族を惨殺して去った。鍛冶屋は家族の亡骸を抱き血の涙を流した。
[illegible]

AXE ‖アックス‖

棍棒などの打撃武器の先端に刃を付け加えた物が斧と分類される武器である。ソード、ロングソードは斬る、叩き斬るといった用途が、スピアは突き刺すといった用途があるが、斧は先端についた刃を直接使用するのではなく、その重量と武器を振る強烈なスピードで相手を一撃で倒す使い方をする。斧の持つ強烈な一撃は相手が鎧をつけている状態でも充分通用し、堅固な防御力を誇る重装歩兵であっても、鎧の上側から充分なダメージを与えることができるのである。

断罪の斧、「赤の旋風」などは比較的スタンダードな斧であるが、中には「骨砕き」のようなハンマー型の物や「渇きの戦斧」のような両刃型の物も存在する。これらの斧は強大な破壊力を秘めるが、唯一の欠点は武器その物が非常に重く、使用者の能力に非常に左右されやすいことが言えるだろう。

断罪の斧

スピリチュアルホーン



様々な解釈はあるのだろうが、あえて「審判の広告塔」といった解釈とした。あらゆる事柄をジャジメントする際にシンボルとなる斧と言ったところだろうか…。

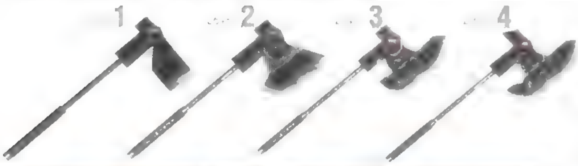
WEAPON STORY

若い二人が祝福を受けながら結婚しようとしていた。結婚式の前夜、夜の闇の中に小さく光る精霊の姿を花嫁が見つける。
精霊が囁きかける「お前の夫をお前だけのモノにしないか？お前だけを愛するべきじゃないか？」花嫁の心の隙に精霊が甘く問いかける。
彼女が正気に戻った時には、手には血で染まる斧が握られ、床には夫の首が、首だけが転がっていた。「コレデオマエダケノモノニ…」
時が過ぎた今でも、夫の首を持った妻の亡霊が、血まみれのドレスを着て村を徘徊することがあるという。

赤の旋風

Crimson Gust

キカンテスクロウ



「深紅の突風」の意。和名の「赤の旋風」と同じ意味を持つ名前である。この赤、紅というキーワードは武器物語中に登場する真紅の宝石にまつわる逸話で語られている。

WEAPON STORY

数百年前、赤装束に身を包んだ義賊がいた。悪徳商人から奪った財宝の使い道に迷った義賊は集めた金銀を溶かし煌びやかな斧を作り上げる。
初めは財宝の使い道に満足していた義賊であったが、斧がより豪華になるにつれ欲望に心を囚われ、罪のないものからも財宝を奪うようになった。
ある日、王国一の魔術師の屋敷に乗り込んだ義賊は一枚上手であった魔術師に捕まってしまう。[illegible]
しかし義賊の病んだ心はもう戻せないことを悟った魔術師は、彼の身を真紅の宝石に封じ込め、その自慢の斧に埋め込んだ。

不浄なる斧

Axe of Filth

アイオブサラマンダー



直訳すると「不潔の斧」となる。人間は自分の持つ能力以上の物を手に入れるとそれに溺れてしまう。魔術師の心が少しづつ汚れていく様を表したかのような斧ではないか？

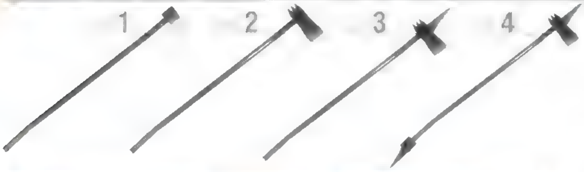
WEAPON STORY

野心家の魔術師が火トカゲを閉じ込めた斧。その破壊力と共に、炎の魔術を使うことができる魔剣に成長した。
魔術師は火トカゲの囁きを耳にする。「血を…さすればさらに強力な力を[illegible]よう」。力の魔力にとりつかれた彼は、やがて人を殺めるようにな[illegible]
「どうだ？我にもっと血を与えてみぬか？」魔剣はそう囁き、[illegible]
[illegible]
近年、魔剣と共に枯れ木のようになったミイラが発見された。闇に魅了されし者達に魔剣は今日も囁きつづける。「殺せ」と……

骨砕き

Bonebreaker

ファングオブクエイク



「骨の破壊者」となり「骨砕き」と同意の名前である。数ある武器の中で製法と使用方法は一番単純である。だが骨を砕くとの名前の通り破壊力は決して侮れない。

WEAPON STORY

どこにでもあるような木材から削り出した持ち手と、使い道のなかったあまりの銑鉄からできている。
どこにでもいるような年老いた鍛冶屋が年の初め、ずっと開けていなかった小屋の扉を開けるためにこしらえた。
どこにでもあるようなその扉の向こうは、見たことのない数の人骨で埋め尽くされていたが、年老いた鍛冶屋は誰にも言わなかった
どこにでもいるような年老いた鍛冶屋のどこにでもあるようなその道具は骨砕きといわれるようになった。

渇きの戦斧

Killer Hunger

ファントムアイ



「あまりの強さに敵を失い戦いに飢えた」といった解釈ができる。だが武器物語によると、「渇き」の意味は喉の「渇き」を指しているようだ。

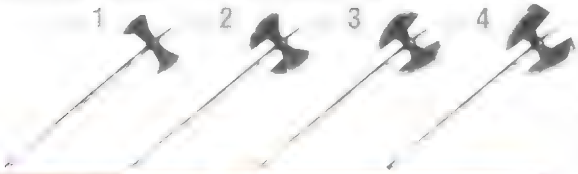
WEAPON STORY

数多くの病人を治してきた名医がいた。彼の名声は都まで届き、やがて時の国王が召し抱えるまでになる
数年の後、国の王女が不治の病にかかった。名医といえど、どうすることもできず、彼女が楽に逝けるようにしてやるのが精いっぱいであった
娘を失った国王は医師を逆恨みした。医師の家族すべてを処刑すると宣言、懇願する医師の言葉にも耳を貸そうとしなかった
激怒した医師は、王家の井戸に毒を投げ入れる。水を飲んだ王室の人間は喉が焼けただれ絶命した。その水で研いだのがこの斧である。

処刑台の記憶

Executer

ディバインネイル



「Executer」の訳は「執行者」である。処刑台で自分の命を絶つ権利を持つ物がその執行者なのである。死人に記憶はない。だが執行者には死の記憶があるのだ。

WEAPON STORY

帝国軍の牢獄にある処刑台で使われていた斧。この斧で幾千もの首がはねられた。初めは処刑に使われていた、ただの疎むべき存在であった
製作者自らがこの斧に倒れたことをきっかけに、斧がただの斧でなくなった
斧は何かを求めるように、小枝を落とすように次々と首を狩っていく
民からの人望も厚い王国の将軍も断頭台に頭を乗せられ、民衆が見つめる中、その血を流していく。処刑者に善悪はなく、あるのは首のない骸だけ
数百年の時を経て、斧はさまざまな首を狩り続ける。数十の王国の処刑を執行し更なる受刑者を求め、歴史の中を彷徨う

POLE AXE｜ポールアックス

ポールアックスとは長い柄の先に斧のような刃と、その反対側に尖った刃、また相手を突くための切先、柄部分にも刃を備えた槍のことをさす。主な使用例は、斧部分で力まかせに相手の体勢を崩し、さらに鉤爪状の刃で相手の鎧をはぎ、肉体が露出したところに先端の刃で止めの一撃を加える。

もっともスタンダードなポールアックスの形状をした武器は「霞切り」「王妃の玉座」などで、「日出国の魔刀」はポールアックスというより強靱な三日月刀と言えるだろう。また変わったところでは「死神の大鎌」がある。これは農作業などで使われる鎌を武器化したものであるが、名前の通り「死神」が持つと言われている武器そのものを表現した武器である。同じく鎌の名を持つ「背理の鎌」だが、これは実在するコルセスカという三つ又の武器と良く似ている

双子の牙

Twin Fang

ボイスオブロキ



「一対の牙」の意。「双子の牙」と意味は同じである。古代から「双子」という存在は何かしらの逸話が存在する。武器物語はそれら逸話の中の一遍を記している

WEAPON STORY

遠い昔、炎の力を持つ双子の神がいた。神は人間に火と知性、そして多くの言葉を与えて見守り続けていた
だが人は堕落し、双子の神の逆鱗に触れてしまう。双子の神は多くの都市に雷を落とし、洪水をおこし、炎で大地を焼き払おうとした
己の過ちに気づいた人間達は、神の怒りを鎮めるために巨大な斧を捧げる。それは幼い双子の血によって洗われた、呪わしき供物だった
神は双子を星にしてやり、人が二度と過ちを繰り返さぬように斧に破邪の光を封じ込めたという

霞切り

Mist Slasher



Mist Slasherの訳

武器物語では少女と少年の非常に美しい物語が記されている。「Mist Slasher」の訳は「霧」「めった斬り」とある。物語と武器のイメージは同じとは限らない。

カスケードファング

WEAPON STORY

ある村の少年と少女が恋に落ちた。少年は清く正しい心の持ち主で、少女は慎ましやかで明るい性格の子であった。
小さな川が流れる、小さな村で、二人は野や山を一日中駆け回り、ツユクサの冠とスミレ草の指輪で小さな結婚式を二人で行った
ある日、仕事を失った少女の父親は村を去ることになる。少女は村に残るように泣いて頼んだが、もちろんその願いが叶うことはなかった
二人の涙は地に落ちて、小さな池を作る。この斧は、その池に住む神様が気まぐれに木こりに与えた不思議な力を持つ斧である。

王妃の玉座

Queen's Throne



Queen's Throneの訳

「女王の王座」そのままである。美しい武器の名前とは裏腹に、この武器に秘められた物語は権力争いの醜さを表している。使用者はそんな物語など知る由もないが…

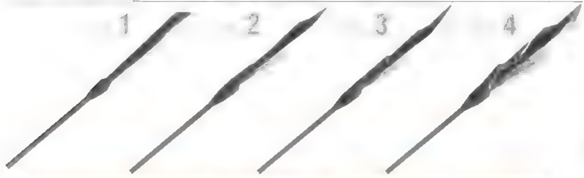
ヴォルテックスブラッド

WEAPON STORY

アウストラシア王ジギベルト一世妃ブルンヒルデは西ゴート王アタナギルドの娘で夫の死後、あとを継いだ息子が摂政となり実権を握った。
一方、ネウストリア王キルペリク一世妃フレデグンデはアウストラシア王国の領土をいまいましく思い、ジギベルト一世国王を暗殺してしまう。
アウストラシアとネウストリアは抗争を続け、ブルンヒルデの血族やフレデグンデの家族が次々と暗殺され、両国間は深刻な状態に陥る。
ブルンヒルデはネウストリア王クロタール二世との和[illegible]時に謀略に遭い処刑される。この斧はブルンヒルデの首を落した斧と言われている

日出国の魔刃

the raikuni



the raikuniの訳

正確な意味は不明。「raikuni」という名は「雷国」なのではないかと思われる。東方で製造されたことから想像するに、その国のある地方の名ではないのだろうか？

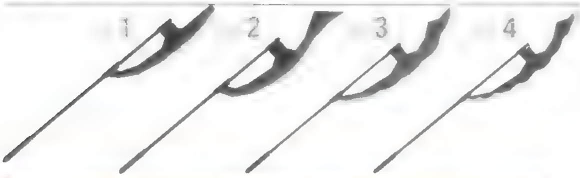
ブラッディネスオブザペイン

WEAPON STORY

東方の大商人が贅沢の限りを尽くし作り上げた至高の刀。その鋭い切れ味は空気をも切り刻み、斬られた者は痛みも感じずに絶命していくという
しかし、持ち主の業の深さが乗り移ったせいなのか、刀身に映る己の姿は醜い魔物の姿をしている。欲深いものが覗くとその姿はより醜く映るらしい
商人も自らの姿が誰よりも恐ろしく、目も当てられぬほど醜く映るので、できるだけ見ぬようにしていたのだが…
ある日、魔が差して覗いてしまったその姿は、この世のものとは思えぬほどの醜い姿だったため茫然自失となり、その場で自ら首をはねた

嵐神の閃撃

Thundergod



Thundergodの訳

「雷の神」の意。神と一言でいっても精神性が優れているのかは疑問である。武器物語内では、剣士の剣に神の力は宿ったが、嵐神の行為は神の行為とは言い難い。

トルネードホーン

WEAPON STORY

破壊的な風を巻き起こす嵐神の怒りが込められた槍。運悪く、この突風を受けてしまった者は、骨だけ残し血と肉が吹き飛ぶ。ある村に風を自在に操るやさしい青年がいた。青年の評判を聞きつけ彼の前に現れた嵐神
「お前の力がどんなものか、わしと勝負じゃ！
道行く剣士の外套を風の力で脱がせた方が勝ち。強烈な突風で外套を吹き飛ばそうとする嵐神だが勝負は暖かいそよ風で薄着にさせた青年に。
「人間の分際で、このわしに勝つな！」怒り出した嵐神は青年の血と肉を吹き飛ばす。その時の怒りが剣士の持つ剣に刻まれたという

火鱗の戦斧

Firescales



Firescalesの訳

武器物語では大規模な炎と洪水、嵐が地上に巻き起こったと記されている。「Firescales」は「炎の規模」と訳すことができる。人智を超えた炎を武器名にしたのだと思われる。

ブレスオブベリアル

WEAPON STORY

まだ人と神の境界が曖昧だった時代、天使と悪魔の大きな[illegible]ました。夜の闇は赤く燃え盛り、何人もの神が燃えて消えました
１０日間の炎に包まれた後、１００日間の洪水があり、１０００日間の嵐が地上を吹き荒れ、動物も植物も形あるものはすべて灰になりました
巨人族を操り、最強を誇った堕天使ベリアルもついには熾天使の手により痛手を負い、幾重にも閉ざされた氷の冥界に封印をされてしまいます
この斧は、ベリアルが封印前に傷ついた際に剥がれ落ちたウロコから削り出されて作られたといわれています

死神の大鎌

Deadly Sickle

MAGIC

ブラッドオブフォビドゥンシー



「致命的な鎌(シックル)」の意。地獄の門番である死神に出会うことは、自らの完全な死を意味するといってもいい。魂に致命傷を受ける鎌という意味なのだろう

WEAPON STORY

地獄の門番である死神が持っていたといわれる、「永遠の闇」の入口を切り開くための大鎌。闇に落とされたものは二度と生まれ変わらない
その男も「永遠の闇」の判決を受けて、死神に落とされるのを待っていた。鎌の刃先が暗黒の闇を切り開きはじめる。
その時、男は死神を後ろから突き飛ばした！吸い込まれていく死神の姿。「愚か者め…意味のないことを……」
すると鎌がひとりでに男の足元を切り裂いた。地獄の門番は死神ではなく大鎌の方だったのだ。そして大鎌は、今も罪人を静かに待っている

背理の鎌

Traitorsickle

MAGIC

ファングオブシルフ



Traitorsickle の

「Traitor」とは「反逆者」の意。武器物語で記される通り、禁忌の恋をしてしまったエルフは一族から「反逆者」の汚名を着せられる。反逆者を刈る鎌というわけだ。

WEAPON STORY

ある風の精霊が人間の若者に恋をした。精霊が人間と交わるのは禁忌であるにも関わらず、彼女の想いは日々募るばかりであった。
種族を裏切る精霊に与えられるのは死である。風の精霊の長は彼女の首を刈るように仲間に命じ、精霊にのみ効果があるという鎌を用意する。
気配を察知した彼女は、最後に若者にひと目逢おうと、森を駆け、海を渡り、山を飛ぶ。だが鋭い鎌を持った追っ手が彼女を追い続ける。
数年後、村ではある少年が元気に飛び回っていた。少年は自在に風を操ることができたのである。父親は彼を見守り続ける。何も語らずに。

SPEAR |スピア|

「SPEAR」(槍)は、穂先になる刃と柄を組み合わせただけの実に単純な武器だ。主な使用例は柄の長さを活かして、通常の武器では届かない位置にいる、遠くの目標物を柄の先の刃で突く、もしくは斬ることにある。槍は大きく分けて二種類に分けられ、柄に刃を付けただけの最も古典的なスピアと呼ばれる物、武器そのものが長いという特性を活かしつつ、刃を様々な形状に進化させた類のハルベルトやグレイブといった物がある。

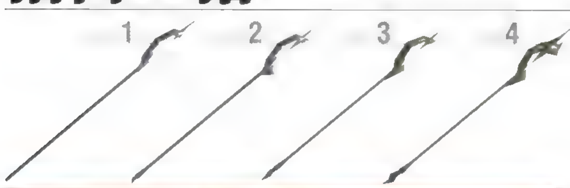
「王位簒奪者の槍」はスピアの代表的な形状の槍で、「バールベルトの涙」「草原の竜騎槍」などはランスと呼ばれる槍だ。「堕天使の槍」「兵士長の聖槍」のように刃が三つ又になったものはトライデントと呼ばれる。「血族の紋章」のように三つ又だが、中心の刃が長く尖った物はコルセスカと呼ばれる。「皇帝の槍」などは西洋の一般的なスピアとは違い東方の国で槍と同じような使用目的で創られた双刃の武器である。

招雷の槍

Lightningspear

MAGIC

ボイスオブゼウス



直訳すると「稲妻の槍」となる。魔法名にあるゼウス(ギリシャ神話の神)も稲妻をよく用いる。稲妻に関係する槍のようだが、武器物語を読むとそうではないようだ。

WEAPON STORY

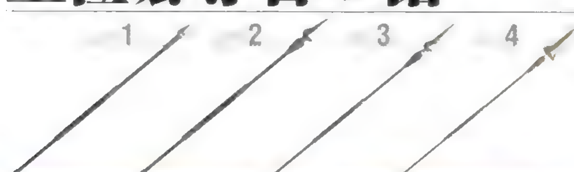
森の奥地にある古城から、夜の闇にまぎれて吸血鬼達が舞い上がる。村では多くの犠牲者を出したが、無敵の魔物の前になす術はなかった。
そんな噂を聞きつけ、腕利きのヴァンパイアハンターが村を訪れた。だが、彼もまたあまりの吸血鬼の数の多さに一人では戦えないことを悟る。
そこで四本の槍に秘石を埋め込み、村の若者に協力を依頼した。不穏な空気を察知した吸血鬼達はその夜、村に向けて一斉攻撃を開始する。
壮烈な死闘の後、朝の光の中には傷ついたハンター達と灰に戻った吸血鬼だけが残った。以来、この槍は村の守り神として奉られている

王位簒奪者の槍

Throne Usurper

MAGIC

ボイスオブイオ



Throne Usurper の

「Throne Usurper」は和名と同じ意で王座を簒奪(横領)する者の意。武器物語に登場する将軍が所持していたのであろうこの槍は将軍の人生を表す名を付けられた。

WEAPON STORY

連合国王の亡き後、権力を握り悪政の限りを尽くした皇后を人民からの信頼の厚い将軍が討った。将軍は平民の出で、話はよくある英雄譚
将軍の出自は平民の中でも最下級、人を殺める事を生業としていた辻斬りである。１５人目の標的を殺めたとき、警備兵に見つかり投獄された。
審判はすぐに下った、極刑。しかし将軍の人生を大きく左右した才能、それは美貌であり、その姿が皇后の目にとまることで極刑をまぬがれる。
皇后は将軍への愛情を注ぐが、それは執着へと変わっていく。将軍は皇后を虜にし失脚させることで王となる。是を知る者は将軍を簒奪者と呼ぶ。

草原の竜騎槍

Dragoon Lance

MAGIC

ウィングオブウル



「竜の槍」である。人に忌み嫌われる竜と一人の騎士の物語は心打つ物語である。一見単純な名ではあるが、武器に秘められた物語は清々しくそして熱い。

WEAPON STORY

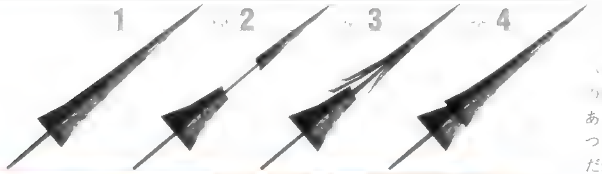
昔、飛べない竜がいた。荒々しいが高潔な心を持つ彼は人間と交わることはなかった。だがある日、傷ついた若き騎士と一匹の竜が[illegible]
竜は騎士を助けると、彼が目覚めるのを見届け、その場を立ち去ろうと[illegible]
翼のない竜は、役立たずと人に忌み嫌われていたからだ
別れ際、騎士が言った。「この恩は生涯忘れない」時が流れ、年老いた竜は人間の軍勢に取り囲まれる。竜が死を覚悟したその時……
「翼無き友よ！長く待たせたな！」あの時の騎士が国王となり、数千の兵と共に現われたのだ。竜は忘れていた牙を剥き出しにして吼えた

バールベリトの涙

Balberith

MAGIC

ボイスオブジン



人と悪魔の契約の際に現れる悪魔の名前である。そのバールベリトが所持していた槍なのだろう。さすがに悪魔が使っていたとあって、その殺傷力は凄まじい。

WEAPON STORY

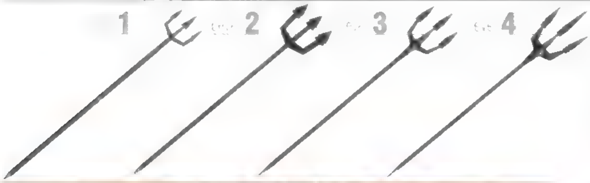
[illegible]
あるとき、バールベリトは一人の人間の女を好きになる。それは病気の父を持つ若い女であった。彼女は悪魔に言う。「私の父を助けてくだ[illegible]
だが、そうすれば女は地獄に堕ち、悪魔のモノにはならない。悪魔は悩み、いにひとつの答えを出す。「自分が代わりに地獄に堕ちればよ[illegible]
急いで女の家に行くと、[illegible]
理解できない悪魔は、女を延々と揺らし続けたという……

堕天使の槍

Corrupted Angel

MAGIC

ウィングオブスプライト



「Corrupted」とは悪くなったの意である。それに天使の名が付くのだから堕天使なのである。天使と悪魔は表裏一体。由緒正しき教会の神官も悪魔になりうるのだ。

WEAPON STORY

246の教会をもつ、大きな宗派があった。数百年も続く由緒正しき聖道。57代目の大神官である彼も、聖道への伝導活動を貫き通していた
真面目を通り越して愚直。まさに神の申し子、誰からも慕われる立派な神官であった。しかし、彼の聖道は愚直ゆえに堅く、外圧に弱くもある
この宗派を擁護していた国の王子が彼に問いた。「神と私のどちらが正しいか？」
彼は迷うことなく、神と答える。その答えに王子は激怒した
彼の宗派は邪教と御触れが回り、数百年の聖道が一瞬で霧散した。彼は罵りを受けながらも王子に面会。持参した槍で己の喉をつき許しを請うた

兵士長の聖槍

The Spear Longinus

MAGIC

ブラッドオブザヴァンパイア



「ロンギヌスの槍」の意。一人の兵士長が自らの天命を戦場で全うしようとするとき、一塊の槍も神々しく目映く。その槍はどんな名前であろうと彼を守り共に戦ったのだ。

WEAPON STORY

兵士長はその「死」を確かめる

己の感触は天地の涙へ

流れる血は闇から光へ

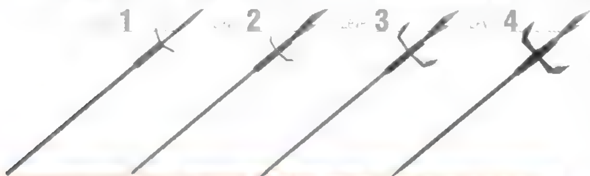
教えは命を奪い、新たなる命を与える

血族の紋章

Bloodly Emblem

MAGIC

フィーラーオブセラフィー



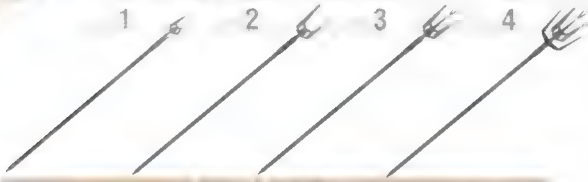
二人の兄弟の血が染み渡る槍。紋章のように刻まれる兄弟の血。「Bloodly Emblem」とは「血の紋章」の意。神はなぜむやみに人間に血を流させるのだろうか…。

WEAPON STORY

武芸に秀でた兄弟が治める国があった。剛の武を持つ兄と、柔の武を持つ弟
兄弟は非常に仲がよく、国政はいたって安定していた
ある日、一人の少女が兄弟に質問をした。「お二人は戦いで負けたことがないとお伺いしました。では、お互いが戦うとどうなるのですか？」
二人は、互いに自らの優位性を主張し合った。それは激しい口論になり、末には兄弟同士で殺し合いをはじめてしまった
この争いを見かねた神は、天から怒りの槍を降らせた。槍は兄弟を貫き、二人は息絶えた。人々は神の怒りを恐れ、この槍を祭壇に祭ったという

守りの槍

Spear of Defence



「防御の槍」の意。武器としては攻防一体の役目を果たす素晴らしい槍。だが「守り」の意味するところは、相手の攻撃の防御以外に精神的な守りの意味も含む。

MAGIC

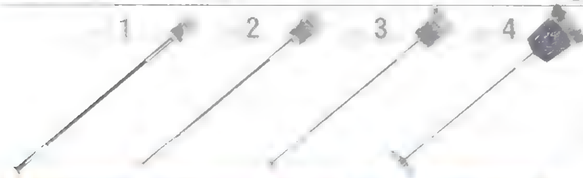
ブーリファング

WEAPON STORY

牛を飼うことで生計を立てている小さな村があった。だが、その牛を狙って狼の一団が村を襲うようになる。
牛飼い達は必死で守ろうとしたが、狡猾な白い狼があざけるかのように村人達をあざむき、日々犠牲になる牛が増えていった。
「村を捨てよう」そんな話が出たときに、村でいちばん無口だった牛飼いが槍を持って外に出ていった。村人達に誰一人止める者はいなかった。
二日後、村の近くで白狼の死体と槍だけが横わっていた。村人達は牛飼いがいつでも戻れるように、槍を村の入口に掲げ、大切にしたという。

皇帝の槍

Emperor's spear



和名の「皇帝の槍」と同じ意。皇帝と聞くと絶大な権力と華々しさを想像させるが武器物語の結末では、皇帝は悲惨な最期を迎えている。

MAGIC

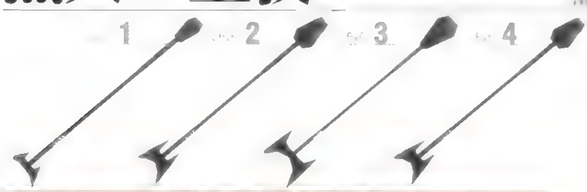
エレメンタルホーン

WEAPON STORY

一代で大帝国を創り上げた東方の皇帝の愛槍。雷を纏いて闇を断つといわれ、かつてはとある神殿の護神槍として奉じられていた。
剛勇で名を馳せた男は神殿より護神槍を強奪、大陸に覇を唱える戦いに身を投じる。男は雷を纏い次々に各国を侵略、皇帝へと昇りつめたのだ。
大陸を手中に収めた皇帝であったが、その恐怖と圧制に各地で反乱が相次ぐ。ついには自軍の将にすら裏切られ、帝国は崩壊したのだった。
かつての味方に追われ小さな城に篭城した皇帝。絶望した彼は愛槍を持ち、唯一愛した女と自分自身を焼き尽くし最期を迎えたといわれている。

魚人の宝杖

Merman's spear



「人魚の杖」の意。宝杖という名前から大変貴重な物と想像させるが、人魚は自分の命と引き替えに人間に手放した。しかし槍一本では過去の償いに値しなかったのだ。

MAGIC

ウンディーネブラッド

WEAPON STORY

南海の孤島の付近に生息していた醜い魚人が持っていた槍。島民を怪しげな歌声で海中に引きずり込み、その肝で自分の命をつないでいた。
その魚人に愛する家族を殺され、復讐するために立ちあがった島の青年。青年の手により、魚人は尾鰭を切り取られ瀕死の状態になる。
泳ぐことが困難になりもがき苦しんだ魚人。自らの行いを悔い改めた魚人は、改心の印に青年に家宝の槍を渡し、尾鰭を返してもらう。
しかし、生きるためにまた島民を誘い出し、肝を喰らい続けた哀れな魚人は、青年に自ら渡した槍で心臓を一突きにされ、その命を終えた…

*H*AMMER ｜ハンマー

現在でも道具として使用されている金槌と似た形状をした武器だ。長い柄の先に柄と直角に平たく重い鉄の塊を付けた打撃用の武器である。純粋に重量のある鉄塊で叩く攻撃力は相当な物で、相手の鎧の上からでも充分なダメージを相手に与えることが可能である。ハンマーと一言で表すが、用途によってその名は変わり、スタンダードな金槌型はウォー・ハンマーと呼ばれ、他には先端が鉤状になったウォー・ピックなどがある。

「忘却の羽根」「雷龍の叫び」は比較的スタンダードなハンマーで、「亡国の礎」は平たい金属の反対側に鋭利な刃が付いたホースマンズ・ハンマーと呼ばれる。また変わった所では「匠のつるはし」があり、分類的にはウォー・ピックというハンマーになるが、現在でも工事現場などで見られる「つるはし」その物である。

忘却の羽根

Feather of Memories



「記憶の羽」と訳すことができる。武器物語から察するにこの武器で叩かれた者は、人が死ぬ間際に見る「走馬燈」を見ることができるらしい。

MAGIC

ブーリシンガルネイル

WEAPON STORY

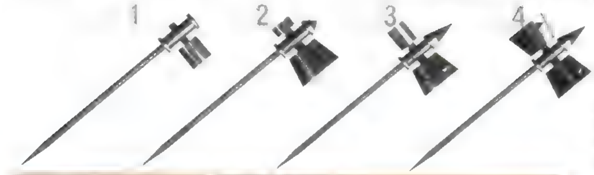
強烈な一撃で相手の記憶を消し去る鎚。殴れば殴るほど、記憶は失われ最後には自分自身の存在すら忘れてしまう。
ある日、この槌を手に入れた過去に悩める兵士が自らの頭を殴りつけた。
次第に失われていく兵士の記憶。
記憶を失うと同時にさかのぼっていく思い出。自分の過ちで仲間が死んだこと…
…固い決意で兵士になったとき…目の前で両親を殺されたとき……
幼少の頃の記憶に戻り、未来に希望がもてるようになったときに、[illegible]
はすでに潰れ、そのまま息絶えた……

雷龍の叫び

Thunder Dragon

MAGIC

バルディエルウィング



「雷竜」の意　武器物語中で登場する雷竜が名前の由来であろう。自らを槍に封じ込め一国の姫に我が身を託した雷竜　竜ほどの存在でも人間に手を貸すことがあるのだ。

WEAPON STORY

家臣の策略により隣国との結婚を強いられた姫　道中、姫の命を奪うために雇われた盗賊たちに一行は襲われる。
懸命に応戦するが手練れの盗賊たちになす術もない。姫の首に刃が向けられたその時、一人の護衛兵士が自らの命と引き換えに雷竜を呼び出す。
雷竜が盗賊を一掃した時、兵士はすでに息絶えていた　その心意気に心を動かされた雷竜は己の力と兵士の魂を鎚矛に込め、姫に手渡す。
[illegible]意志を引き継いだ姫は、その鎚矛を手に戦場に出向き功績をあげる。そして自らの国をも制圧し策略を企てた家臣を討ち取り仇を取った

匠のつるはし

Crafty Pickaxe

MAGIC

タロスウィンク



「狡猾なつるはし」の意。「狡猾」とはずるがしこいなどという意味である。武器という物は使用者によって善となり悪となる狡猾な存在ということなのだろうか…？

WEAPON STORY

その男が手がけた建造物の数々は、その美しさから国の宝と称えられていた
数々の建造物を生み出すこのつるはしもまた、神器と称えられた
ある時、隣国との間に戦が勃発した。国中の男達が徴兵される　男もまた、例外ではなかった
破壊を好まない男は、戦には向いていなかった。戦禍の中で、男は殺され、男の築いた美しい街並みは破壊された。
創造を好む男は、殺される最期の瞬間まで、人を殺めなかったという。この神器が次の主にもたらすものは、破壊の力か、創造の力か

亡国の礎

Buried Kingdom

MAGIC

ライトニングブラット



「埋められた国」の意。和名の「亡国の礎」であるが「礎」とは物事の土台のことを指す。今は亡き国の礎を創った若者たちの魂が宿る武器ということだ。

WEAPON STORY

少数の悪魔が支配する国。荒んだ国政を憂う十名の若者が、武器を持ち決起した。しかし国民は、恐怖心から、誰一人彼らに協力をしなかった。
人間による革命はなされた。悪魔は退けられ、若者達が政の世界についた。悪魔を退けたこの武器は、神の力が宿ると称された。
しかし、恐怖がない世の中を願った若者達もまた自らの保身にまわる　彼らは情報統制と公開処刑を中心とした、恐怖政治を布いた
国民が立ち上がった。十名の若者は捕らえられ、公衆の面前で処刑された　悪魔を退けた武器は、処刑場でその神の力を印象づけたのであった

MACE |メイス|

棍棒や斧、ハンマーといった打撃武器の中でも、柄の先に複数の鉄片を付けられた物を指す。複数の鉄片部分は、上から見ると星型になるように刃を放射状につなぎあわせることで完成する。これがもっとも一般的なメイスであるが、その他柄の先に棘付きの鉄球を付けたモーニングスターなどもメイスに分類される　メイスは数ある武器の中でも発祥が古く、古代から使われ続けた武器で、源流を探ると棍棒もメイスと分類される
要はただ力任せに相手を殴打する打撃武器をメイスと指すのである「悪魔の鉄棍」「拷問部屋の匈虎」などは見るからに棍棒だが、素材が金属でできている「破獄の針鼠」「農民の残夢」は柄先に棘の付いた鉄珠が付いていることからモーニングスターに分類される。「髑髏の宴」は打撃部分に人間の頭蓋骨がレリーフされており視覚的な攻撃性を持たしているように思える。

悪魔の鉄棍

Demon's Rod

MAGIC

ブラッティラティアンス



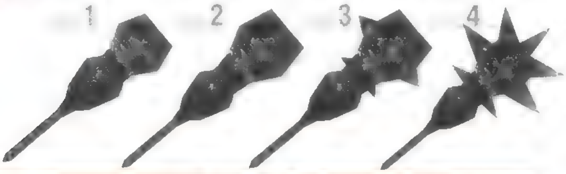
「悪魔の棒」の意　武器物語を読むと分かるが　悪魔が宿った棍棒というわけではなくとある惨劇から付けられた名前である　理性を失うと人間も悪魔になるのだ

WEAPON STORY

世に知られた非道な山賊。２００人からの軍団を率いるのは誰もが恐れる三人の兄弟である。彼らは秋になると、ふもとの村を襲っていた
困り果てた村人は流れ者の醜い魔道士に助けを求める　魔道士は村の娘との結婚と引き換えに山賊を倒すと宣言、村人は渋々約束をした
魔道士は一本の鉄棍を山賊に渡すように伝えた　呪われた鉄棍を手にした三兄弟の兄弟は錯乱し、仲間と共に自らの命を絶つ。村は救われた[illegible]
[illegible]村に疫病が[illegible]
[illegible]

拷問部屋の肉塊 Torturer

MAGIC
フレスオブアレス



Torturer の意

「虐待者」の意。拷問部屋の主人は虐待者である。拷問部屋では彼の思うがままに事が進む。幾日もかけて何かを破壊した道具が武器に変わったのだ。

WEAPON STORY

最初のひと月でその鉄塊は百人の男と女と老人と子供の両足を潰した

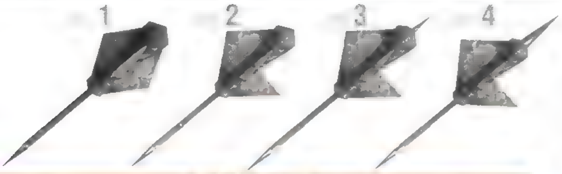
次のひと月でその鉄塊は百人の男と女と老人と子供の両腕を潰した

次のひと月でその鉄塊は百人の男と女と老人と子供の頭を潰した

次のひと月ですべてが潰されそこには肉塊だけが残り血に染まった鉄塊とそれの区別はつかなかった。

聖なる鎚矛 Holy Mace

MAGIC
ガブリエルクロウ



Holy Mace の意

和名と同じく「聖なる槍」と訳す。神々しい名前の槍だが、武器に秘められた物語は暗く悲しい。13人もの聖者の魂と神の魔力が宿った槍が「聖なる槌矛」なのである。

WEAPON STORY

ある国の大司教が誕生祭の際、若き13人の司祭達に授けた数枚の羽を持つ儀礼用のメイス。大司教の死後、国は戦乱の渦に巻き込まれた
若き司祭達は大司教の教えを信じ、戦おうとはしなかった。一人また一人と戦争の中で倒れる彼らは、それでも平和を叫ぶ。無力と知りながらも
暴力を振るうことを嫌い、このメイスを使わなかった最後の一人の司祭。やがて戦闘のまっただ中で彼も命を落とす
血にまみれたメイスが地に落ちた時、大天使が黒き涙を流しながら舞い降り、13人の魂と引き換えに呪わしき力と魔力をこの武器に与えた

炎風の鎚矛 Mace Ablazer

MAGIC
ウィングオブピクシー



Mace Ablazer の意

正確な訳名は不明だが武器物語を踏まえて解釈すると「竜の力を羽織った鎚」となる。武器物語で登場する青年が赤き竜から授かった大いなる力を指すのだろう。

WEAPON STORY

赤き竜の羽から作り出されたといわれる矛。まだ帝国も連合もなかった時代、世界では亜人が幅を利かせ人々は怯えることしかできなかった。
亜人の横暴に耐えかねた人々は、一人の名もなき青年に亜人制圧の願いを託す
青年は力を得るため赤き竜と契約を結びに向かう
赤き竜と契約を結ぶために何度も闘い続ける。竜の隙を突き、遂に勝利を収めた青年だったが、竜は既に別の者と契約していたのだった
青年の強い意志と胸に秘めた希望に共感した竜は自らの羽の一部を刃にし青年に渡した。鎚矛を手に青年は亜人たちを制圧し世界に平和が訪れた

破戒の鎚矛 Mace Depraver

MAGIC
ファングオブイシュタル



Mace Depraver の意

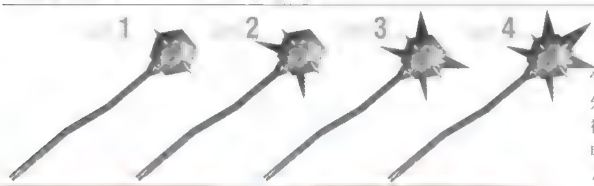
「堕落させる人の矛」と訳せる。「堕落させる人」とは武器物語中の冴えない魔法使いのことを指すのだろう。彼が兄弟子を殺め力を得た一連の行動に使用された武器なのだ。

WEAPON STORY

一人の魔法使いが鉄塊から一振りの槌を生み出した。魔法使いといっても、小さな火しかおこせない、見習いの魔法使い
体躯ばかりが大きく、大飯食らい。魔法使いのイメージと大きくかけ離れた男
兄弟子からいつも馬鹿にされ、師からも破門寸前であった
ある日、兄弟子と一緒に魔法の触媒の薬草散策に赴いたときに事件がおきる
兄弟子の罵りが原因で口論となり、鎚で兄弟子を殺めてしまう。
兄弟子の血を吸った槌は異形となり、その魔力を吸い成長した。男は魔を槌で補完できる事を覚え師まで手にかける。鎚は恐るべき力をもった

破獄の針鼠 Killermice

MAGIC
ザファンズホーン



Killermice の意

意訳すると「殺人ハリネズミ」となる。もしそんな生物が存在すれば大いなる脅威である。だが実際は存在しない。存在しない物をいくら考えようと徒労にすぎない。

WEAPON STORY

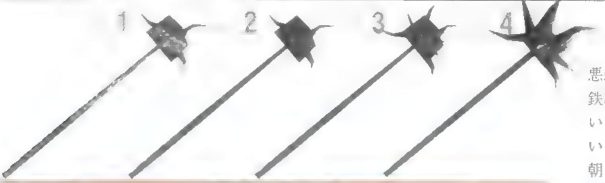
学者は自分の意義存在を追い求めた。どうして自分がいるのか？父母がいて自分がいるのは子供でもわかる。だが人間はどこからやってきたのか？
神が創りだしたのか？学者は悩み続け、その答えを空に求める。人は万物の構成要素のひとつであり、その中でも大きな存在なはずだ
万物は太陽、月、星、大地、人で構成されており人だけが唯一破壊的な存在だと考えた。ある日、学者がそんな仮説を酒場で得意気に話した。
戯言にも似たそんな話を聞き、一人の老人が大声で笑い、鉄塊をテーブルに載せた。「ここにすべてがある。」そう言い残し老人は去っていった

農民の残夢

Iron Scraps

MAGIC

クラッキークロウ



Iron Scraps の意

「鉄の切れ端」の意。武器物語中で農民たちが鉄屑を集めて作り上げた武器その物を指す英名だ。物語の中では圧政に苦しむ農民や領主の様子が描かれている。

WEAPON STORY

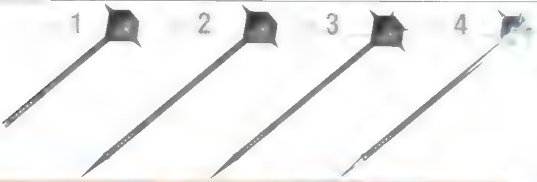
悪政に悩んだ農民が領主を討つために鉄屑を集め作り上げた武器。その歪んだ鉄屑には農民たちの血の願いが込められている。
いくら農民が苦しめど何の助けも出さない領主。「わしらがこんなに苦労しているのに許せん！」一致団結して領主の元へ向かう農民たち。
朝日が昇った瞬間、一気に領主の城に乗り込む！しかし、[illegible]は領主も国のために農民から泣く泣く高い税金を徴収し、自らも貧しい生活を[illegible]
無能な領主を哀れに思った農民達は武器を捨て、領主と仲良く、[illegible]く暮らした……

嘆きの鎚矛

Mace of Woe

MAGIC

ヴェイパークロー



Mace of Woe の意

直訳すると「災難の矛」となる。物語の中ではたしかに災難は起こったものの、僧兵の嘆きによって、慈悲深い海神がこの武器に魔力を宿したとある。

WEAPON STORY

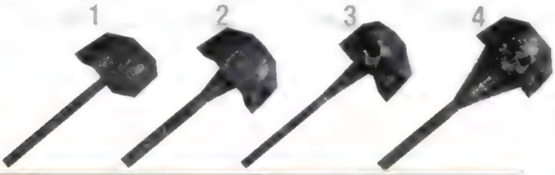
海賊退治を命ぜられた僧兵が携えていたメイス。息子と共に海に出た彼は、その強さゆえ海賊から恐れられる存在になっていった
あるとき、魔道士が率いる海賊船団に遭遇した一行は、召喚されし海竜に反撃をされる。そして不幸にもその牙は若き息子の命を奪ってしまう
最愛の子供を失った戦士は混乱の中、海賊と海竜を屠る。だが、失った息子の命が戻るはずもなく、絶望した彼は自らの命を絶つ。
僧兵の涙はやがて海の神の知るところとなり、それを哀れんだ神によって、このメイスには海神の爪の魔力が宿ることになった。

髑髏の宴

Skull Mace

MAGIC

ブレスオブフェッター



Skull Mace の意

「髑髏（頭蓋骨）の矛」の意。邪教団で使用されていた一種の宗教儀式用の道具。その禍々しい姿は邪教団の司祭が悪魔に身を売った姿そのものであるといえよう。

WEAPON STORY

邪神に魂を捧げた司祭が持っていたメイス。まだ邪教団が小さな集まりだった頃、司祭は神からの啓示を受ける。「新鮮な人間の魂を神に…
司祭は、生贄として邪神に捧げられた人間達の首を、鎚にくくりつけてゆく
次第に怪しげな覇気を放つようになっていくメイス……。
邪教団が大きくなっていくにつれ増える髑髏　やがて、増えた髑髏たちは一人の男の顔へと変貌を遂げていく。司祭にも見覚えがある顔。
それは、司祭の顔であった。邪神への完全な忠誠心から、悪魔に姿を変貌させた司祭は、人間である自分の姿と決別したのであった

ROD｜ロッド

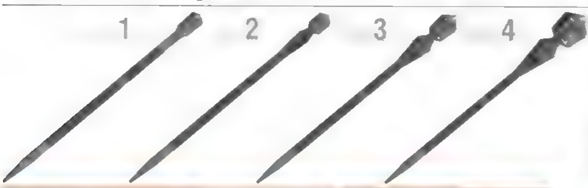
ロッドは各種儀式用に使われた自己主張の道具であったり、実用的な面では、魔術師たちが持ち、己の魔力を増大させるための媒体に使用するなど、打撃武器とは違う系統の道具である。高次元のロッド（杖）になると、その物に精霊や神が宿り大きな力を発揮することがあるが、そんな伝説的なロッドはあまり存在しない。だが「DOD」に登場する４本のロッドはどれも大きな魔力や神の意志が宿った逸品ばかりである。例えば、「聖石の杖」は大きな魔力を蓄えた杖であり、「賢者の意志」は杖自体に秘められた力によって数々の奇跡を起こした。
「DOD」の世界での杖の役割は、打撃武器としての使用ではなく、杖から発する強力な魔法での攻撃が主になる。他の武器も魔法は使用可能だが、もともと魔力を秘めたロッドが放つ魔法は他の魔法とは威力、効果とも比較にならないほど強力だ。

聖石の杖

Holy Gem Rod

MAGIC

ファングオブセイレーン



Holy Gem Rod の意

直訳すると「神聖な宝石を持つ棒」となる。神聖な宝石とは和名の「聖石」を指す。武器物語を読むと、この聖石はある偉大な魔法使いの魂が封印されているようだ。

WEAPON STORY

世界の西の外れに、魔法の力を地盤とした魔道王国が存在した　500人の「元老」といわれる魔法使いが、街のすべてを仕切っていた。
真夜中でも真昼のように街を照らし、人々は何の苦労も疑いもなくその魔力を礎に生活を営む。ある日501人目の元老が新たに就任した。
若干10歳の少年が501人目の元老。年端もいかない少年は稀代の魔術の天才わずか2年と15日で元老の長に就任した。この時12歳
魔術の天才といえど、若干12歳の子供。大人になる葛藤と共に、己の存在意義を考えはじめ、永久を求めて自ら石と化し永遠の聖石となった

賢者の意志

Will of the Wize

ボイスオブアシエル



直訳すると「賢明な意志」といった内容となる。この杖は絶大な魔力を有していたようで、使い手も善良で、数々の奇跡を世界中で起こしていたようである

WEAPON STORY

北の島国で、国中から厚い信頼を集めた司祭がいた。「千里を見通す大賢者」と呼ばれた彼はいつも杖を片手に地方を巡礼してまわっていた
その杖をかざせば、どんな病気や怪我もたちどころに治すことができた。その杖をかざせば、どんな荒れた畑にも作物が実った
その杖をかざせば、その人が嘘をついているか見抜くことができた。その杖をかざせば、悪事を行った者が懺悔を始めた
その杖をかざせば、どんな怪物も引き下がった。その杖をかざせば、天使の禁じられている言葉で魔物を焼き尽くした

痩躯の魔術師

Lean Sorcerer

シルバーフルーツ



「魔法使いを堕落させる」といった意味となる。その名の通り、物語に登場する魔法使いは悪魔の力を借りこの杖を創り、自らの命を削るはめになってしまった…。

WEAPON STORY

痩躯の魔術師が握っていた杖　魔術師はひどく冷徹で意地の悪い性格だったため、いつも町の人々や弟子から憎まれていた
[illegible]
[illegible]…
[illegible]ず杖を使って傍若無人の行いを[illegible]
結局、魔術師は弟子[illegible]手放すことはなかった[illegible]

知識の杖

Knowledge Rod

ウィンクオブムーンダウン



「知識の棒」の意。「知識」とは一概に何を指すかは漠然としている。己の欲する知識の真意を見つけだしたとき、この杖は大いなる恩恵を所持者に与えるのだろう。

WEAPON STORY

[illegible]
[illegible]
[illegible]あり経験に基づく「目分量」や「直感力」然り
あるいは推論の制御にかかわるものでありどれを選択するか焦点をどこに当てるかつまりはそれら、事実・判断・推論
「思いや考え」他者に価値があると認められ自身に揺るぎない[illegible]なる信念」これらを理解するもののみが力を発揮する

鎧について

「ドラッグオンドラグーン」の世界では全65種類もの武器が用意されているが、防具・鎧などは特に用意されていない。だが、それはカイムを含むレオナールなどが個人個人戦いやすい格好をしているからであって、あえて用意された防具をつけ替える必要がないからだと思われる。ただ、連合軍、帝国軍の両軍で戦う兵士たちはしっかりと鎧に身を包んで戦っている。ここでは、彼らが装備する鎧について解説する

まず連合軍、帝国軍の一般兵が基本装備として身につけているのが、鉄などでできた対武器用の甲冑であるこれは頭から足の先まで身を守ることができる。帝国軍ではさらに防御力を高めたシールド付き甲冑なども使用しているようだ。もう一つが帝国軍が使用する対魔法用特殊甲冑で、鎧は赤色に塗られており（対魔法用特殊甲冑を製作する際にエルフの生き血を塗り込んであるためだと思われる）、様々な魔法はおろか、ドラゴンのブレスでさえ反射する能力を持っている



対武器用甲冑

鉄などで作られたもっとも一般的な鎧。防御能力は高いが魔法やドラゴンのブレスの前では役に立たない。



対魔法用特殊甲冑

帝国軍がエルフの里を襲撃し、捕らえたエルフの生き血を塗って製造された特殊甲冑。元になる金属には魔法儀式が施されている

MAGIC | 魔法

11系統に分類される魔法の定義

魔法とは呪文を使用して得られる効果の中で、実際に攻撃力、補助力、回復力が戦闘に有用な物の総称を指す。

魔法を使用することで得られる恩恵は非常に大きいが、その反面術者にかかる負担も大きい。魔法は本来ならば、精霊や神などと契約を行い、修行を行った者のみが使用可能なのだ。

「DOD」の世界では武器その物に魔法に似たある種の力が宿っており、武器の所有者が念じることで、武器に封じ込められた様々な力が発動する。

ただし一般の人間が武器を持ったからといって使用できるとは限らず、肉体と精神の高い契約者などが、武器に秘められた力を引き出すことが可能となる。

魔法にはその呼ばれる名前にそれぞれ意味があり、構成される言葉からその効果が決定される。「DOD」の世界では11系統の魔法が存在しており、それらを分類する言葉と効果は以下の通りだ。

eye

アイオブサラマンダー	eye of salamander	強烈な火柱が術者の周囲に発生し、周りにいる者すべてを焼き払う
アイオブサクリファイス	eye of sacrifice	超巨大な炎の渦が地中から現れ、周囲の敵を焼き尽くす大魔法。攻撃力は極めて高い
ファントムアイ	phantom eye	魔法陣が現れ、その魔法陣内にいる者すべてに呪いの波動でダメージを与える

fang

ケルベロスファング	Cerberus fang	地表をえぐるほどの衝撃波を前[illegible]地表が剥げて激しく舞い散る。
ファングオブイフリート	fang of Efreet	術者の目の前に巨大な火柱が地中から巻き起こる炎の魔法。威力が高く攻撃範囲も広い。
ファングオブクエイク	fang of quake	地面から鋭利な岩石がいくつも隆起し当たった者にダメージを与える
ファングオブイシュタル	fang of Ishtar	地表に魔法陣が浮かび、その魔法陣から大量の[illegible]石が噴出する魔法
ファングオブセイレーン	fang of Sirens	地面から間欠泉が吹きだし、周囲の敵を跳ねとばす自然の力を使用した魔法
スサノオの牙	fang of Susano-oh	冷気が術者の周囲からあふれ出し一定距離移動する。冷気に触れた者は一定時間身動きできない。
カスケードファング	cascade fang	地表から圧縮した水を噴射し水柱を出現させる魔法。たかが水とはいえそのダメージは侮れない
ブーリファング	[illegible]	術者の前方に水晶のような形を[illegible]攻撃力がかなり高い。
ファングオブシルフ	fang of Sylph	[illegible]竜巻に触れた者は遠くへ飛ばされてしまう

horn

フェアリーホーン	fairy horn	白い光を纏った妖精が術者の周囲を回転し光の壁を創る防御型魔法
スピリチュアルホーン	spiritual horn	術者の周囲に青色の妖精が飛び交い、近寄る者に攻撃を加える。攻撃範囲もそこそこある。
ザファンズホーン	Xaphan's horn	火球が出現し、時間の経過とともに術者の周りを取り囲むようになる。
トルネードホーン	tornado horn	小規模な竜巻が発生し、竜巻に巻き込まれた者は身動きができなくなる
エレメンタルホーン	elemental horn	雷をまとった光球が術者の周囲を回転する。障害物に当たると消滅してしまう

feeler

フィーラーオブカオス	feeler of caos	黒い球体が術者の周囲に出現し回転する。時間とともに少しづつ回転範囲が広がっていく
フィーラーオブセラフィー	feeler of Seraph	激しい炎の渦が術者の周囲に発生し、[illegible]の渦は時間とともに拡散する
クリムゾンフィーラー	crimson feeler	術者の周囲に火球が出現し回転する。火球には攻撃力があり触れた者にダメージを与える

fruits

シルバーフルーツ	silver fruits	白く輝く魔法陣が現れ、術者の体力を回復してくれる数少ない回復系魔法

voice

ボイスオブグングニル	voice of Gungnir	光を纏った剣が現れ、標的を追[illegible]高くなくとも発動可能
ボイスオブインフェルノ	voice of inferno	[illegible]する。目標物に火球が当たると大爆発を起こす
ボイスオブロキ	voice of Loke	光の矢が数本出現し、目標物に向かって飛んでいく。見た目よりもダメージは高い
ボイスオブアシエル	voice of Asiel	天使の力がこもった光の文字を前方に放つ。目標物に当たると一定時間ダ[illegible]
ボイスオブゼウス	voice of Zeus	稲妻で作られた雷球がいくつも発生し、目標物を追尾する。雷球は大きく敵に当たりやすい

ボイスオブイオ	voice of Io	細長い稲妻が発生し敵を自動で追尾する。攻撃力は低いが敵の足止めには最適である。
ボイスオブジン	voice of Jinn	巨大な竜巻が発生し、周囲の敵を巻き込む。巻き込まれた敵に追撃を決めるといい。
ボイスオブバラム	voice of Balam	小さな火球がいくつも出現し目標物に向かって飛んでいく。攻撃力は低い。
ウィザードボイス	wizard voice	紫色の大火球がいくつも出現し、目標物に向かって飛んでいく。周囲の敵を巻き込みやすい。
ヴォイスオブザクレセント	voice of the crescent	巨大な光の壁が前方に飛び散る。攻撃範囲がかなり広く扱いやすい。



wing

ウィングオブピクシー	wing of pixies	淡い赤色の光球を前方に飛ばし目標物にダメージを与える。攻撃力は低い。
ウィングオブムーンダウン	wing of moondown	敵を貫通する緑色の矢を発生させる魔法。消費するMPが低く連射が可能
ウィングオブウル	wing of Ullr	術者の周囲に氷柱を発生させる。氷柱には貫通能力があり密集した場面で使うと効果的だ。
ウィングオブスプライト	wing of Sprite	無数の氷の矢を発射して目標物にダメージを与える。氷の矢は一定距離飛ぶと爆発する。
バルディエルウィング	Bardiel wing	赤い光球がいくつも発生し前方に飛んでいく。光球は貫通能力があり一気に数人の敵を攻撃可能
バスタードウィング	bastard wing	光の刃が特殊な軌道を描いて前方に飛んでいく。敵を貫通する能力を持つ。
ブレイジングウィング	blazing wing	巨大な火球が前方に飛び着火点で大爆発を起こす。爆発は周囲を巻き込むので非常に強力
タロスウィング	Talos wing	大きな鉄球を前方に発射する魔法。威力がかなり高く強力な魔法の一つである



breath

ブレスオブスレイプニル	breath of Sleipnir	緑色の球が術者の周囲に現れる。この球体は術者の移動速度を高める効果がある
ケルビックブレス	Cherubic breath	魔法陣が現れ、魔法陣内にいる術者の体力(HP)を回復する治癒魔法
ブレスオブアレス	breath of Ares	赤く光る魔法の文字が術者の周囲を囲み一定時間防御力を上昇させる魔法
アマテラスの息吹	breath of Amaterasu	紫色の炎が術者の周囲に発生する。この炎は術者の攻撃能力を高める働きがある
ブレスオブミカエル	breath of Michael	術者の周囲に天使の文字が現れる。この間術者は一切敵の攻撃を受けなくなる。
ブレスオブサクリファイス	breath of sacrifice	自らの体力を消費し、周囲にダメージを与えつつ自分の攻撃力をアップさせる
ブレスオブベリアル	breath of Belial	紫色の霧が術者の周囲に発生。その間は一定時間術者の攻撃力がアップする
ブレスオブフェッター	breath of fetter	レベルによって攻撃と防御力が数倍にアップするが、移動力の低下などデメリットも発生する
ブレスオブインビジブル	breath of invisible	この魔法を発動すると、術者が一定時間透明になり一切の攻撃を受けなくなる。



claw

ギュリルクロウ	Gyllir craw	光の剣が天空から数本舞い降りてくる。剣には攻撃力があり目標物を突き刺す。
トールクロウ	Thor's craw	天から暗黒の稲妻が目標物へ落雷する。稲妻は一本だが攻撃範囲は広い
サンダークロウ	thunder craw	空に雨雲がいくつも発生し、そこから何本もの稲妻が落ちる。非常に広範囲に有効な魔法
ギガンテスクロウ	Gigantes craw	空から超巨大な隕石が落下し、地表で大爆発する。爆風にも強烈な威力がある。
ガブリエルクロウ	Gabriel claw	天から何本もの光槍を落とし、当たった者に絶大なダメージを与える大魔法
クラッギークロウ	craggy craw	空から大量の石柱が降り注ぎ当たった者にダメージを与える。攻撃力はあまり高くない。
ヴェイパークロー	vapor claw	水の塊が天空から降り注ぎ、その水圧で目標物を圧死させる。攻撃範囲が広い魔法だ。
クロウオブアイアンウィドゥ	craw of iron widow	空からいくつもの巨大な鉄球が落ちてくる。どこに落ちるかはランダムだが強力な魔法である



blood

ブラッディラディアンス	bloody radiance	緑色の魔法陣が地表に現れ、魔法陣に近づく者にダメージを与える
ヴォルテックスブラッド	voltex blood	天空と地表の両方に対になるように魔法陣が現れ不思議な力で魔法陣に挟まれた敵を攻撃する
ブラッディネスオブザペイン	bloodiness of the pain	地表にいくつもの魔法陣が出現。魔法陣に捕らえられた者は毒霧で少しづつ体力を奪われる
ブラッドオブザヴァンパイア	blood of the Vampire	[illegible]と浮き続ける。当然黒球には攻撃力が存在する
ライトニングブラッド	lightning blood	帯電した光球が地面に配置され、触れた敵はダメージを受ける。地雷のような魔法だ
ブラッドオブフォビドゥンシー	blood of forbidden sea	紫色をした禍々しい魔法陣が現れ、周囲にいる敵すべての体力を少しづつ奪っていく
ウンディーネブラッド	Undine's blood	水が球状に変化し空中にいくつも発生する。水球は一定時間経過すると爆発する



nail

ディバインネイル	divine nail	弧を描く風の塊が飛び交い、当たった者を切り裂くカマイタチのような魔法
ブーリシンガルネイル	Brisingame nail	光の輪が発生。最初は前方に飛んでいくがしばらくすると術者へ戻ってきて爆発する。

第五章

Rough Image & Continuity

軌跡

その人のたどってきたいろいろな意味の遍歴

「ドラッグオンドラグーン」を制作する際にイメージとして作られた数々の設定ラフや絵コンテ。それらをこのページでは「開発の軌跡」と称して紹介している。

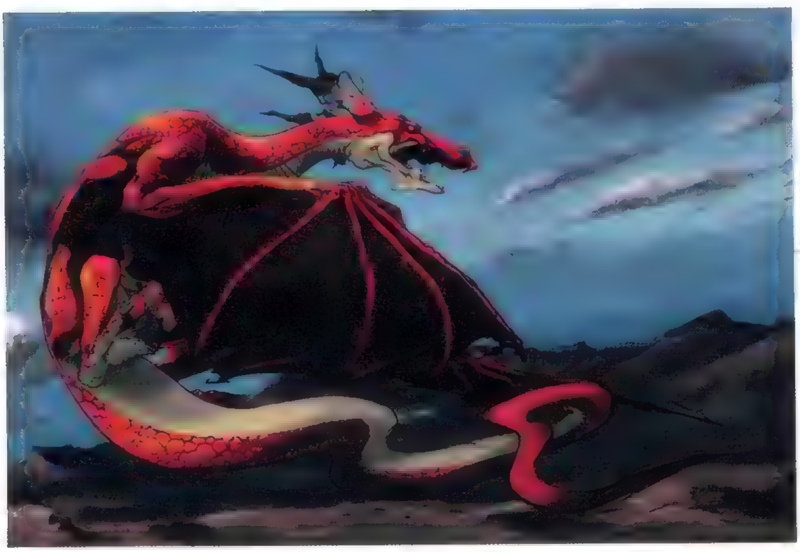
DRAG ON DRAGOON 開発の軌跡

ここでは「DOD」が完成するまでに制作された設定画、イメージイラスト、イメージラフなどを紹介する。開発中のムービーシーンの絵コンテなどは、ゲーム中で見られるカット割りとは違った迫力があり、また現在のキャラクターの姿が完成するまでに何枚も描かれた没キャラクターイラストも興味深い。これらを見ることでもう一つの「DOD」の世界を感じることができるだろう。



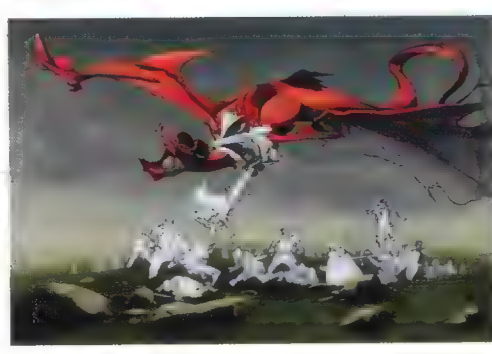
設定イラスト

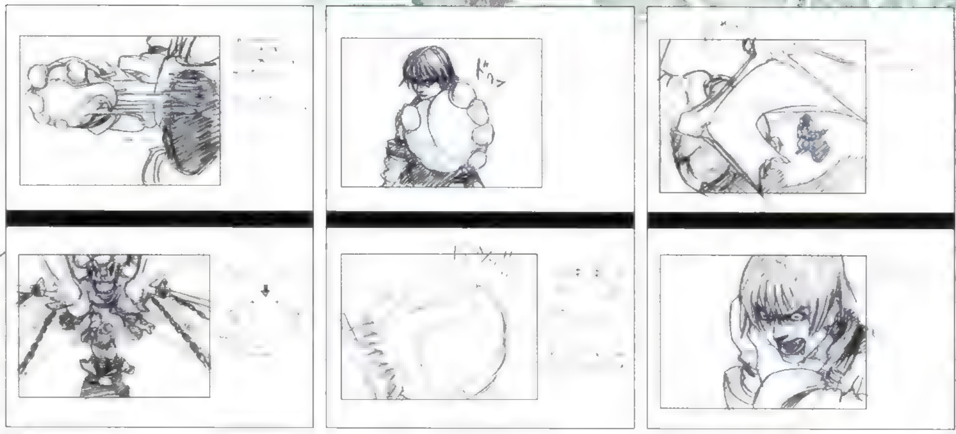
主人公カイムが舌を出しているイラストだが、舌にはまだ契約の紋章はない。またアンヘルと契約する前のカイムの様子を描いた貴重な一枚だ

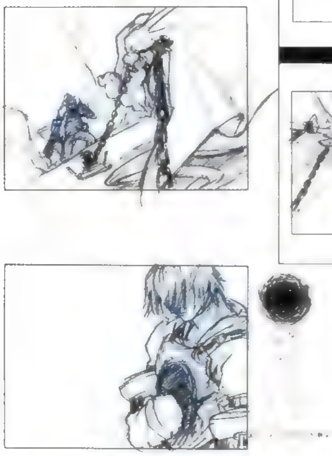


開発初期イメージボード

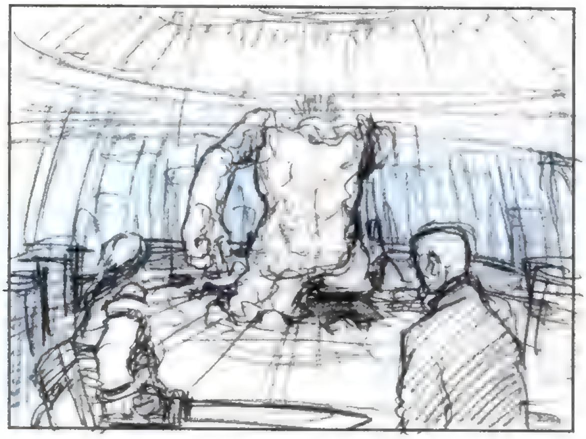
常に勇敢に戦っているアンヘルが地表に腰を下ろし一息ついているかのような一枚。もう一枚は、アンヘルが大勢の兵士たちを薙払っている風景が描かれている





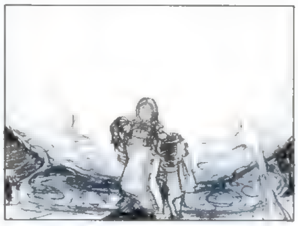






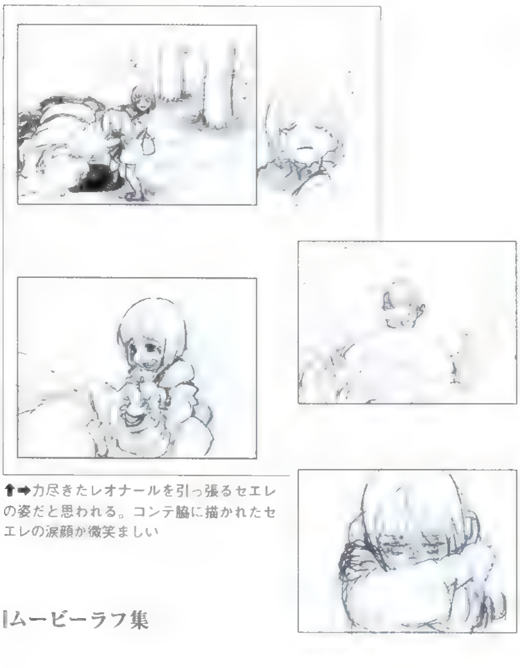
カイム契約シーンムービー絵コンテ

⬆カイムとヴェルドレが何か異形の生物を発見した様子の絵コンテ
ゲーム中ではこのようなシーンはなかったがこの生物は一体？



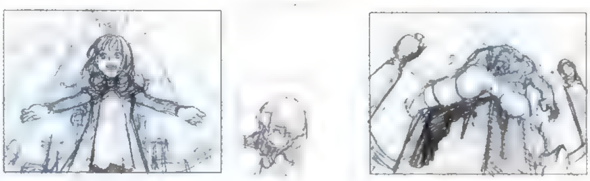


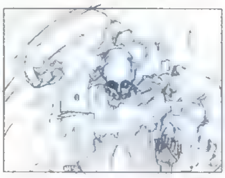
➡イウヴァルトがフリアエを抱いて、再生の卵まで歩いていくシーン。すでに絶命したフリアエの姿が痛々しい…。



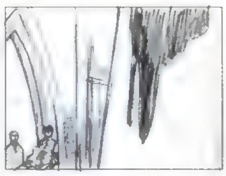
⬆➡力尽きたレオナールを引っ張るセエレの姿だと思われる。コンテ脇に描かれたセエレの涙顔か微笑ましい

ムービーラフ集

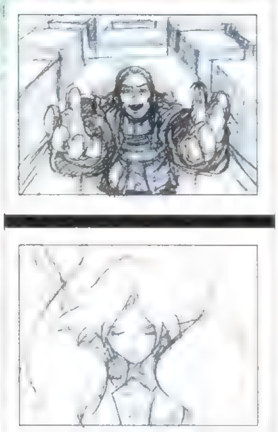




⬆笑い続けるマナを押しつぶそうとするゴーレムの一コマ



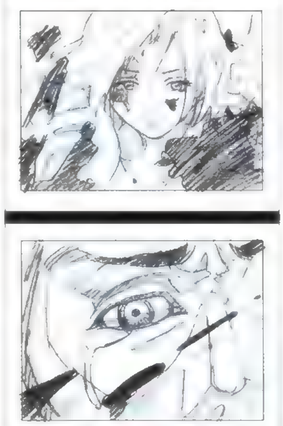
⬆聖堂の中ですでに絶命した何かを見つめる人間たち



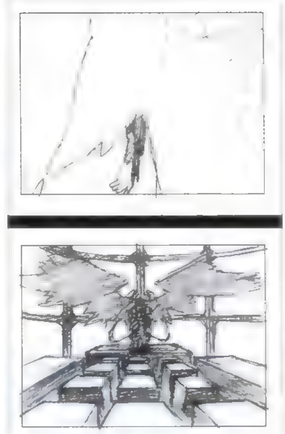
⬆天使として復活したフリアエ…



⬆喜ぶイウヴァルトだったがその時…

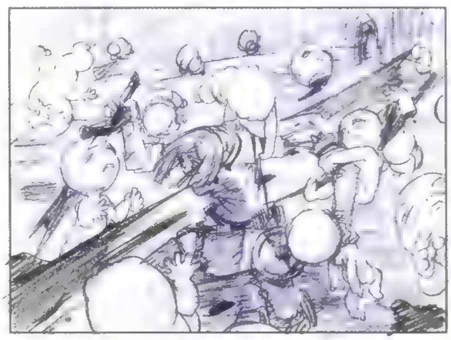


⬆天使の刃かイウウ　ルトを突き刺す



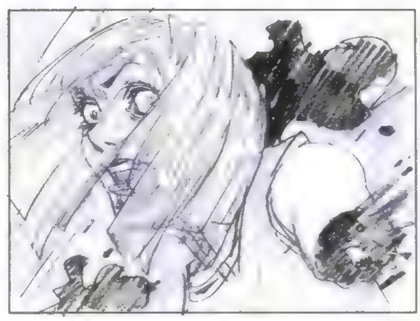
⬆世界を造り替えるため、天使は飛ばた





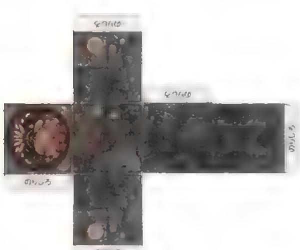
⬆➡ ·度は天使となったノリアエの亡骸を抱くカイム　エンティングシーンの絵コンテだ



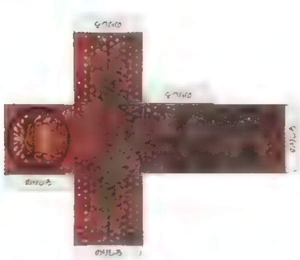


⬆無限に増え続ける異形の敵たちを前に、我が子を見るように近づくアリオーシュ　そして彼女は敵達に包まれていく‥

ムービー絵コンテ集



カーコイルキューフのペーパークラフト　ちゃんと3種類あり作ると本物 ゆ そ　　りになる





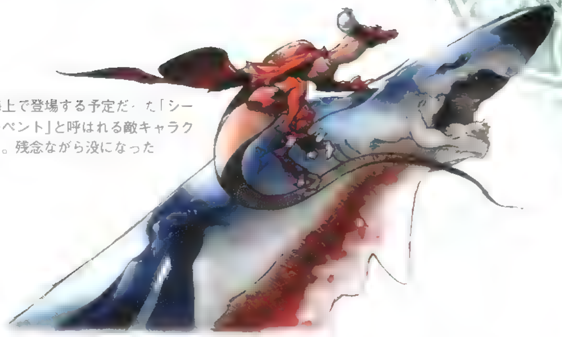
ガーゴイルキューブ　ペーパークラフト



武器設定ラフ

65本の武器の大元になった数本の武器の設定画　この8本が派生して様々な武器か生まれたのだ

没モンスター設定イラスト



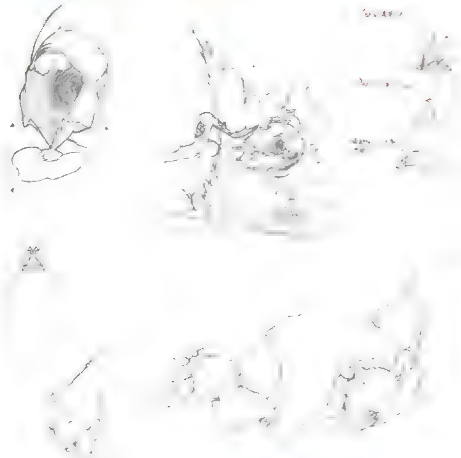
➡海上で登場する予定だった「シーサーペント」と呼ばれる敵キャラクター。残念ながら没になった



⬆セエレの契約対象 [illegible] レムの [illegible] イラスト。現在の [illegible] レムより線が細く非力なイメ [illegible] である



⬅炎の魔神のようなモンスター [illegible] 登場しなかったキャラクターであるか。サラマンダーよりも上位の炎の精霊イフリート





⬆砂漠に住む [illegible] サンドワーム [illegible] も没に [illegible] 登場した [illegible] 月の砂漠での登場だったのだろうか？



ドラゴン空中グラフィック設定

[illegible] 基本体勢 [illegible] 種類 [illegible] 設定 [illegible] 動き [illegible] 表現されている [illegible]

フリアエキャラクター原案



←⬇奇妙な生物を連れたアニメ風フリアエと、ちょっと病弱そうなフリアエ。ミニスカートバージョンもある。



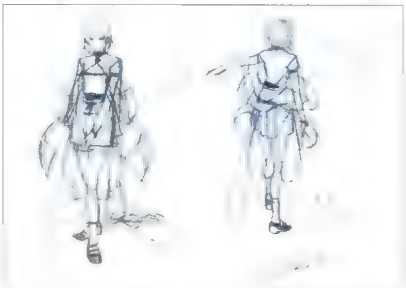




⬆ほぼ現在のフリアエに近いが、鎌のような武器を持っている。当初は戦う女の子だったのかも。



➡決定稿に近いが胸部分の衣装が違っている



⬆フリアエの初期設定ラフ。何本もの布（リボン？）を纏った不思議な衣装が描かれている

カイムキャラクター原案









⬆➡現在のカイムになるまで何体も描かれたイメージイラスト。まだ現在の強烈な個性は感じられない

イウヴァルトキャラクター原案







⬆➡イウヴァルトのイメージイラスト。カイムに比べ特徴的な髪型は当初から決定していたようだ。

未公開ロゴパターン

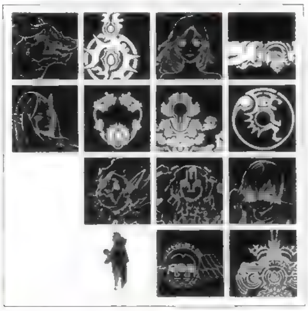
⬆スタッフが遊びで作成した「DOD」ロゴのパロディ版。ゴブリンのようなキャラクターがデザインされている。左が決定ロゴ

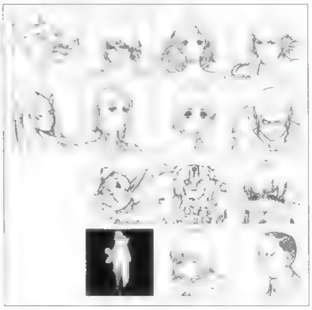
開発中パッケージパターン



⬅⬆開発中のパッケージパターン。シルエットを使ったパターンやドラゴンをモチーフにしたパターンがあったようだ

収録台本用イラスト





広告用宣伝素材



開発スタッフ募集ポスター

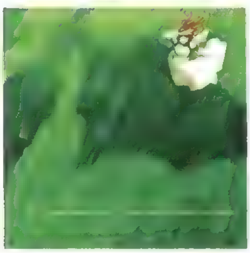


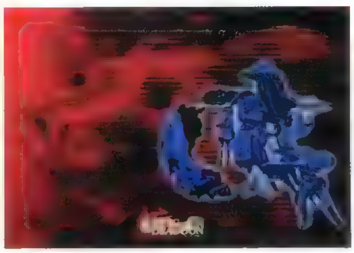
⬅カイムとフリアエの二人を描いたラフスケッチ。普段見せないカイムの優しい表情とフリアエが寄り添う様は兄弟の愛の深さを感じさせる





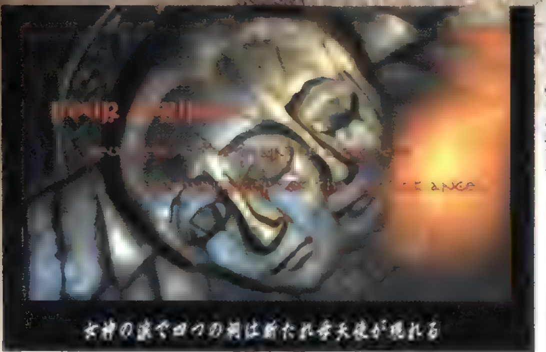
サントラCD未使用イラスト



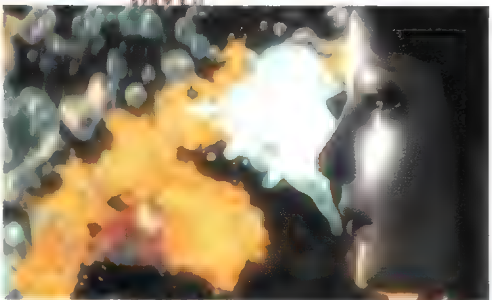


Drag on Dragoon
オープニングデモ

世界の謎を読み解く鍵がここにある



世界がこれからどうなるのか。運命を一段ずつ下り、静かに、流れる…



契約者の一人アリオーシュ、サラマンダー、ヒウンテ・ーネが踊るように包む



レオナール…もう彼の瞳に光は射さないが、フェアリーは蒼き光を放ち続ける



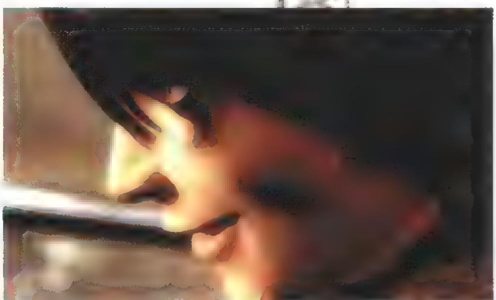
戦場に舞い降りた一人の子供は祈りを捧げる。その祈りは、大なる石に命を吹き込む



セエレの祈りによりゴーレムが現れる
帝国軍はその巨躯に為すすべがない



ドラゴンを駆り戦地へ舞い降りるカイム
立ちふさがる物をすべて切り裂く、





レッドドラゴンの炎が兵士を一瞬で灰と化す
肉体はおろか魂までも燃え尽きるのだろう

第六章

ENEMY

残紅

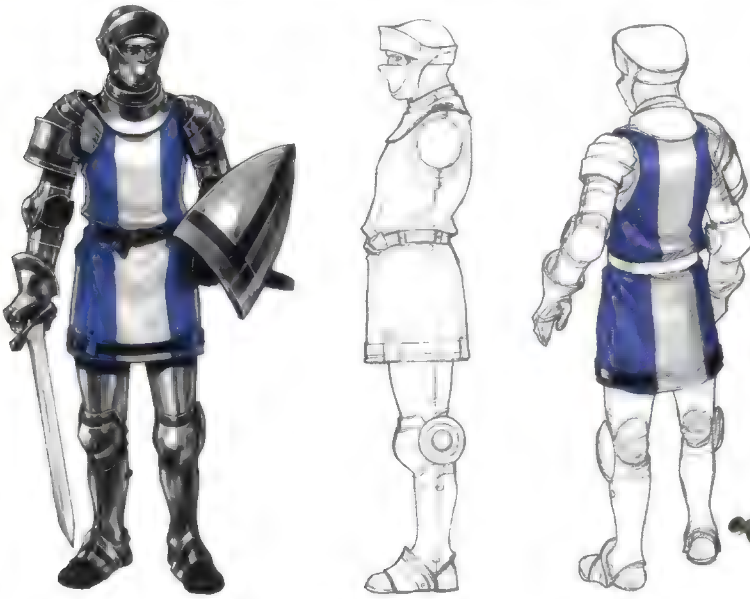
日が沈むときに空が紅く染まる様子

帝国軍としてカイムの前に立ちはだかる敵キャラクターは約70種にも及ぶ。それら敵キャラクターをグラフィック、特徴、設定画と併せてここでは解説する。

エネミー解説

An enemy character commentary

帝国軍として戦う一般兵士からサイクロプスのような人造兵器、そして謎の存在であるエンシェントドラゴンやマナなど、「DOD」に登場する敵キャラクターは多種多様な75種類にも及ぶ。この「エネミー解説」ページではグラフィック、特徴、設定画の3項目から敵キャラクターたちの本質を解析していく。



連合軍兵士を描いたイラスト。連合軍の象徴色の青と白の衣服を鎧の上に羽織っている。禍々しい帝国一般兵と比較すると面白い

歩兵

帝国軍一般兵。鎧の色で階級が決められている。下から銀、赤、黒の順番に階級が上がる。対魔法用特殊甲冑を装備した兵士もいる



シルバー・ポーン
歩兵［白］



クリムゾン・ポーン
歩兵［赤］

蛮刀兵

下半身の太さが特徴。小回りの効く剣を装備して、自分の体を回転させながら剣を振り回すため大量に囲まれると危険



シルバー・クィーン
蛮刀兵［白］



クリムゾン・クィーン
蛮刀兵［赤］



ブラック・クィーン
蛮刀兵［黒］



ブラック・ポーン
歩兵［黒］

強化歩兵

強固な鎧に身を包み、両刃の斧を装備した兵士。一般兵を統率していることが多い。階級が上がると持つ武器が変化する



クリムゾン・ビショップ
強化歩兵［赤］



シルバー・ビショップ
強化歩兵［白］



ブラック・ビショップ
強化歩兵［黒］

槍兵

槍を装備した兵士。みな一様に背丈が高い。槍のリーチを活かして中距離から攻撃してくる。幸い防御が甘く近寄れば簡単に倒せる



シルバー・ルーク
槍兵［白］



ブラック・ルーク
槍兵［黒］

クリムゾン・ルーク
槍兵［赤］

重歩兵

巨大な棍棒を装備し、一般兵とは比較にならない程頑丈な鎧を身に纏った兵士。一対一の戦いでは無敵の強さを発揮する



ブラック・キング
重歩兵［黒］



クリムゾン・キング
重歩兵［赤］



シルバー・キング
重歩兵［白］

突撃強化兵

中心から左右に展開する巨大な盾を装備した兵士。大きな盾を壁代わりにし、狭い通路などで一心不乱に突っ込んでくる。



クリムゾン・シールド
突撃強化兵［赤］



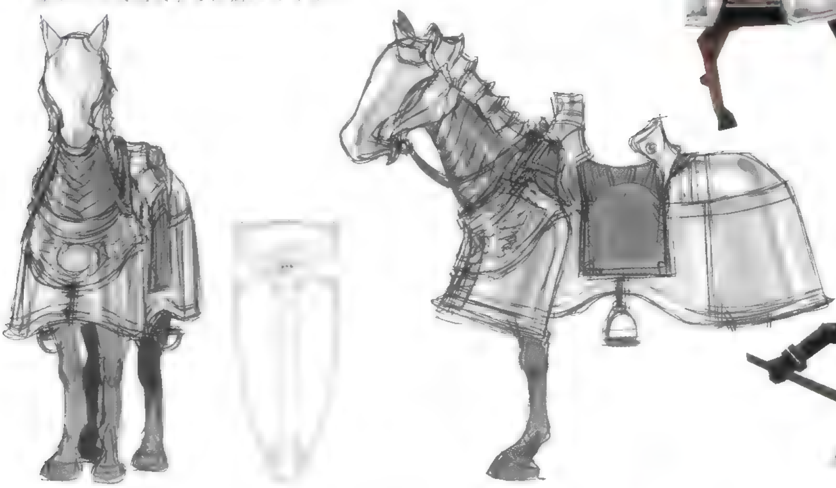
ブラック・シールド
突撃強化兵［黒］

騎馬兵

武装した馬を操る機動力に優れた兵士。ランスを装備し、馬上から攻撃してくる。[illegible]には突進攻撃を仕掛けてくる。



|シルバー・ナイト
騎馬兵［白］





|ブラック・ナイト
騎馬兵［黒］



|アーチャー
弓兵

護衛部隊

[illegible]



|ガード
護衛部隊

弓兵

遠距離から[illegible]で攻撃して[illegible]強力な[illegible]上空を飛ぶ[illegible]まで[illegible]弱いがやっかいな存在



|エンハイア・ガード
護衛部隊・隊長



|ワーカー
操作兵

操作兵

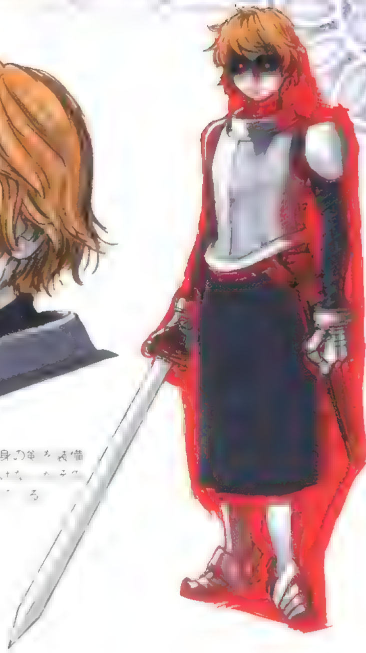
投石機を操る操作兵。この操作兵を倒さない限り投石機[illegible]攻撃[illegible]

少年兵



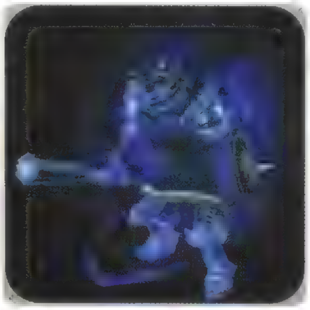
グリーン・ホーン





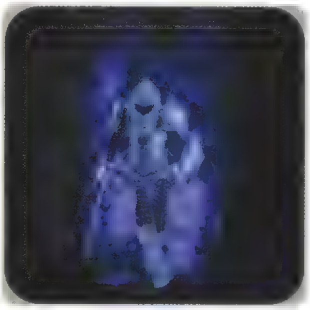
シャドウ

—シャドウについて—





シャドウ（キング）

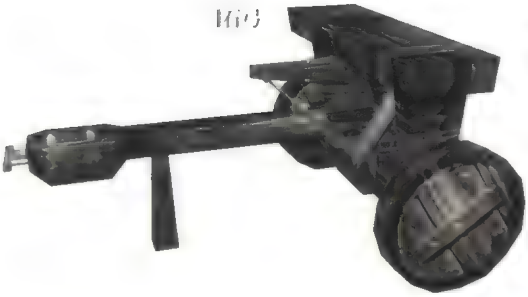


シャドウ

シャドウ ホーン

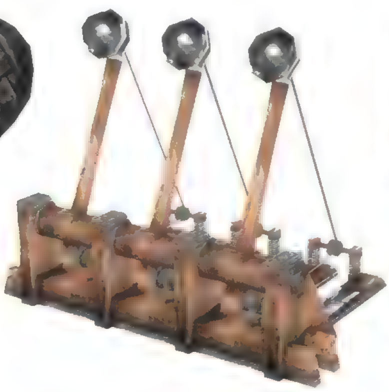
兵器

石弓



投石機





三連投石機



司祭



魔獣使い

鳥の顔のような奇妙な仮面を被った魔術師。魔獣使いとあるが、何かを操っているわけではない。魔法弾で攻撃してくる。

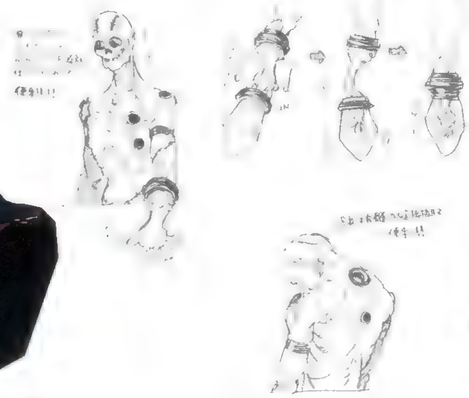


魔獣使い



司祭

魔法を使うことができる帝国軍付き魔術師。光の珠を遠方から放ってくる。何の飾りもない奇妙な鉄仮面を被っている。







ネクロマンサー

一般のロッドを携えた死者を操る司祭。ネクロマンサーの周囲には、常に召喚されたレイスたちが徘徊している。

ネクロマンサー



付与魔術師



アンデッドナイト

付与魔術師

ゴーレムを召喚する能力を持つ司祭。ゴーレムを盾に魔法弾を打って攻撃してくる。付与魔術師を倒せばゴーレムは消滅する。

アンデッドナイト

一度死んだ兵士がゾンビとなって甦った姿。地表から滲み出るように現れる。一度倒してしまえば二度と復活しない。



レイス

レイス

ネクロマンサーによって召喚される死者の怨念。青白い光を放ちボロボロになったフード姿で出現する。攻撃方法は殴打と単純。

ゴブリン

山脈に住みついている小柄な亜人。常に集団で行動する習性がある。ゴブリンは3種類いるが、どれもあまり能力は変わらない







ゴブリンリーダー



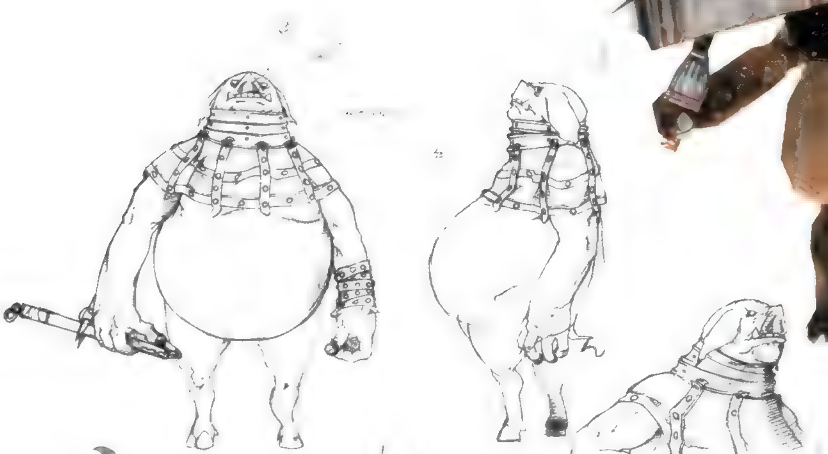
ゴブリン



クリムゾン・ゴブリン



シルバー・オーク



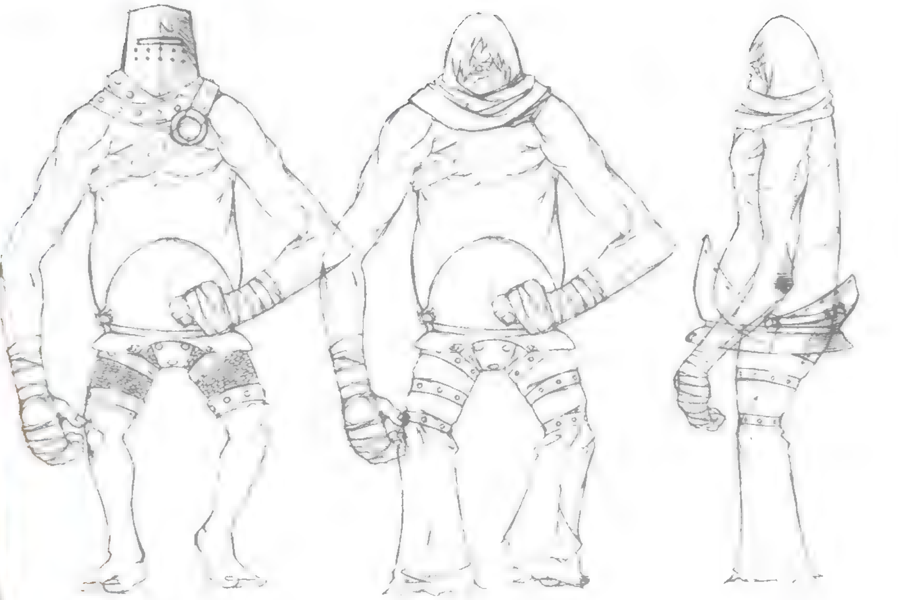


クリムゾン・オーク

オーク

豚にそっくりな亜人。鈍重だが怪力で大きなハンマーを振り回して攻撃してくる。雪の荒野に多く住んでいるようだ





オーガ

人間の2倍ほどの身長を持つ巨人。ブラック・オーガは両手に剣を装備しており、長い手で振り回される剣は非常に危険である。

シルバー・オーガ



ブラック・オーガ



エンパイア・ゴーレム

エンパイア・ゴーレム

付与魔術師に召喚されることで生まれた怪物。[illegible]使い、[illegible]には火[illegible]攻撃[illegible]





トロル

トロル

ぶくぶくと太った緑色の表皮を持つ亜人。大きな分銅を持っており、それを振り回して攻撃してくる。分銅の攻撃範囲はかなり広い。

オーク戦車

オークが操る移動型大砲。投石機と違いあらゆる方向に発射が可能。操作しているオークを倒せば機能を失う。



オーク・タンク



アンヘル －カオス形態－

種の存在を賭けてカイムと戦いを挑むアンヘル。カオス形態と呼ばれる進化の最終段階で、攻撃力、体力ともに大幅にアップしている。

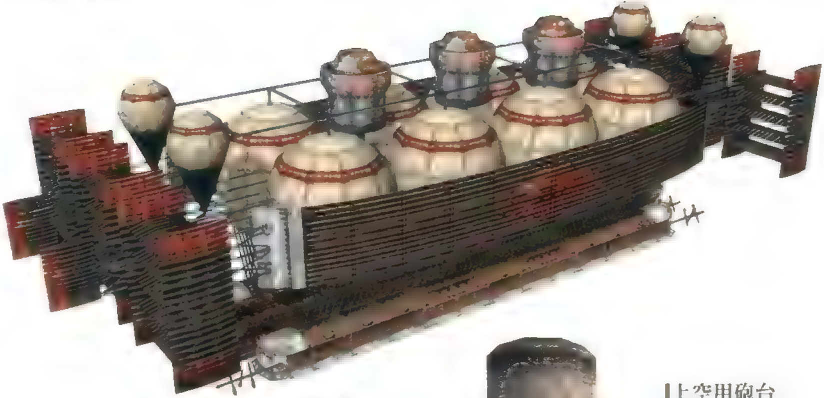




アンヘル（カオス形態）

空中兵器

帝国軍が開発した空中用の砲台兵器。浮遊原理はおそらく兵器中心に何台も設置された気球だと思われる



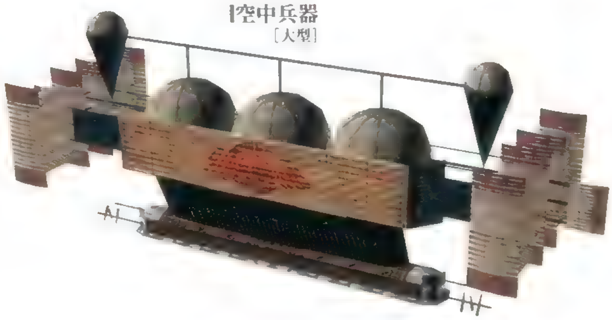
空中兵器
［超大型］



上空用砲台



空中兵器
［小］



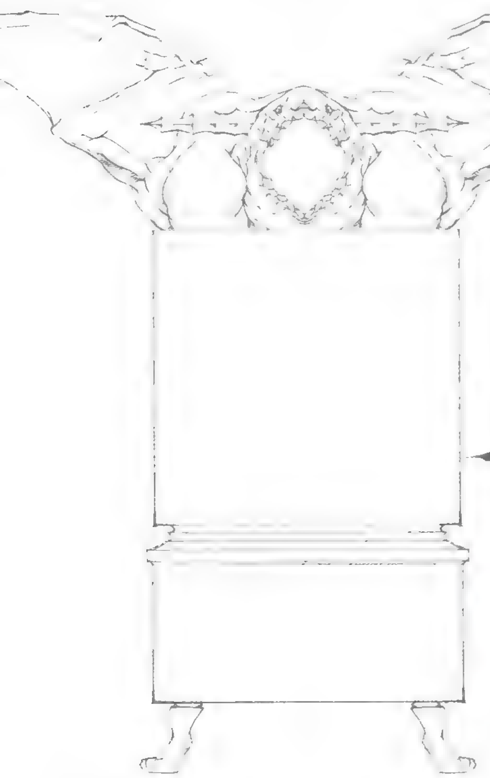
空中兵器
［大型］

ガーゴイル

長方形の石の建造物に竜の顔と翼がついた空中兵器。生物ではなく人工物。3種類のガーゴイルキューブの司令塔である



シルバー・ガーゴイルキューブ

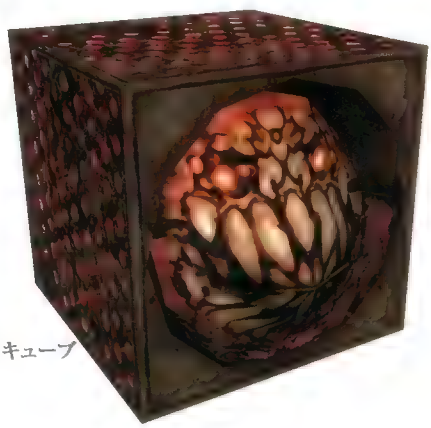




ガーゴイルキューブ



ガーゴイル

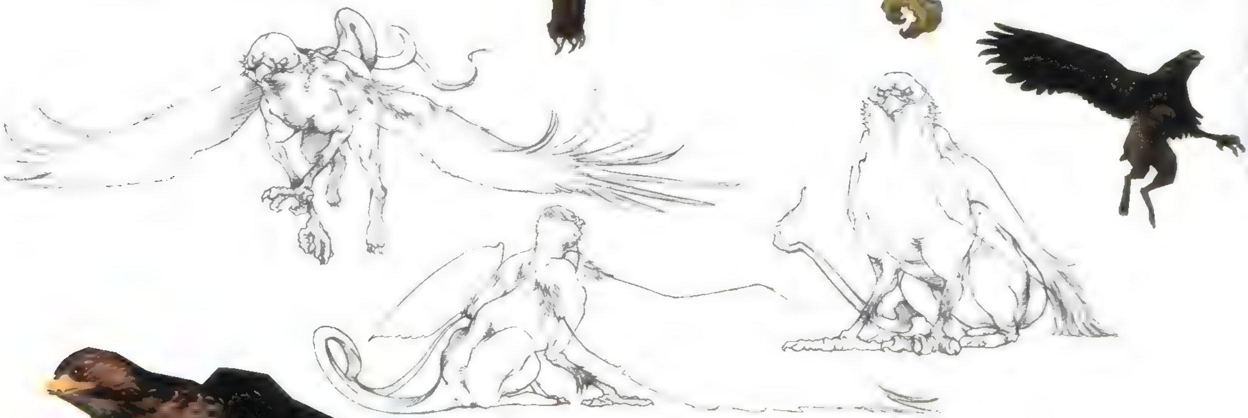


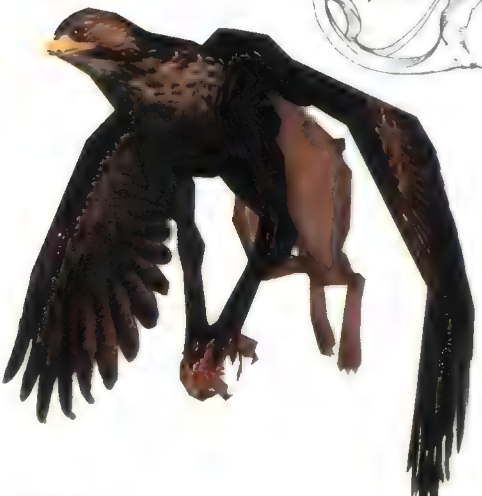
クリムゾン・ガーゴイルキューブ

グリフォン

上半身が鷲、下半身がライオンの姿をした合成生物。獰猛な性格をしており、たとえ相手がドラゴンでも臆することなく迫ってくる







グリフォン

こうもり

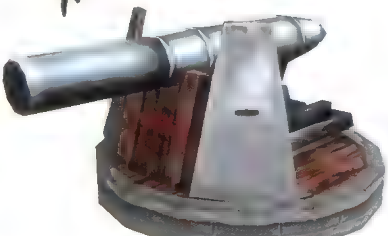
ごく一般的なこうもり。魔力によって通常よりも体が大きく発達している。口から超音波を放って攻撃してくる

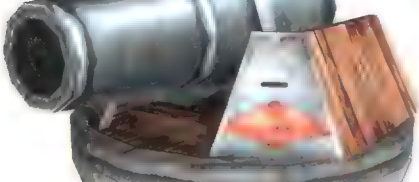


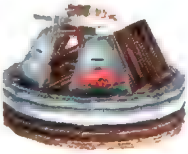
こうもり

砲台

空中兵器などに設置されている対空用砲台。鉄球を連続で発射してくる。攻撃はかわしやすいが直撃すると大ダメージを受ける



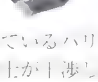




砲台

結界塔

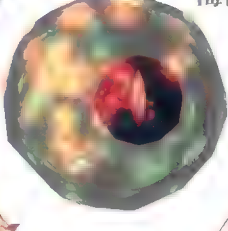
結界塔



海上要塞の周囲に設置されているバリア発生装置のような物。結界塔同士が干渉し稲妻に似た光の帯を発生させる

ビホルダー

一つ目に何本もの触手を生やした不気味な人工生物。全身が漆黒のシルバー・ビホルダーや、目玉だけの毒性ビホルダーも存在する。



毒性ビホルダー





ビホルダー



シルバー・ビホルダー



ゴースト

女性の体をかたどった鉄の棺のような空中兵器。敵が接近すると上下に分割して誘導弾を発射してくる。常に大量に登場する。



エンパイア・ドラゴン



エンパイア・ドラゴンリーダー

エンパイア・ドラゴン

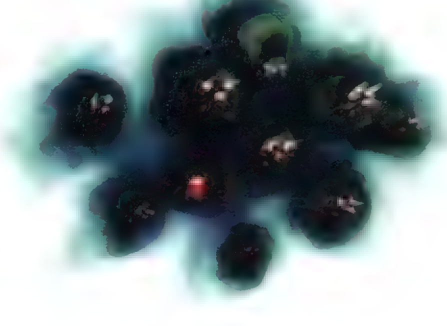
本来ならば人間に干渉しないはずのドラゴンだが、帝国軍はなぜか数種類のドラゴンを操っている。高い身体能力と攻撃力は脅威。





ゴースト





スピリット

スピリット

怨念によって成仏できなかった死者の頭蓋骨が集まって生まれた怪物。青い光を纏い、呪詛をかけながら突っ込んでくる。

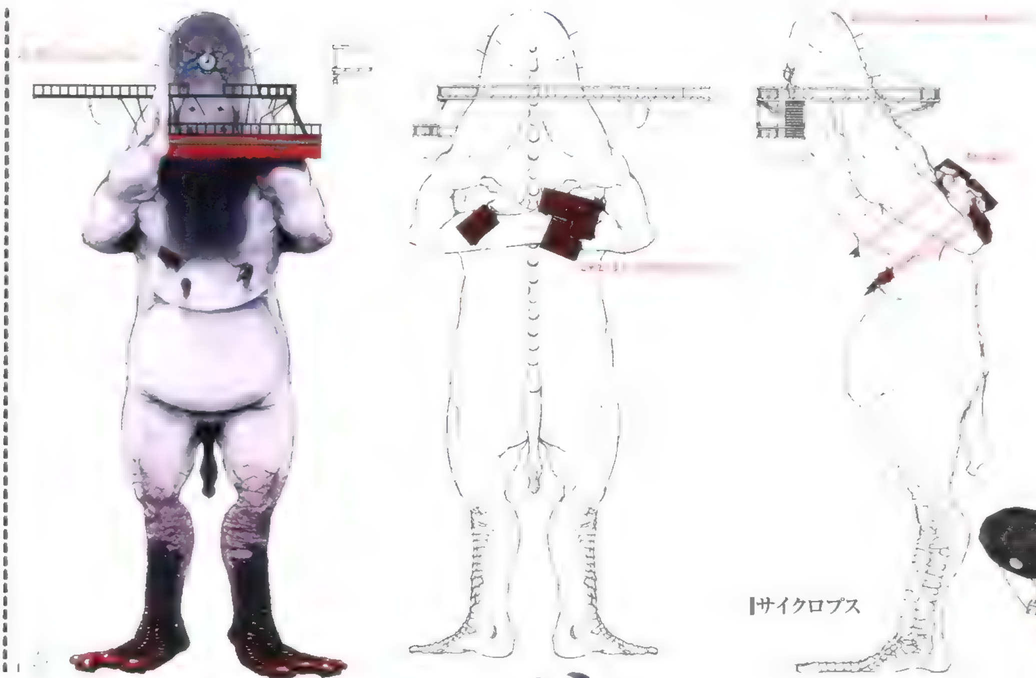




スペクター

スペクター

死神その物の姿をした悪霊。手に持つ鎌はあらゆる攻撃を反射する。空中を滑るように移動するのでなかなか捕らえにくい

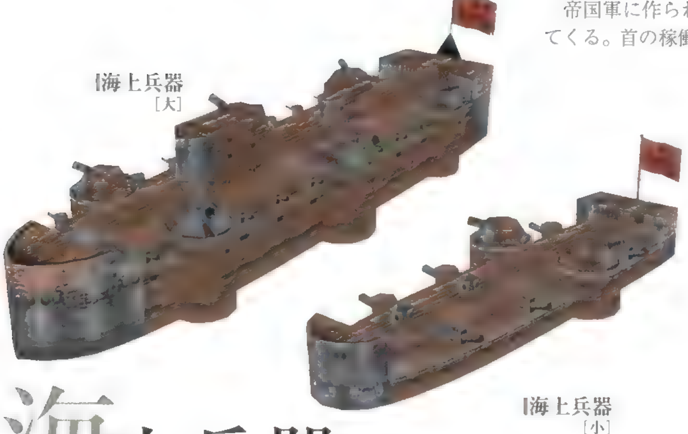




サイクロプス

サイクロプス

帝国軍に作られた人造兵器。一つ目から強烈な集束ビームを放ってくる。首の稼働領域が以外と広く、後方に廻っても安心できない



海上兵器
[大]

海上兵器
[小]



F-15DJ

海上兵器

帝国軍海上部隊の主力兵器。何台もの砲台が設置されている。ちなみに帝国軍旗はファイヤーボールでのみ破壊可能。

F-15DJ

「新宿」に登場する高性能戦闘機。詳しくは米軍攻撃機F-15Dの自衛隊仕様。高速度、高威力の追尾ミサイルを実装している。



敵

敵

世界の封印が解かれたとき出現する「敵」。人間大の物から、奇妙な「音」を発する超巨大な「敵」も存在する。



ブラック・ドラゴン

ブラックドラゴン

イウヴァルトが契約したドラゴン。レッドドラゴンを凌ぐ戦闘能力を持っている。年齢、名前などは一切不明。





マナ

マナ

「天使の教会」の教祖マナが魔力で巨大化した姿。光弾、呪文の描かれた帯などで攻撃してくる。常にこちらを見つめる目が異様。

エンシェントドラゴン





ピット

エンシェントドラゴン

「伝説のドラゴン」と呼ばれるドラゴンの頂点に立つ存在。周囲にピットと呼ばれる生物を従えている。強力なブレスが武器。



フリアエ

フリアエ

再生の卵の力によって怪物化したフリアエの姿。連続で放つ衝撃波や、12本の剣を一斉に放つ攻撃をしてくるかなりの強敵。

第七章

interview

胸臆

心中の思いを吐露すること

なぜ物語はすべて救われないのか？　なぜ登場人物たちはみな歪んでいるのか？　それらの答えは「ドラッグオンドラグーン」制作スタッフインタビューの中に隠されている。

DRAG ON DRAGOONを創った男たち



DRAG ON DRAGOON INTERVIEW

岩崎拓矢／横尾太郎／藤坂公彦／長谷川太郎／柴貴正
Photographer／中筋 純

『DRAG ON DRAGOON』…。
プレイすれば誰しもその独特の世界観に酔いしれ
取り込まれてしまう不思議なゲームソフトである。
『DRAG ON DRAGOON』を創った男たちはどんな
ことを考えてこのソフトを生み出したのか？
その核心に触れる特別インタビュー。

皆さんのご担当は？

藤坂（以下敬称略）：全体的なアートワークやキャラクターデザインが主でした。あとは雑用的なことばかりやっていたような気がします。

長谷川：レッドドラゴンおよびモンスターのデザイン、敵のモデリングやテクスチャーも担当していました。ゲーム中のテクスチャー全般にかかわっていました。

横尾：ディレクションが主ですが、元デザイナーということもあって、空中モードの地形デザインなども手がけました。

岩崎：キャビア側のプロデューサーです。企画から立ち上げを横尾と二人三脚で、横尾のオリジナリティあふれる世界観を崩さないよう、作品に盛り込めるかサポートしながら進めていきました。

柴：スクウェア・エニックス側のプロデューサーです。元はヴァルキリープロファイルの制作に携わっていました。

「DOD」出生の秘密は？

柴：僕がまだ、ヴァルキリープロファイルの制作をやっている頃にゲーム業界の集まりがあって、そこで岩崎さんと知り合いになったんですよ。その頃、岩崎さんは大手のゲームメーカーに勤めていらっしゃって、たまたま色々お話したのが始まりです。その後、1年に1回くらいのペースで会っていたのですが、数年前になにげなく連絡をとったらすぐにレスがきて、今のキャビアさんに移動されたことを知ったんですよ。

岩崎：そうだったね。

柴：即レスでしたよ（笑）。1時間以内くらいかな？ それで、なにかやりましょうか、という話になって。

岩崎：やりたい方向性としてはドラマ性がすごくあるゲームと、七人の侍がやりたいっていったんでしたよね。

柴：七人の侍は難しいから、まずはドラゴンでしょう、と。

岩崎：で、できあがったのがDODなんですよ。

柴：でも「DOD」は基本的にドラゴンを操作するゲームだったんです ドラゴンがでてくることで「パンツァードラグーン」に似通ってしまう内容になってしまうんじゃないかという感じがして、一風変えるため、そこにRPG的な要素を取り込んだら面白いね、っていう話になったんです まぁ…地上戦は「大群と戦えるグラディエーター」、空中戦は「エースコンバット」で、かつRPG…ってなんだか子供が考える夢みたいなところから始まったんですね で、(旧)エニックスから発売されるなら「ドラクエ」的なイメージだからドラゴンを、そしてRPG要素を持った今までとは違うアクションものにしたかったという思いもありました



柴貴正 *Takamasa Shiba*

「DOD」のスクウェア・エニックス側の総合プロデューサー。企画、設定、進行などなどすべてに関わるナイスガイ。

世界観が「中世」なのは最初からですか？

岩崎：最初の頃から決まっていましたね ストーリーから作りこんでいく前段階で「中世」の物語にしようって…
柴：中世×エニックス×ドラゴン でファンタジーな話でって…元々TRPGが好きだったんで、中世という世界観には抵抗もないし、入っていきやすかったですね
長谷川：僕もTRPGをやっていたせいか、中世に抵抗はなかったので、モンスターのデザインなどもわりと楽でしたよ

中世を舞台にしたことで、デザイン面で何か苦労されたことはありますか？

藤坂：長谷川さんは中世が得意なんですが、元々、工業デザインを学んでいたこともあって、僕はわりとSFよりというか…中世についてはほとんど知らなかったんですよ そういうこともあって中世の雰囲気を掴むのに苦労はしていたんですが… 紋章やシルエット…なんていったらいいんだろうな…ディテールじゃないところがいわゆる「中世」だと、ただの「中世」になってしまうし、特に「DOD」は新規のタイトルだったので、どうしてもそこを打破したくて…とにかく目に付いてほしかったですね (中世とは)離れてはいないけど、なんか違う…的な部分を
柴：中世を知らなかったせいか、キャラクターなどが今風のデザインになっていて、中世と現代の融合というか…いい感じに仕上げてくれましたよ

ストーリー自体が陰湿でかなり重苦しい話ばかりでしたが…。

岩崎：ストーリーを作るのに、エンディングをはじめに決めていきました なるべく、遊んだ後に印象に残るものを考えていきましたね それで、ストーリーのプロットのようなものをエンディングに向かって肉付けをしていく…そのあたりの整合性を取るのは、脚本を担当していただいた名取さんの力が大きかったですね
横尾：そうです でも、救われないエンディングばかりというものちゃんと意味があるんですよ
岩崎：戦争でどんどん敵を殺していく内容のゲームでの「ハッピーエンド」にすごく違和感があったんですよ 殺戮を肯定して表現するのが嫌っていうか… ハッピーエンドにはしたくないなって思いました でも最終的な方向性はスタッフのみんなで話しているうちに決まったものなんですけど
横尾：ユーザーが戦って、人を殺して、バッドエンドを迎えて、それでも戦うことにこのゲームの意味があると思っています

エンディングといえば新宿エンディングのような異質なものもありましたね。

岩崎：新宿エンディングは実は最後の最後まで柴さんにも内緒にしていたんです
横尾：そうそう。隠してましたね
柴：(苦笑)
横尾：というか、僕自身中世に詳しくないんで知っているところをだしたかったんです 単純に
柴：新宿エンディングにでてくる「やまや」の看板はすごくびっくりしました。今年の4月にスクウェアとエニックスが合併して、7月に今の本社ビル(新宿文化クイントビル)に引越ししたんですが、ちょうどあの看板がビルの目の前にあったんですよ
岩崎：あれはちゃんと「やまや」さんに使用許可いただいているんですよ
柴：でも引越し場所が決まる前にあのエンディングがあったんで…偶然ってすごいですよね
岩崎：ユーザーの皆さんには初耳だと思いますが、実は横尾の中では新宿エンディングはもっと違った形で表現されていたんですよ
横尾：企画合宿のときに話しが出たんですけど、あの白い大きな「敵」がでてきたじゃないですか あれは本当は全身タイツ(銀)を着た「某カリスマ人気歌手」で、カイムと歌合戦で戦うっていうエンディングだったんです。もちろんボツになったんですけど…(笑)
——でも音ゲーで要素は残っていましたね。
横尾：けっこうもう、全身タイツを着ている「某カリスマ人気歌手」の絵まで頭の中では出来上がっていたんですけど… 反対されて…ボツになりました

登場キャラクターに関して

——登場人物の中でもフリアエはあまり報われなくて、なんだかヒロインらしくないヒロインですが…
岩崎：ある意味、ヒロイン中心の物語へのアンチテーゼ的なものもあるかもしれません
横尾：フリアエはあまり制作者に愛されていないキャラクターですね(笑) イウヴァルトとカイムの「ライバル」としての位置づけを明確に描き出すために生まれたキャラクターだったような気がします 制作当時、「シスタープリンセス」というゲームが流行していて、そんなに「妹」がいいのかよってところで「妹」にしたんですよ ハッピーエンドじゃないけど
藤坂：当初はもっと地味なルックスでしたよね 女子大生というか…
岩崎：田舎に教育実習生に来る女子大生がイメージだった…ですかね？
横尾：俺の中では「なかなか振りむいてくれないイヤな女」がフリアエ像でした(笑)
藤坂：一番リテイクが多かったのもフリアエでしたね…
岩崎：フリアエのデザインはもめましたね
——当初はイウヴァルトのデザインが主人公になっていたとか…？
横尾：そうでしたね チーマーみたいな…でも、これは違うだろってことで
藤坂：最初はムービーの部分はアニメーションの予定で、CGのムービーで展開するとは思っていなかったんで…割と軽い気持ちで書いてみたんです だから3Dになったとき頭の切り替えがきつかったですよ



岩崎拓矢 *Takuya Iwasaki*

キャビア総合プロデューサー。「DOD」の総合プロデュースを横尾氏とタッグを組んで進めた。社内調整などの縁の下の力持ち的な役割もこなす

岩崎：フリアエは、ストーリーが先に出来上がったことから「この世界

が戦争をしている理由」として存在していることと、カイムとイウヴァルトのキャラクターをたてるためにいるキャラクターでしたね。

――イウヴァルトの「唄がうまい」という設定を途中から忘れてしまうほど薄まっていたような気がしたのですが。

岩崎：彼にとって「唄うこと」がアイデンティティーだったのです。彼の唄で癒されることが、フリアエにとっても大切なことだった。でも、それを捨ててまでフリアエをほしがったというキャラクターなので、そう感じても不思議ではないと思います。

各キャラクターイメージについて

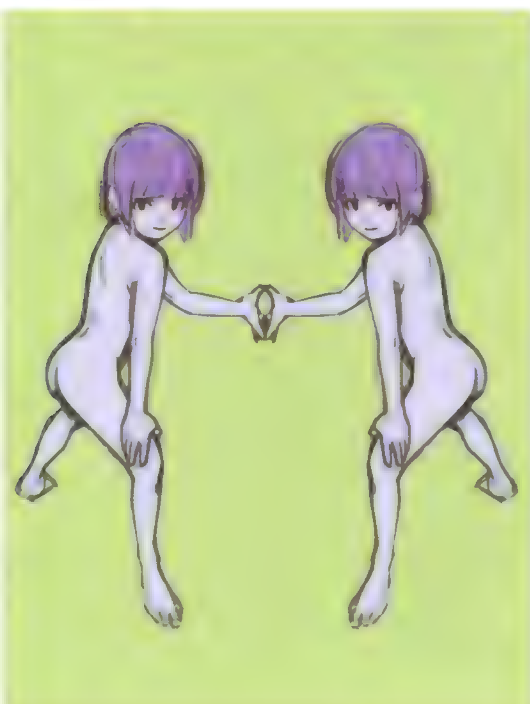
横尾：開発ネームにイメージするキャラクターの名前が入っていたりしたんですよ。はっきりとしたイメージはないものの、この人の雰囲気で…みたいなのはありました。

●主役キャラクター
カイム→ガッツ(ベルセルク)
アリオーシュ→赤木リツコ(新世紀エヴァンゲリオン)
レオナール→スレッガー(機動戦士ガンダム)
セエレ&マナ→映画「レオン」のナタリー・ポートマン
フリアエ→綾波レイ(新世紀エヴァンゲリオン)
イウヴァルト→開発段階では「ライバル」という名前で、後から作ったキャラクター。特にモデルはいない
ヴェルドレ→敵のボスとして作った。特にモデルはいない。
●ボツキャラクター
開発ネーム：土井た●子
開発ネーム：しんじょう
開発ネーム：ランバラル



藤坂公彦 *Kimihiko Fujisaka*

グラフィック、イラスト担当。「DOD」の絵画的なビジュアルを作り出した人物。他に雑用一般もしていたらしい。



ヴェルドレについて

――ヴェルドレの契約者は「石化したドラゴン」となっていますが、設定資料を調べてみると"エンシェントドラゴン"と書かれていました。彼の契約者は本当はエンシェントドラゴンなんですか？

岩崎：はい、そうです。これは横尾の中で設定が決まっているらしいのです…。

横尾：エンシェントドラゴンといっても、帝国のものとは違います。別のエンシェントドラゴンのことです。この世界には、エンシェントドラゴンは沢山いるんですよ。なんでヴェルドレが契約したのか…本当の裏設定もあるんです。本当のというか、僕の中の「ヤング ヴェルドレ ストーリー」は…神官時代の話なんですが、神官長になる競争の中で、どうしても神官長になりたかったヴェルドレは何か方法を探していたんですね。もちろん「契約」のことも知っていたんですけど、代償を払うのがイヤで契約者にはなりたがってなかったんです。でも、どこかで「すごく軽い代償で契約してくれるすげぇドラゴンがいる」と聞いたんで「ラッキー」と思って契約しようといってみたら、相手がエンシェントドラゴンで、喜んで契約したんだけど、死ぬ寸前というか石化する直前だったので力も手に入らないし大事な髪の毛はとられるしで散々だったって話なんですけどね。おしゃれに敏感だったヴェルドレはすごーくショックだったんだと思うんですよ。

岩崎：でもヴェルドレはあまり愛されるキャラクターじゃなかったね

藤坂：僕はヴェルドレ好きなんですけどね～。

一同：(笑)

岩崎：ヴェルドレは当初、敵の最終ボスとして設定していたキャラクターなんです。途中から味方としての存在に変更になって、いわゆる女神を守ることを使命として旅をしています。でも途中で明確な生きる目的が…というか旅を続ける強烈な動機がなくなってしまうんですよね。女神が死ぬことによって。

横尾：ヴェルドレ以外はみんな、それぞれの理由で納得して死んでいるんです。イウヴァルトはフリアエを再生させることで納得していますよね。実はあの死に顔は笑っているんですよ。アリオーシュも子供とひとつになれた(食べられることによって)。レオナールはセエレを守ることができた。セエレも自己満足だけど、「ちいさい勇者さま」として死ねた。カイムに関しても憎き敵を沢山殺したから悔いはない。自分たちなりの終末を迎えているんですね。でもヴェルドレは一生懸命生きてないし、死んでもいない

一同：(笑)

横尾：ヴェルドレのイメージは「イヤな上司」。自分じゃないどこかに責任を転嫁している人間なんです。だから死ねないのかな

物語での描写について

――レオナールが、自分の性癖のせいで家の裏の森で楽しんでいる間に弟たちが死んでしまったりといったストーリーがありますが。

岩崎：なにか強大な敵に向かっていく物語ではなく、罪深い人間が自分自身のことで深く悩み苦しんでいく…本人自身のトラウマや、苦悩を吐露していくところがどのキャラクターも通じて物語にしやすかった点ですね。人を殺していくゲームを考えたときの、スタッフみんなの共通イメージでしたし…。



柴：ですが、やはりこういった描写は非常に扱いが難しいんですよ。倫理の制限の明確なラインがわからず、かなりできあがってしまった時点で社内の倫理チェックにかけたところ、ムービー部分などにカットやかなりの修正がはいりましたから。

岩崎：倫理の問題に関しては初期の段階で、「宗教トラブルになりやすいもの」「見た目にスプラッターなもの」に関してはNGとして制作したのですが、それでもやはりカットされた部分が多かったですね。
柴：TVドラマや小説に比べると、ゲームは子供もプレイする可能性がありますので倫理規定が厳しく、業界全体の歴史が浅いためか、まだ倫理に関して議論されていない部分だったのかもしれませんが、このゲームに関してはOKなところが少なかったように思います。作り手側としてなかなか貫けなかった部分もありましたね



横尾太郎 *Taro Yoko*

「DOD」ディレクター。岩崎氏、柴氏とともに「DOD」の世界観を構築した一人。ヒゲと笑顔がステキなおにいさま。

倫理規定で削除されたといわれても、かなりショッキングな場面が多かったんですが。

　アリオーシュの海上要塞での場面や、最後の「敵(小)」との絶命シーンなどはかなりショッキングですよね
岩崎：子宮をなくして二度と子供を手にできなくなった彼女は「子供を守りたい」という気持ちでいっぱいなんです。守るために一番都合のいい場所は…？　と考えたときに、体内に取り込むことが外敵にもさらされずに安全だと思ったんですね。だから子供とひとつになりたい彼女は「食べること」で苦しみから逃れようとしている。結局最後には「敵(小)」に食べられることで「ひとつになる」ことを叶えたんだと思います
　アリオーシュはセエレを食べたかったんですかね？
横尾：食べたかったんでしょう
岩崎：レオナールは「犯したい」と「かわいがりたい」の間で困ってるんですよ
　そう考えるとセエレはかなりの困った存在ですね。
岩崎：カイムとイウヴァルトの間にフリアエがいるように、アリオーシュとレオナールの間にセエレがいるみたいな三角関係ですね

セエレについて

横尾：お笑いキャラです
　他のキャラクターに比べるとまともな気がしますが。
横尾：他がオカシナ人物なだけにそう見えるかもしれないけど、この子は普通で正論を言っているけどなんか曲がっているんですよ
岩崎：ただ、「DOD」の物語を知る上では重要ですね。Aエンディングではセエレに出会うことなく終わるんですが、２周目以降にセエレと出会うことで「マナ」の存在の意味がわかるし、「おおいなる時間」を繋ぎとめるためのキーマンになりますしね
横尾：マナの事を思っているようで、じゃあマナの行動をとめようとしているのかというとそうじゃない。マナがこうなったのは自分のせいだから…自分が悪いから…自分が自分がって。あくまでも、自己中心的に考えている子供なんです

マナを動かしていたものって？

岩崎：マナに関しては…「どうしたら自分は愛される？」と追求したら、何でも信じられる無の心境になってしまったんですよ　マナは心が空っぽになってしまった箱　その純真無垢な彼女を利用してこの世界の神が色々やらせてる
横尾：神様は細かいことがあんまりできないんです。だからマナを利用してウィルスをばらまくみたいな形で。マナには自我がないですから、善悪の判断ができないんです。だからどんな残忍なこともしてしまうし…



武器・魔法に関して

　65本というのはプレイヤーとしてはコレクションする上でもちょうどいい本数だったと思うのですが？
横尾：そういっていただけるとうれしいです。でも、実は開発段階では「256本」あったんです。まぁ、多すぎるな〜と思ったんですけど。そうしたら柴さんから武器にレベルをつけてほしいというオーダーがあって、65種類×全４レベル…65×4＝260で実数はさほどかわってないんですけど、今の本数になりました
柴：前にも話したように、RPG要素をできるだけ取り込んでいきたかったんですよ。そのためには武器にも成長の概念を取り入れたかったんです。魔法もレベルが上がったりね。だから武器の一本一本に思い入れがあるんです
　武器の物語もありますよね
柴：あれは「DOD」の開発スタッフがみんなで書いたんです。シナリオ担当の方以外みんな　スクウェア・エニックスのサブ担当で入ってくれたスタッフも書いたんですよ
　日本語名と英語名が微妙に違うのは？
横尾：日本語名をつけるのが先で、そのあとゲームのイメージを重視してもらって、スクウェア・エニックスの方に武器っぽい英訳をしてもらいました。日本語名をそのまま訳すとどうしてもおかしな文章になってしまうので
柴：デボルポボルは？
岩崎：デボルポボルね
横尾：実は、キャラクターにしろなんにせよ、今回の作品のルール付けとして「造語を入れない」っていうのを僕の中で決めていたんですが、これだけ唯一の造語なんです。アシスタントに頼み込まれてましてね　どうしてもと…。知り合いの犬の名前を入れてほしいって言うんです　「デボル」と「ポボル」の2匹なんですけど…すごい気迫でしたから完全に押されて、入れました…

ネーミングについて

　カイムなどは悪魔の名前からの引用では？
横尾：キャラクターの名前をつける会議で、ずらっと悪魔の名前をだしたんです。そのなかで「男性っぽい名前」「女性っぽい名前」とピックアップして、最終的には音や雰囲気で選びましたね。あと呼びやすいのもポイントだったな。イウヴァルトは岩崎さんのリクエストで「言いにくい名前」にしました

モンスターについて

長谷川：ほとんど苦労はなかったですね　リテイクもないですし
柴：長谷川さんは世代も同じだし、TRPGをやっていたという共通

もあって、たいていのデザインは一発OKでしたね。無理を言ったのは藤坂さんの方が多かったかも…

長谷川：デザインよりも、ポリゴン数の制限があるところが唯一つらかったです。ただ、ゴブリンなどのみんなになじみのあるモンスターを登場させたほうがいいのかなー、と考えたりはしましたね。「敵」に関しては横尾さんが作りました。



長谷川太郎 *Taro Hasegawa*

モンスターグラフィック、各種テクスチャー関係など、『DOD』に登場するモンスターたちの[illegible]

――「敵（小）」から発せられる稲妻みたいなものが羽のようにも見えましたが…

横尾：というか、「敵（小）」はダンシングベイビーまんまだし、「敵（大）」はPoserという3Dソフトのデモをまんまいれた「3DCGバンザイ!!」的なものなんですけど…OKされましたね。

柴：[illegible]（笑）

声優陣について

――ドラゴンとカイムにピーターさんを起用したのは？

柴：とにかくこの作品には、いろんな人に参加してほしかったんです。でも「うまいひと」じゃないとイヤ！ というのが僕にもキャビアさんにもあって、企画会議でまたリストアップから始まったんですよ。カイムは主人公だから、途中で声をなくすとしてもキャラの立っている人じゃないとだめだし……ドラゴンに関してはまず大輪明宏さんの名前が挙がったんですね。性別も年齢も超越しているキャラクターとして。[illegible]

岩崎：[illegible]

柴：[illegible]

――イウヴァルトを[illegible]さんというのは？

柴：[illegible]

岩崎：[illegible]

モンスターのデザイン

藤坂：[illegible]

けないので、雰囲気やポーズで表現しましたが、苦労しましたね。

長谷川：今までドラゴンをモチーフにしたゲームは沢山あって、「パンツァードラグーン」のドラゴンじゃいけないし、かといってドラクエのドラゴンでもないし…。ゲームのシステム上、角周りと尻尾しか変化がつけられなかったんです。しかもせっかくの3Dゲームなので、どうせなら角度によって色々な見え方をするほうがいいのかなとおもって、色々いじくりまわした結果、角などはああいった形にしました。

岩崎：特にモンスターに関しては制約が多くて苦労したと思いますよ。

長谷川：デザインでなく、ゲームの中で動くものにした場合できないことが多くあるんです。ポリゴンが足りないとか。ただ、モンスターはシルエットで覚えてほしいところがあって、たとえばエンパイア・ドラゴンは翼だけとか。キメラ系の敵もそういった制約で四角になったんですが、進行していくうちにプログラマーさんから「これだったらもっとできる」って話になって出現数が大幅に増えたんですよ。モデリング兼モーションの人の手間もかからなかったので色も3種類に増えたり…。エンシェントドラゴンも当初は大量にいたんです。

横尾：そうゆうオーダーしたね。大量に出てくるようにしてくれって。

長谷川：でもエンシェントドラゴンってすごいドラゴンでしょう？ 自分の中では強大なイメージ、厳格なイメージがあったんです。そんなのがいっぱいいたらありがたみもないし、それで1匹を登場させてくださいってお願いしたんです。「エンシェントドラゴンは石化していた」という設定があったので、顔の辺りはモーションの人も苦労しましたね。質感を出したり…。でも楽しかったです。

――「DOD」の話をしていると永遠に終わらなそうですね（笑）。皆さん、本当に情熱を持って制作なさっていたことが分かりました。本日は色々なお話を聞かせて頂きまして、ありがとうございました。

【2003年10月吉日】



第八章

term description

用語玄覧

奥深く書物などを読むこと調べること

「ドラッグオンドラグーン」に登場するあらゆるキーワードを解説する用語解説である。これを読み解くことで、物語の本当の真実が見えてくることだろう。

用語事典 第二版
DRAG ON DRAGOON

あ行

【赤い眼】
"天使の教会"の信者は皆一様に赤い眼をしている。司教によって操作され、殺戮と破壊の衝動に突き動かされてる彼らだが、彼等自身が女神を殺す事は出来ない→【女神の死】

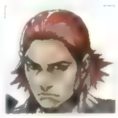
【アシラ】
先代の女神。それまでの女神の時代と異なり、彼女が封印を護った時期に農村一揆や貴族の反乱が頻発したといわれている。アシラが掟を破り堕落した恋に落ちたために神の怒りを買った、との噂に基づくものだ。「恋の相手は東の小国の国王・ガアプである」と言うものもいるが、厳格で名高い王を失墜させるための陰謀であるとの見方が強い(注：その後、同王がブラックドラゴンに惨殺されるに至り、実はこの噂は真実なのでは、と囁かれている)。

【亜人】
人間に近い姿形をしているモンスターの総称。ゴブリン・オーク・オーガ・エルフなど。特に知能の低いモンスターを亜人と呼ぶことも多い。帝国では多くの亜人が従軍しており、主に帝国軍の兵器運搬を任されたり、尖兵として配備されたりと、かなりひどい扱いを受けているが、本人たちは何も感じていないらしい。

【アリオーシュ】
エルフ族の未亡人。帝国軍に家族を惨殺され精神を病んでいる。規律正しく柔和なことで知られる他のエルフとは一線を画し、乱暴な行動に出ることも多い。子供ばかりを狙った惨殺事件を引き起こし、帝国軍に囚われた後も施設の奥に閉じ込められる事となる。後に子宮を失うことでウンディーネ&サラマンダーという2体の精霊と契約することとなり、そのパワーを武器に他者に攻撃を加えている。



【イウヴァルト】
カイムの幼馴染でありフリアエの元許婚。ガアプ王の元に出入りする貴族イブリスのひとり息子。イブリスへの親愛を裏付けるかのように、ガアプ王はイウヴァルトを自分の子ども達カイムやフリアエと分け隔てなく可愛がった。剣の仕込みもガアプ王直伝。とはいうものの、やはり遺伝のなせる業かカイムにはどうあがいても敵わずにいた。しかし、イウヴァルトにはカイムにない才能があった。それは音楽。イウヴァルトの奏でるハープは聴く者の心を穏やかにさせた。とりわけフリアエはイウヴァルトを高く評価し、何度も演奏をせがんだ。やがてイウヴァルトとフリアエは恋に落ち、王もこれを了承。2人は許婚の身となった。しかし、これをきっかけに、どんなときも一緒に過ごしてきた3人の関係にひずみが生じる。イウヴァルトはフリアエを独占したいと願うが、しかしフリアエは兄のことを慕って離れないのだ。カイムはイウヴァルトとフリアエに幸せになってもらいたいと願っているのだが、またそうした優等生的なところがイウヴァルトにとっては癪にさわる。相変わらず剣の腕でカイムに太刀打ちできないことが、その気持ちに輪をかけた。結果、自尊心の強いイウヴァルトは、ガアプ王のもとを離れ、傭兵らを相手に自ら剣術を学ぶようになる。が、父イブリスはこれを許さなかった。「血を求め振るわれる剣は、和を求め振るわれる剣に未来永劫敵うことはない」。イブリスは、かつて敵同士として交えたガアプに遣える身となった経過を話し、説得。自らのプライドを顧みない父の姿に諭され、イウヴァルトはガアプの元に戻っていく。しかし、ついに2人の確執は剣の練習時に火花を散らしてしまう。イウヴァルトの剣がカイムを傷つけてしまったのだ。兄を心配するフリアエは、イウヴァルトに辛く当たってしまう。「大丈夫だから心配するな」というカイムを横に、イウヴァルトは無言で場を離れてしまう。突如としてブラックドラゴンが国を襲ったのは、その翌日であった。国王が殺害され悲しみに暮れるカイムとフリアエ。イウヴァルトは、そんな彼らを慰めてあげることさえできぬ自分に腹が立った。やがて国の執政を担う立場となった父・イブリスのもとで、仕事に励む中、カイムやフリアエとも会話を交わすようになるものの、かつてのような関係には戻れずにいた。父を殺されたカイムはイウヴァルト以上に閉鎖的になっていたのだ。やがて、国は寂れ王国は滅ぶ事となる。残されたカイム、イウヴァルト、フリアエも、国をあとにすることにした。当然自分について来るものと思ったフリアエは、兄を心配するあまりカイムと共に去ることに。この兄妹を支えてやれるほどの力が欲しい。イウヴァルトはそう願いつつ、1人無人となった王宮でハープを奏でていた。



【石の隠れ里】
荒野の先、浸食地形の続く谷の奥にあると言われる里。ゴーレムを操る種族が住んでいたが帝国軍によって壊滅する。生き残ったのはセエレただ一人。巧妙に隠れているため、人目に触れることは滅多にない。

【イブリス】
イウヴァルトの父の名。貴族である父・イブリスはガアプ王のお気に入りで、両家は家族ぐるみの付き合いさえ行われるほど緊密な関係にあった。ブラックドラゴン襲撃後、国王亡き後に王国を建て直そうと精力的に活動する。だが、やがて国は寂れ、国民も徐々に姿を消す。執政に携わっていた数人の貴族たちも、やがて国を離れだした。イブリスは最期まで国と運命を共にすることを誓ったが、1年後病死してしまう。

【隠者】
俗世との交際を絶って、辺境に隠れ住む人。ストイックな強さを持つ者よりどちらかといえば俗世に傷つき病んでしまった繊細かつ弱き者がこの職を選ぶことが多い。のちに契約者となるレオナールもまたそのひとりだった。世界の行く末よりは自らの業をいかに鎮めるかに心を砕いている。

【ヴェルドレ】
女神と直接話すことのできる唯一の職・神官長を務める。封印は果たして神に対する叛乱ではないのか、といった疑問を抱きつつも、自らの使命として神官の職を全うしようと思う。封印が解かれるときに現れるとされる「再生の卵」については恐れを持ちつつ、どこかで現世の浄化を期待している面もある。若き頃にドラゴンと契約する機会を持ち得たが、現在は彼自身が戦うこともなく、またドラゴンも石化している。帝国軍による女神の奪取という非常事態により、ひとりの人間としての器を試される受難に瀕す



【歌】
イウヴァルトが得意とする。ハープの音色と共に響く彼の朗々とした声は、フリアエの心も癒した。この事実によって、剣の腕がカイムに敵わないイウヴァルトも自尊心を保っていられた。

【ウンディーネ】
水を司る精霊。常にサラマンダーと共に行動する。性別はないが、口調は清逸な女性。崩れ落ちた牢獄の中でうごめき、生を渇望するアリオーシュのエゴに魅了され、彼女と契約を結ぶことになる。



【エルフ】
争いを好まない温厚な種族。成人になるまでは人間と同じ成長をするが、そのままの姿で人間より遥かに長い期間を生きる。海上神殿をひらく際、"鍵"の役目を果たす。

【エルフの里】
エルフが住む永世中立の里。広大な森の奥に存在する。いかなる争いも許されない土地であったが、エルフの能力と生き血を求める帝国軍により壊滅させられる。

【エンシェントドラゴン】
ドラゴン属の中でもその存在が伝説となっている存在。常に高高度を飛行し人の目に触れることは殆どない。無数の子機と本体からなり、形態も様々に変化する。強大な攻撃力を持つ反面、会話などを行う知性は持たずその生態には謎が多い。

【おおいなる時間】
しかるべき場所におさまった「時間」「空間」「次元」のこと。世界がきちんと動くのはおおいなる時間が存在するため。世界の破滅は間接的にこの時間の停止を意味する。女神あるいは「時間」を操れる者のみが、おおいなる時間に直接触れることが出来る。

【"オシルシ"】
女神が死ぬと、後継者(女)の身体に現れる文様のこと。烙印のような呪文列が螺旋状に浮かび上がる。それこそが女神候補を告げる刻印であり、証拠。そして"おおいなる時間"に関わる力の源である。"オシルシ"が転移するには規定の儀式が必要だが、それがどういうモノなのかは

神官長のみが知ると言われている。いったん現れた“オシルシ”は二度と消えることがない。“オシルシ”が現れた者が女神(封印)になることを辞退することは許されない。たとえ逃げても、“オシルシ”の呪文列を読み解く能力を持つ神官長がどこまでも追いかけてくるだろう。“オシルシ”は呪縛のひとつであるのかもしれない。そして“オシルシ”を持つものは出産することが許されない。また“オシルシ”は常に痛みを伴い、身体への負荷も大きい。女神は一様に短命である。現女神であるフリアエは膣内に螺旋状に“オシルシ”が出現。激痛により性交が出来ない身体となる。前女神の淫行が引き起こした業報とも言われているが、定かではない。

【音】
物体の振動が空気の振動により伝播して伝わり起こす聴覚の内容の事。または音波の事。音の強さは振幅で決定され、音の高さは振動数で決まる。
振幅：もっとも大きく振動した幅
振動数：1秒間に振動する回数　単位…Hz(ヘルツ)

か行

【ガアプ】
大陸東部にある小国の8代目の国王。カイムの父の名。土地は小さいが肥沃で境内の森林には野生動物も数多く生息しているため、自給自足を行っていた。そのため勢力を広げる必然を持たず、専守防衛を国軍の規範とし、幾多の大国が技術革新に基づく装備の強化を図るなか、初代国王からの伝統を汲む武術(剣)を鍛錬することで、国を守ってきた。8代目にあたるガアプは温厚だが、これまでの王の中でも突出した剣の達人で、息子カイムも父からの指導によりメキメキと腕を上げていた。また王妃ともどもフランクなところがあり、本来なら下階級である貴族たちとの交流も頻繁に行い、国民からも尊敬の念を抱かれていた。そんな状況が一変したのは、ある穏やかな休日の午後だった。突如として国を襲ったブラックドラゴンにより国王であるガアプと王妃が殺害されたのだ。自らの兵を気づかってか、護衛を含む全兵に休暇を与えたその日、久しぶりに訪れた家族水入らず団欒の場で事件は起こった(実は兵に気を使っただけでなく、親友・イウヴァルトとの関係に傷ついたカイムを気づかってのことでもあった…)。息子カイムとその妹フリアエの目前で、ドラゴンの鋭い爪が国王の肉体を一瞬にして切り裂いたのである。息子には厳しく剣を指導する一方、妻や娘の前では武具を持つことをヨシとしない柔和な性格が災いしたのだろう。ガアプは襲いくる悪魔に成す術がなかった。国王を突如として失った王国は、配下の貴族たちによる共同体として国の維持をはかるが、やはり求心力の低下は免れず急速に勢力を失う。やがて国民たちも他の国へと散り散りになり、王子であったカイムすら連合軍の一兵士として前線に出て行ってしまう。現在では廃墟と化した王宮が形をとどめているに過ぎない。

【海上神殿】
穏やかな海に幾つも浮かぶ小島の一つに、島全体を占めるようにして神殿が建っている。生命を生み出す『水』が祀られている。また、この神殿の扉はエルフの能力によってのみ開閉される。

【カイム】
とある小国の元王子。カイム18歳の誕生日、国を挙げての祝日となったその日に両親がブラックドラゴンに惨殺される。ブラックドラゴンは「天使の教会」に属していると囁かれており、以降、カイムは同教会と密接な関わりを持つ帝国への憎しみを募らせていくばかりか、父のあまりな死に様に培ってきた優しささえ失いつつあった。もはや頼れるのは自分の力＝剣のみであるとばかりに…。国を失ったカイムは妹のフリアエと旅に出るが、その直後、フリアエの身体に“オシルシ”が浮き上がり、有無を言わさず女神として召喚される彼女とは離ればなれになる。孤独の身となったカイムは、その剣術の腕を活かし連合軍に兵士として参加。自分の怒りを鎮めるべく殺戮を繰り返している。



【神】
超越的絶対者。エゴだけ強い不穏な失敗作「人間」を抹殺したがっている。ドラゴンをはじめとするモンスター全般の本能には、そんな神の意志が反映されている。唯一、人間だけが神の操作できない突然変異的生物。

【教典】
フリアエが肌身離さず持っている女神信仰の教典。その教典の真理を読み解いた者には、森羅万象の知識が授けられるという。赤い塔の絵などが描かれている。

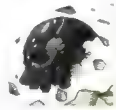
【黒き兵士】
帝国軍精鋭部隊。悪しきドラゴンに選ばれ、魂を捧げたものが黒き兵士となる。その力は通常の力をはるかに上回り、幾多の刃がその身を切り刻んでも闘うことを止めないという。

【契約】
人間が人類以外の生物(モンスター)と心臓を交換し、生死を共にすることで、新たな力を手に入れ運命共同体の存在となる行為。人間と人間以外の生物の利害が一致したときにのみ契約が成立する。モンスター達は、人間の強い負の感情(エゴ)に惹かれ、契約をすることが多い。但し、ドラゴンのような誇り高き生物は、下等な生き物である人間と契約することは極めて稀である。また、人間は契約の代償として、その人間にとって最も大切な身体の機能をひとつ失う。人間は強力な力と魔力。モンスター(精霊)達はそうした契約者の「負の心」を浴び、かつ己の「負の心」を契約相手の人間になすりつけることで、彼らは一段高い生き物へと解脱していく。しかし、人間は契約のせいで己の負の心が増大し、制御が効かなくなって精神的自滅の危機にさらされ続ける危険性もはらむ。普通、モンスターは単なる人間には目もくれないが、あまりにも負の感情が強い人間に出会うと、強力に惹きつけられる。それは人間で言うと恋とか愛に近い感情で抗うことができない。種族によっては不利な契約になることがあるので、契約者になれるものはあまりいない。

【契約者】
他の誰よりも「生き残りたい！」という生存本能の強い人間は「契約」という生存手段を切り拓くことが多い。それは理性を超えた時点での選択となる。つまり、エゴの強い人間こそが「契約者」になるのだ。フェアリー等、人間以外の契約者は、そんな人間の負の感情に惹きつけられて行動する。その為、契約者には特殊な精神構造を持つ人間が多く、社会生活を送る上で明らかに問題のある者も珍しくない。契約者となった人間は強大な膂力と魔剣を操る力を手にする。魔法を操る時間を制約することで、敵の魔法防御を貫通する能力を発揮する事が出来る者も居る。

【“声”】
契約者同士の思念による言葉。テレパシー。“声”を持つ者は離れた場所からでも喋ることができる。また、その能力は周辺にいる者たちの生命の危機を感じとる。モンスターなど原始的な種族は“声”を使うことが出来るが、普通の人間は進化の過程でその能力を失ってしまっている。

【ゴーレム】
岩の塊。知能も思考能力もない。が、セエレと契約したゴーレムのみ、哀しみに反応する心を持っていた。その心が天涯孤独となったセエレに惹きつけられ、契約を結ぶ。そして友情らしきものを不器用に育んでいく。契約者の中でエゴに重きをおかない希有な例。他に「マッドゴーレム」がいる。



【コロシアム】
遥か昔、横暴と贅沢の限りを尽くした皇帝が築造した闘技場。皇帝亡き後、王国は滅亡したが、朽ち果てた遺跡には今でも亜人たちによって残虐な勝負を愉しむ狂喜の宴が繰り広げられている。

さ行

【“再生の卵”】
封印が解かれると世界に発生する「世界の破滅から人間を守る装置」……人間界の神話に登場する“再生の卵”はそう描かれている。ただ、封印を護る神官達の中では、この伝承を疑問視する声も多い。かつて世界に“再生の卵”が現れた記録はない。このため、存在そのものが伝説ではないかと見られている。

【祭壇】
天使の教会の司教があつらえた祭壇の上には不気味な玩具がぶちまけられ、異様な空間となっている。

【砂漠の神殿】
この世界が創造されてまだ間もない頃、漆黒の闇を照らす為に神が生み出した「光」。その「光」を祀る神殿

【砂漠の牢獄】
帝国軍の牢獄。日々、処刑が行われている。管理者に目をつけられ、処刑以外でなぶり殺される者、ずさんな衛生管理により伝染病や食中毒、栄養失調で死んでいく者も多い。別名「生ける地獄」。“赤い目”に侵されなかった要人や、手に負えない罪人が投獄されているらしい。

【サラマンダー】
火を司る精霊。常にウンディーネと共に行動する。性別はないが、口調は厳格な男性。崩れ落ちた牢獄の中でうごめき、生を渇望するアリオーシュのエゴに魅了され、彼女と契約を結ぶことになる。



【自衛隊　第6航空団　第303飛行隊】
石川県小松基地、中部航空方面隊に編成された飛行隊。部隊マークは1981年に306飛行隊創設と同時に霊峰白山守護神のドラゴンをデザインしたものに変更。ドラゴン自体は第303飛行隊の前身である第4飛行隊のコールサインのドラゴンから来ているとも言われている。1987年にF-15に機種転換された。

【シャドウ】
この世に未練を持つ者が復讐の為に、黒いオーラに包まれて現われる姿をシャドウと呼ぶ。魔界での契約による強靭な肉体と魔力を持つが一定時間しか現世に出現することが出来ない。また一度きりしか出現することが出来ず、シャドウになった者の魂は現世から戻ると永遠に冥界を彷徨うことになる。

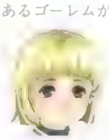
【呪文】
口ずさむことにより、言霊として現れる力。肉体を超えた核に直接働きかける。代表的な用途として神官長が使う封印の呪文などが挙げられる。また、呪文の効果を利用して攻撃・回復などに利用する場合は「魔法」と呼ばれることが多い。もともとは“オシルシ”の文様として浮かび上がる呪文列を解読して編み出された。このため、神官長は“オシルシ”のあらわれた女神候補がどこにいても呪文を反響させることで呪文列を読み、探し出すことが出来る。

【神官】
封印に関する神事を執り行う人間。各国から選抜され、宗派を超えた聖職者達によって構成されている。1年のうちの大半を神殿巡礼にあてる放浪者。

【神官長】
民間人と触れ合うことを禁じられた女神が唯一、接触できる相手。最終封印である女神の安全をはかることを第一の業務とし、神官長自身もあまり人前には出てこない。神官達の長であり実質上連合軍の司令官、とかなりの権力を行使できる立場にあり、民間からの尊敬を集めている。神官長は特定の宗教・教団には所属していない。封印をコントロールするための神官という公的な職があり、それを統括する立場にある。現在はヴェルドレがその任に就いている。

【スフィア】
魂魄。敵を一定数連続で倒すと魂が「スフィア」と呼ばれるエネルギー球になり、契約者はスフィアを取得することで様々な効果を得ることが出来る。

【セエレ】
双子の兄。母からたっぷりと愛情を注がれて育った心優しい子。しかし、母に虐待を受けて育った双子の妹・マナのことを思いやれなかったことを今でも後悔している。母親の意志により、[illegible]る。セエレにはモンスターが惹かれるような悪意は存在しないが、契約相手であるゴーレムが（他のゴーレムとは異なり）思考能力に劣った部分があり、他の選択肢を持たなかったために、この契約が成立した。



た行

【対魔法用特殊甲冑】
帝国軍が開発した甲冑。金属に魔法儀礼が施されたエルフの生き血を塗り込めることで魔術への耐性をもたせている。また、その血はドラゴンの灼熱の炎からも身を守る。[illegible]、この甲冑を生産した。

【「ちいさい勇者さま」】
古くから人々の間に語り継がれている神話のひとつ。「昔々、あるところにひとりの勇敢な兵士がおりました。兵士は時の滴を飲み干し、世界の穴で眠っておりました。ずっと、ずっと、若くて強い、そのままの姿で……」セエレは寝る前に母からこの話を聞くのが好きだった。そして無意識レベルにまで刷り込まれたこの話こそが、セエレの契約の代償を決定づけた。



【帝国】
帝国は、各国から結成された軍隊名であり、固有の地名をあらわさない。帝国は「司教」と呼ばれる指導者によって統率されている。
「帝国」という呼称は連合軍が与えたもので、自称ではない。また自称する名称は存在しない。領土が目的ではないので、領土は持たない。「帝都」と呼ばれる場所は最初に帝国が滅ぼした国の首都である。

【帝国軍】
帝国を構成する者達の総称。全員が「天使の教会」の信者である。
初めは注意に値しない少数勢力であったが、短期間のうちに人数強さ共に著しい伸びを見せ、連合軍を脅かす存在になった。飛び抜けた技術力に裏打ちされた武器と憑かれたような団結力が強さの原因らしい。残虐かつ冷淡。赤い眼を光らせ、一糸乱れぬ隊列で無言のまま迫ってくる姿は不気味以外の何者でもない。



【帝国軍軍旗】
帝国軍の掲げる旗。三つ目の双子と翼が描かれている。「天使の教会」の教義にあるように天使については描写が禁じられている為、そこの描かれているのは司教を模した図案である。旗の布は生贄に捧げられた処女の血に14日間浸すことで染め抜かれている。

【帝国軍護衛部隊】
帝国軍屈指の精鋭部隊。邪悪な魔術により、極限まで身体能力が高められている。

【「天使の教会」】
(1)帝国の構成員が信奉する謎の宗教の呼称。
(2)伝染病。この病気に感染した人間やモンスターは眼が赤くなる。また言語機能不全を引き起こす場合や声が変質するケースも確認されている。感染経路・潜伏期間は不明。

【「天使の教会」の宮殿】
今は朽ち果て、廃墟になった宮殿。すべてはこの場所で「天使の教会」が生まれたことから始まる。始めは小さな無名の教団であったが、何者かの強大な力により信仰が武力を持ち、権力を持ち、帝国を操るまでの勢力に至る。

【「天使の教会」の教義】
天使を語ってはならない。
天使を描いてはならない。
天使を書いてはならない。
天使を彫ってはならない。
天使を歌ってはならない。
天使の名を呼んではならない。
なお、いっさいの解釈、記録、口承を禁じられている。

【ドラゴン】
地球上に現存するモンスター達の中で最強の生物。その体は己の意志と環境に応じ、日々進化していく。かつて幾度となくあった生存競争にも負けたことがなく、「神の遣い」と呼ばれる。他のモンスター達は本能的な畏怖をもってドラゴンには逆らわず、関わらず生きることを選ぶ。ただ人間族のみが愚かにも「自分達が一番強くなりうる」という幻想のもとに様々な技術進化を遂げ、ドラゴンをも制服しようとした。他に「ブラックドラゴン」や、伝説の種族と呼ばれる「エンシェントドラゴン」、亜種のワイバーンなどが存在する。また、誇り高く他のモンスターとの交流はほとんど無い。

は行

【ハープ】
[illegible]どこへ行く時も——たとえ戦場であったとしても——彼はそれを持っていく。

【封印】
「時間」「空間」「次元」を、現世界の進行にあわせるため、世界の秩序を正しく維持するためには、“おおいなる時間”をしかるべき場所に繋ぎとめておく必要があるとされている。「封印されし森」「砂漠の神殿」「海上神殿」の3ヶ所と「女神」と呼ばれる一人の女性に封印としての機能が付与された。古から、神殿の封印が破壊され、最終封印までもがすべて解かれてしまうと、無秩序な世界となり、全てが無に帰されてしまうと言い伝えられている。

【封印されし森】
緑濃くうっそうとした森の中に、生命を育む『空気』を祀った神殿がある。神殿は森に住むフェアリーたちによって守られている。

【フェアリー】
封印されし森に住む種族。体が小さく、すばしこい。羽根を動かすことで光を生じ、きれいな玉のように見える。フェアリーの集団が木立の中を抜けていく様子は「光の雨が降る」と表される。長のもとで集団生活を営んでいるが規制や規律は存在せず、森を出ていくも帰ってくるも自由。かわいい外見からは想像も出来ないほどの醜悪な性格を秘めている。



【付与魔術師】
帝国軍が持つ特殊部隊のひとつ。
岩に呪文を貼り付けることにより、マッドゴーレムを生成する。

【ブラックドラゴン】
最強といわれるドラゴン属の中で最も凶暴なドラゴン。人間を好んで食する。ある時期より帝国軍と密接な関わりを持つようになったようだ。



【フリアエ】
現女神。カイムの妹。イウヴァルトの元許嫁。国王の娘として何不自由なく素直に育ってきた。兄カイム、幼馴染みであり許嫁となったイウヴァルト、頼りになるふたりの男と共に過ごせる日々、彼女は幸せだった。しかし王子である兄の誕生日のその日、国王の両親を殺害され、フリアエの運命は狂い出す。やがて王国は滅び、カイムと旅に出るが、その直後に激痛とともにオシルシが身体に浮き上がり女神として認定される。女神としての人生、それはカイムやイウヴァルトとの永遠の別れを意味していた。彼らに近しい者の間では、フリアエ自身は兄と別れたくなかったのだが、神を恨む兄への思いやりからすべてを諦め、封印役の道を選んだのでは

ともっぱらの噂である。
世界が破滅に瀕したせいで、皮肉にもフリアエはカイムやイウヴァルトと再会することが出来る。もはや昔のように屈託のない子ども達ではなくなった今、彼女は何を想ってふたりの男を見つめるのだろう？　心の奥にある本当の気持ちにいつ気づくのだろうか？



【ブレスレット】
カイムとフリアエが持つブレスレット。王族である証。国を失った今は何の意味もなさないが、二人は今でも常に身に付けている。兄は復讐を忘れないため、妹は兄との絆を忘れないために。

ま行

【魔剣】
様々な経緯を経て魔力を持つに至った剣。その攻撃力の反面、使用者に多大なる肉体的・精神的な負荷をかけるため、事実上契約者にしか使うことができない。斬り殺した人間の血を吸い成長するという特性を持つ。その煌めきは多くの人間の理性を奪うと言われている。

【マナ】
セエレの双子の妹。母親に虐待を受け、愛に飢えて育った彼女が唯一生きる糧は神にすがることだった。雪の降る夜に実の母の手により捨てられ、寒さをしのごうと戦場に転がっていた帝国兵の死体の山に埋もれている時に"天使の教会"に感染し、神からの啓示を受ける。以降、常識でははかりかねる力を行使する神秘の司教として盲目的に「天使の教会」を突き進める。人の心の一番弱い部分を容赦なく責め立てるエキセントリックさに子どもの残酷さが見え隠れする。多くの屍を乗り越え、マナは進む。神の愛さえ勝ち得れば、母の愛も取り戻せると信じて……。



【魔法】
呪文を使用して得られる効果の中で実際に攻撃や治癒など戦闘に有用な物の総称。魔術と同義。その攻撃力・治癒力は大きいが、使用する者に大きな負荷をかける為、基本的には禁じられている。魔法の負荷に耐えうる身体になるため、常用する者は自らの肉体を改造している者が多い。また、一部の魔剣などにも封印されているが、契約者などの強化された人間以外に使いこなす事は難しい。魔法はその呼ばれる名前に意味があり、構成される言葉からその効果が決定される。効果の程は以下の通り。

その場で広がる……eye
地面から突き上がる……fang
周囲を回転する……horn
周囲を回転しながら広がる……feeler
治癒する……fruits
追尾する……voice
直線的に放出する…… wing
能力を高める……breath
上から降りかかる……claw
配置される……blood
弧を描く……nail

【女神】
"おおいなる時間"（時間と空間と次元）を現世界の正しい時間につなぎとめているクサビ。世界に点在する封印の大綱。最終封印。あらゆる時代にただひとりのみ存在し、世界の秩序を守る。前の女神が死んだ時に"オシルシ"が現れた者が有無を言わせず次の女神と認定される。その運命は絶対であり、一度認定されてしまったら女神個人のいかなる事情、望みがあろうと一生市井の生活には戻れない。ふだんの生活は幽閉状態。世間とは隔絶されて過ごす。女神の姿を見、会話を交わすのは神官長ただひとりだ。"オシルシ"の負荷により短命であり、子も産めない。永遠の孤独を生きている。

【女神の死】
最終封印の解除には女神の死が必要となる。その死因が他殺・自然死の場合は"オシルシ"は即座に次の女神に転移してしまい、封印は解除されない。女神自らが命を絶った場合のみ封印が解除される。解除された封印を再度封印する為には「次の女神」になりうる存在を探し出す必要があり、封印不在の空白の時間を作らぬように一定の任期を終えた女神には神官長が自殺を強制する。

【紋章】
契約者の体に刻まれる印。契約の代償としてなくした部分にあらわれる。烙印のようにも見える。



や行

【夜営キャンプ地】
カイム達がエルフの里に向かう途中に設営した場所。女神を守る為の兵とそれを賄う為の設備を含め15人の兵と6棟のテントからなる。3棟が居住用で残り3棟が武器資材保管用。清廉を旨とする女神は居住用の1棟を専有している。ただ、「夜になると決まった時間にイウヴァルトが女神のテントを訪れていた」との目撃談もある。

ら行

【レオナール】
森の隠者。己の性癖を恥じ、家族から離れて隠者となったが、家族が帝国に追われたため弟達を匿って暮らしていた。だが、森の奥で自慰に耽っていた時に、家を襲った帝国軍に弟達を惨殺される。死ぬより辛いこの経験が、彼を自害未遂そして契約へと駆り立てる。礼儀正しく戦いを避けようとするまっとうな神経の持ち主。一方で同性愛に依存する性癖がみられ、本人はそんな自分を激しく嫌悪している。弟達をみすみす殺してしまった悔恨と反省からか、旅の途中で知り合ったセエレに異常とも言える愛情を注ぎ込み、命をかけてでも彼を守り抜こうとしている。フェアリーとの契約で視力を失い、それゆえに離れたもの、隠れたもの、ものの本質が"視"える超感覚に優れる。



【レッドドラゴン】
ドラゴン属の中でもオーソドックスな種。高い知性を持ち、人と交わることを嫌う。誇り高い種族であることを自覚し、他の種族を蔑むことも多い。契約者とは"声"で会話する。



【連合】
正式名称：反帝国諸国連合。帝国に対する周辺諸国の連合組織。指導者は居ないが、最重要職である封印の管理は神官長のヴェルドレが行っている。

【連合軍】
連合が帝国に対する為に組織した軍の総称。各国が用意した正規軍と傭兵によって編成されている。

【連合軍軍旗】
連合軍が掲げる旗。平和を象徴する青で染められている。図案化された「盾」「剣」「冑」はそれぞれ「加護」「力」「勇気」を示す。

わ行

【忘れ貝】
二枚貝が離れ離れになった一片のこと。また、この貝を拾うと恋を忘れられるとも言われている。万葉集「若の浦に　袖さへ濡れて　忘れ貝拾へど妹は　忘らえなくに」（作者不詳）訳：若の浦で袖まで濡らして忘れ貝を拾うが、妻を忘れることが出来ない。



DRAG-ON DRAGOON 公式設定資料集 -The Materials-

Produce
冨澤 勝／若松久美子（SQUARE ENIX）

Planning & Editing
松下貴人／濱口正樹（株式会社 不知火プロ）

Design & Layout Operation
神田奈保子／奥野良子／堂 和昌／金子真呼／山本克信
（株式会社 WAN）

Writing (Story of DRAG-ON DRAGOON)
映島 巡

Cover Illustration
藤坂公彦（cavia）

Photographer
中筋 純

Cover Design
西村専治（office 1000）

Enemy Data Processing
金井 了（VAC CREATIVE）

Product Management
阿部謙一／飯坂佳裕（SQUARE ENIX）

Supervisor
柴 貴正／折方崇志（SQUARE ENIX）
横尾太郎（cavia）

Special Thanks
岩崎拓矢／横尾太郎／藤坂公彦／長谷川太郎（cavia）

2003年12月19日　初版第1刷発行

発行人　田口浩司
発行所　株式会社スクウェア・エニックス
〒151-8544
東京都渋谷区代々木3－22－7　新宿文化クイントビル

［書籍内容についてのお問い合わせ］
書籍編集部：03-5333-0879
月～金曜日／12：00-18：00（祝祭日除く）

［販売・営業に関するお問い合わせ］
出版営業セクション：03-5333-0832
月～金曜日／10：00-18：00（祝祭日除く）

DTP製版　株式会社DNPメディアクリエイト
印刷所　大日本印刷株式会社

定価はカバーに表示してあります。

Printed in Japan
ISBN 4-7575-1093-4 C0076





SQUARE ENIX

DRAG-ON DRAGOON

ドラッグ オン ドラグーン

公式設定資料集
The Materials

